

研究ユニット一覧

| | 主任研究者 | 国籍 | ユニット名 |
|----|------------------|----------|----------------|
| 1 | 銅谷賢治博士 | 日本 | 神経計算ユニット |
| 2 | 柳田充弘博士 | 日本 | G0 細胞ユニット |
| 3 | シドニー・ブレナー博士 | イギリス | 分子遺伝学ユニット |
| 4 | 丸山一郎博士 | 日本 | 情報処理生物学ユニット |
| 5 | 内藤隆之博士 | 日本 | 分子神経科学ユニット |
| 6 | ロバート・シンクレア博士 | オーストラリア | 数理生物学ユニット |
| 7 | 政井一郎博士 | 日本 | 神経発生ユニット |
| 8 | クラウス・シュティーフエル博士 | オーストリア | 理論・実験神経生物学ユニット |
| 9 | ジェフ・ウィッケンス博士 | ニュージーランド | 神経生物学研究ユニット |
| 10 | ゲイル・トリップ博士 | ニュージーランド | 発達神経生物学ユニット |
| 11 | ゴードン・アーバスノット博士 | イギリス | 行動の脳機構ユニット |
| 12 | エリック・デ・シュッター博士 | ベルギー | 計算脳科学ユニット |
| 13 | ファデル・サマテ博士 | フランス | 細胞膜通過輸送研究ユニット |
| 14 | 高橋智幸博士 | 日本 | 細胞分子シナプス機能ユニット |
| 15 | メリー・アン・プライス博士 | アメリカ | 発生分化シグナル研究ユニット |
| 16 | 佐藤矩行博士 | 日本 | マリンゲノミックスユニット |
| 17 | ジョナサン・ミラー博士 | アメリカ | 物理生物学ユニット |
| 18 | ホルガー・イェンケコダマ博士 * | ドイツ | 進化システム生物学ユニット |
| 19 | 北野宏明博士 | 日本 | オープンバイオロジーユニット |
| 20 | アレクサンダー・ミケエブ博士 * | アメリカ | 生態・進化学ユニット |
| 21 | 御手洗哲司博士 * | 日本 | 海洋生態物理学ユニット |
| 22 | ウルフ・スコグランド博士 | スウェーデン | 構造細胞生物学ユニット |

* 若手代表研究者

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

の 18～22 の研究ユニットは、平成 21 年度に新設

共同研究契約一覧

| 番号 | 相手方 |
|----|---|
| 1 | 国立大学法人琉球大学 |
| 2 | 独立行政法人理化学研究所 |
| 3 | 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター |
| 4 | 国立大学法人京都大学 |
| 5 | (株)国際電気通信基礎技術研究所 |
| 6 | 国内自動車メーカー基礎研究所 |
| 7 | 国内自動車メーカー研究所 |
| 8 | 国内自動車メーカー基礎研究所 |
| 9 | 国立大学法人京都大学 |
| 10 | 国立大学法人広島大学 |
| 11 | 学校法人久留米大学 |
| 12 | 学校法人日本医科大学 |
| 13 | 国立大学法人大阪大学 |
| 14 | 学校法人慶応大学 |
| 15 | オタワ大学 |
| 16 | オタゴ大学 |
| 17 | 国立大学法人新潟大学 |
| 18 | 国立大学法人琉球大学 |
| 19 | 国内半導体関連会社 |
| 20 | リオデジャネイロ大学 |
| 21 | INSTITUTE OF MOLECULAR AND CELL BIOLOGY |
| 22 | 国立大学法人東京工業大学 |

受託研究契約一覧

| 番号 | 件名 | 委託者 |
|----|---|----------|
| 1 | 分裂酵母におけるメタボロームの基礎技術の開発 | 科学技術振興機構 |
| 2 | 生物系科学分野に関する学術振興方策及び学術動向の調査研究 | 日本学術振興機構 |
| 3 | シンカイヒバリガイ <i>Bathymodiolus azoricus</i> のゲノム科学的解析: 化学合成細菌共生と極限環境応答のメカニズムの解明 | 科学技術振興機構 |

ブレナー博士(分子遺伝学ユニット)に対する研究評価について

1. 評価基準

ブレナー博士(分子遺伝学ユニット)は、次の観点から評価が行われた。

- (1) 研究課題の影響の大きさ
- (2) 研究課題を解決するための手法の選択
- (3) 達成した研究成果
- (4) 世界の他の研究機関で行われている研究と比較した独自性
- (5) 世界の他の研究機関との適切な連携関係の構築
- (6) 機構及びその周辺地域における研究能力の向上及び研究資源の構築

※ 評価基準は、代表研究者に対する研究評価ごとに設置される研究評価会において決めることとなっており、ある基準が他の基準より重視される場合がある。

2. ブレナー博士の活動内容

(研究内容)

- ・ サラマンダーの神経細胞における遺伝子の発現の解析
- ・ タコのゲノム解析
- ・ ヤツメウナギのゲノム解析

※1 2008年には、多数の研究者が利用できるリソースとして、機構内にシーケンシングの技術センターを整備するため、自らの研究ユニットのリソースを転用した。その後、当該施設は、佐藤博士によるサンゴの研究に活用されている他、柳田博士、ミケエブ博士、サマテ博士等により、広く活用されている。

※2 機構は、ブレナー博士の指導の下、カリフォルニア大学サンタクルーズ校におけるゲノム10Kプロジェクトに関して、共同研究の合意を結んでいる。このプロジェクトは1万種の動物のゲノムの解析を行うという国際的な取組である。機構は、北京ゲノム研究所とともに、予備的研究に参加する予定である。

3. 評価理由

研究評価においてブレナー博士が高い評価を受けた主な理由は次のとおり。

- (1) サラマンダープロジェクトは独創的であり、特に神経系や他の組織における細胞の特異性に関する遺伝子制御の基本的理解に大きく貢献する重要な科学のイニシアティブである。サラマンダーをモデル生物として発展させる研究は、線虫の研究が英国ケンブリッジ大の分子生物学研究所にて加速されたように、こうした種の生物の研究の核となり得る。また、タコやヤツメウナギの研究も、高等動物の進化を理解する上で鍵となる研究である。
- (2) ブレナーユニットを通して機構においてゲノム解析を確立し実施することは機構の共有の研究リソースに大きく貢献している。ブレナーユニットによって達成されたシーケンシング技術の発展及びシーケンシングの成果は今後の研究の重要な基盤を提供するものである。また、機構は、近隣の研究所にある沖縄県関連の次世代シーケンシング施設とも連携しており、地元の専門家らの支援や研究強化に資する機会も提供されている。

※ 内藤博士(分子神経科学ユニット)は、同じ評価委員会により、基本的には同様の基準によって評価を受けたが、同博士は、ブレナー博士とは別に、自分自身の複数のプロジェクトを実施しており、評価対象となった活動実績も異なっている。

代表研究者及び若手代表研究者 選考基準

代表研究者の選考基準

1. 卓越した研究能力を有すること
2. 博士号または同等の学位を有すること
3. 大学院レベルでの、質の高い教育実績を有すること
4. 大学院生の指導における優れた実績を有すること
5. 研究、教育、カリキュラムの策定及びその他の関連活動における、指導力を発揮した実績を有すること
6. 外部研究資金を獲得する能力を有すること
7. 特許の取得や起業の能力を有すること
8. 同僚、学生等、周りの人と協調し、有効な関係を維持する能力を有すること
これには若手スタッフの育成を含む
9. 他の研究グループと積極的に交流し協調する意欲を有すること

若手代表研究者の選考基準

1. 卓越した研究能力を有すること
2. 博士号または同等の学位を有すること
3. 大学院レベルでの、質の高い教育実績を有すること
4. 大学院生を指導する能力を有すること
5. 独立した研究プログラムを率いた実績を有すること
6. 外部研究資金を獲得する能力を有すること
7. 特許の取得や起業の能力を有すること
8. 同僚、学生等、周りの人と協調し、有効な関係を維持する能力を有すること
9. 他の研究グループと積極的に交流し協調する意欲を有すること

日本人と外国人の比率は約 50 : 50 を維持する。

沖縄科学技術研究基盤整備機構は、職員の雇用における機会の均等、差別撤廃を掲げており、女性の応募を奨励している。

採用の条件

代表研究者又は若手代表研究者のいずれかの職位で採用する。採用基準は、上記のとおりである。初回の任期は5年であり、任期に対して予算が付与される。これには、代表研究者、研究スタッフの給与、機器及び運営費用が含まれる。研究プログラムはすべて5年ごとに評価が行われ、業績が挙げられている研究については更新される。平成24年に大学院大学へ移行した後の代表研究者及び若手代表研究者の職位については、テニユア・トラックの教授、准教授、助教に移行する予定である。

平成21年度 研究職員採用一覽

| 役職別 | 人数 |
|-------|------|
| 主任研究者 | 5 名 |
| 研究員 | 21 名 |
| 技術員 | 10 名 |
| 計 | 36 名 |

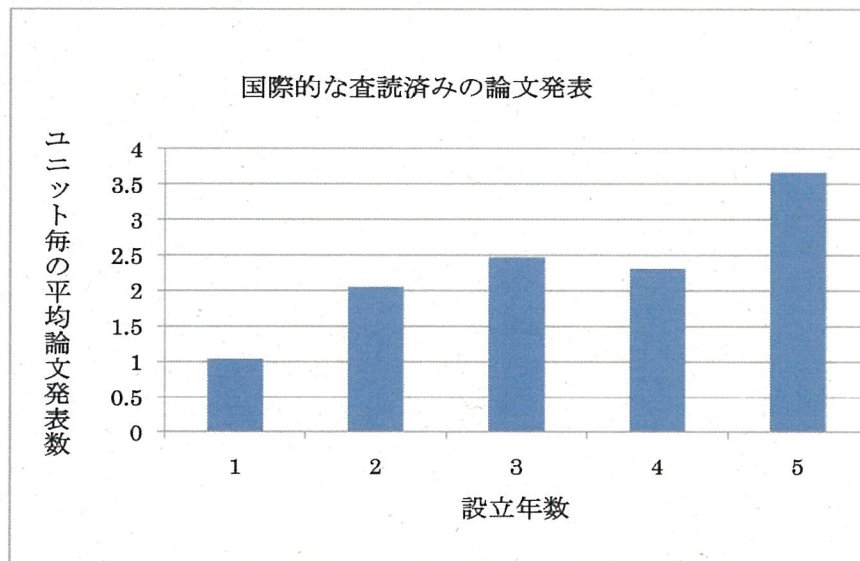
| 年代別 | 人数 |
|-----|------|
| 20代 | 5 名 |
| 30代 | 24 名 |
| 40代 | 4 名 |
| 50代 | 1 名 |
| 60代 | 2 名 |
| 計 | 36 名 |

| 性別 | 人数 |
|----|------|
| 男性 | 29 名 |
| 女性 | 7 名 |
| 計 | 36 名 |

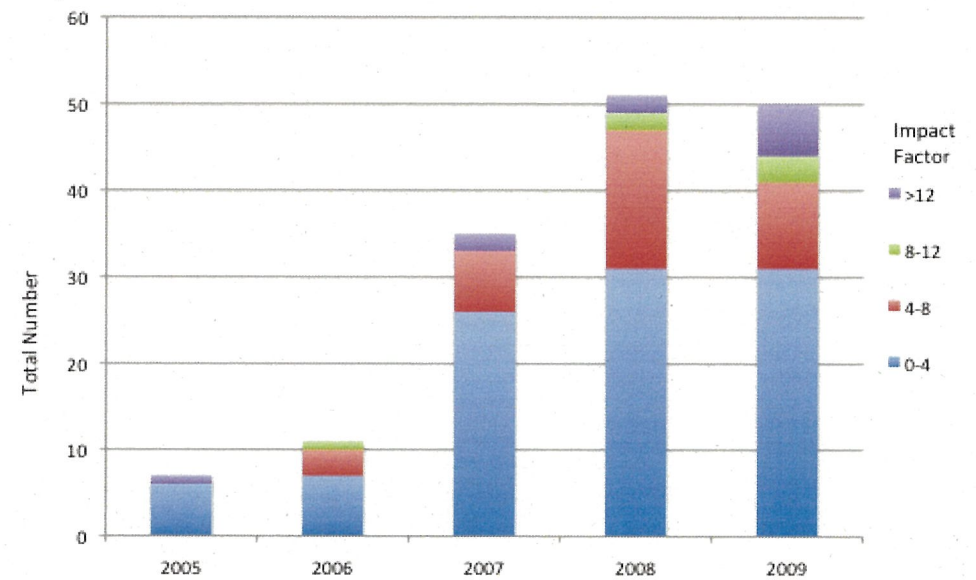
| 国別 | 人数 |
|--------|------|
| 日本 | 19 名 |
| アメリカ | 3 名 |
| イタリア | 2 名 |
| スウェーデン | 2 名 |
| フランス | 2 名 |
| オーストリア | 1 名 |
| 韓国 | 1 名 |
| 中国 | 1 名 |
| ドイツ | 1 名 |
| ブラジル | 1 名 |
| ペラルーシ | 1 名 |
| メキシコ | 1 名 |
| ロシア | 1 名 |
| 合計 | 36 名 |

論文発表数等について

在籍年数と研究成果との関係



インパクトファクター別論文の推移



2009年にOISTより発表された論文の掲載誌、インパクトファクター一覧

| | 学術誌タイトル | インパクトファクター (Web of Science JCR 2008 による) | 発表論文数 |
|----|---|--|-------|
| 1 | Nature reviews Molecular Cell Biology | 35.423 | 1 |
| 2 | Nature Biotechnology | 22.297 | 1 |
| 3 | Lancet Neurology | 14.27 | 1 |
| 4 | Neuron | 14.17 | 1 |
| 5 | Trends in Cell Biology | 13.385 | 1 |
| 6 | Molecular systems biology | 12.243 | 2 |
| 7 | Genome Research | 10.176 | 1 |
| 8 | PROCEEDINGS OF THE NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES OF THE UNITED STATES OF AMERICA | 9.38 | 2 |
| 9 | Journal of Neuroscience | 7.452 | 4 |
| 10 | Journal of Cell Science | 6.247 | 1 |
| 11 | Cerebral Cortex | 5.907 | 1 |
| 12 | Plos Computational Biology | 5.895 | 1 |
| 13 | Journal of Physiology | 4.649 | 2 |
| 14 | Developmental Biology | 4.416 | 2 |
| 15 | Physics Today | 3.674 | 1 |
| 16 | Journal of the Royal Society Interface | 3.621 | 1 |
| 17 | Neuropharmacology | 3.383 | 1 |
| 18 | Reviews in the Neurosciences | 3.188 | 1 |
| 19 | BEHAVIOURAL BRAIN RESEARCH | 3.171 | 2 |
| 20 | Genes to Cells | 3.137 | 1 |
| 21 | Journal of neuroscience research | 3.086 | 1 |
| 22 | Neuroinformatics | 2.889 | 2 |
| 23 | Journal of Computational Neuroscience | 2.75 | 1 |
| 24 | Biochemical and biophysical research communications | 2.648 | 1 |
| 25 | Neuroscience Research | 2.473 | 1 |

| | 学術誌タイトル | インパクトファクター (Web of Science JCR 2008 による) | 発表論文数 |
|----|--|--|-------|
| 26 | Development Growth and Differentiation | 2.317 | 1 |
| 27 | Journal of Applied Physics | 2.201 | 1 |
| 28 | Experimental Brain Research | 2.195 | 1 |
| 29 | Development Genes and Evolution | 2.171 | 1 |
| 30 | Network-Computation in Neural Systems | 1.333 | 1 |
| 31 | Zoological Science | 1.1 | 1 |
| 32 | Nuclear Instruments & Methods in Physics Research Section a- Accelerators Spectrometers Detectors and Associated | 1.019 | 1 |
| 33 | ANNALES DE L INSTITUT HENRI POINCARÉ--ANALYSE NON LINEAIRE | 0.878 | 1 |
| 34 | Experimental Animals | 0.711 | 1 |
| 35 | Acta Crystallographica Section F- Structural Biology and Crystallization Communications | 0.606 | 1 |
| 36 | Neural Network World | 0.395 | 1 |
| - | BEHAVIORAL AND BRAIN | データなし | 1 |
| - | Frontiers in Neuroinformatics | データなし | 1 |

平成21年度 国際ワークショップ一覧

| 開催日 | テーマ | 主催者 | 講演者 | 開催地 | 参加者 |
|------------------------|---|---|--|------------------|--|
| 1 2009年5月13日-15日 | 国際ワークショップ 「量子力学の基礎と応用」 | 外村彰 (OIST) | チェン・ニン・ヤン (清華大学名誉教授) 1957年ノーベル物理学賞 ピーター・グリュンベルグ (ユーリヒ総合研究機構名誉教授) 2007年ノーベル物理学賞 クラウス・フォン・クリッツィン (マックス・プランク研究所教授) 1985年ノーベル物理学賞 他16名 (OIST主催者1名を含む) | OIST シーサイドハウス | 講演者 19名 (海外10, 日本 9) 参加者 20名 (海外 6, 日本14) 聴講者 2名 (海外 1, 日本 1) 合計 41名 (海外17, 日本24) |
| 2 2009年6月15日-7月2日 | 国際サマースクール 「沖縄計算神経科学コース2009」 | エリック・デ・シュッター (OIST) 綱谷賢治 (OIST) クラウス・シュティエフェル (OIST) ジェフ・ウィッケンズ (OIST) | マイケル・ハウザー (ロンドン大学 ユニバーシティ・カレッジ教授) ダニエル・ウォルバート (ケンブリッジ大学教授) 他16名 (OIST主催者4名を含む) | OIST シーサイドハウス | 講演者 18名 (海外15, 日本3) 参加者 8名 (海外 8, 日本0) 聴講者 29名 (海外24, 日本5) 合計 55名 (海外47, 日本8) |
| 3 2009年9月8日-10日 | 国際ワークショップ 「強化学習の脳神経メカニズムと注意欠陥多動性障害 (ADHD)」 | ゲイル・トリップ (OIST) | - | OIST シーサイドハウス | 講演者 12名 (海外11, 日本1) 参加者 16名 (海外 8, 日本8) 聴講者 5名 (海外 5, 日本0) 合計 33名 (海外24, 日本9) |
| 4 2009年11月2日-7日 | 国際ワークショップ 「DNAトポロジー」 | ロバート・シンクレア (OIST) | - | OIST シーサイドハウス | 講演者 14名 (海外12, 日本2) 参加者 23名 (海外21, 日本2) 合計 37名 (海外33, 日本4) |
| 5 2009年11月9日-12日 | 国際ワークショップ 「網膜: 神経幹細胞と光受容体の変性」 | 政井一郎 (OIST) | - | OIST シーサイドハウス | 講演者 15名 (海外10, 日本 5) 参加者 42名 (海外12, 日本30) 合計 57名 (海外22, 日本35) |
| 6 2009年11月29日-12月2日 | 国際ワークショップ 「第4回分裂と停止の細胞制御」 | 柳田充弘 (OIST) | - | OIST シーサイドハウス | 講演者 41名 (海外13, 日本28) 参加者 31名 (海外 8, 日本23) 合計 72名 (海外21, 日本51) |
| 7 2009年12月7日-12日 | 国際ウィンタースクール 「生物複雑系の進化コース2009」 | シドニー・ブレナー (OIST) 佐藤矩行 (OIST) | ダニエル・ロクサー (カリフォルニア大学バークレー校教授) トーマス・ボッシュ (クリスチャン・アルブレクト大学長) ニバム・パテル (カリフォルニア大学バークレー校教授) マイケル・レヴィン (カリフォルニア大学バークレー校教授) 他6名 (OIST主催者2名を含む) | OIST シーサイドハウス | 講演者 10名 (海外 7, 日本 3) 参加者 36名 (海外15, 日本21) 合計 46名 (海外22, 日本24) |
| 8 2010年2月23日-25日 | 国際ワークショップ 「ガルダ・ワン」 | 北野宏明 (OIST) | - | OIST シーサイドハウス | 講演者 13名 (海外 7, 日本 6) 参加者 8名 (海外 1, 日本 7) 合計 21名 (海外 8, 日本13) |
| 9 2009年5月25-27日 | 協賛ワークショップ 「ニューロコンピューティング研究会」 | 電子情報通信学会 綱谷賢治 (OIST) | - | OIST シーサイドハウス | - |
| 10 2009年6月5日 | 協賛ワークショップ 「並列生物情報処理イニシアティブオープンワークショップ in 沖縄2009」 | IPAB | エリック・デ・シュッター (OIST) 綱谷 賢治 (OIST) 関口 智嗣 (NAIST) 建部 修晃 (筑波大学) | OIST シーサイドハウス | - |
| 11 2009年6月21日-25日 | 協賛学会 「第5回国際ホヤ学会」 | 佐藤矩行 (OIST) | - | 沖縄産業支援センター | - |
| 12 2009年8月9日 | 協賛ワークショップ 「脳と心のメカニズム」 | 神経計算ユニット (OIST) | - | ウエルシティ札幌 | - |
| 13 2009年12月15日-17日 | 協賛ウィンタースクール 「生体計算モデル」 | 北野宏明 (OIST) | - | OIST シーサイドハウス | - |
| 14 2010年1月29日-2月2日 | 協賛学会 「第5回日中友好幾何学交流会」 | 宮脇礼子 (東北大学) | - | OIST シーサイドハウス | - |

平成21年度 セミナー一覧

| | 開催日 | テーマ | 主催者 | 講演者 | 開催地 | 参加者 |
|----|----------------|--|---------------------------|--------------------------------|-----------------|--|
| 1 | 2009年4月7日 | 「上皮組織の移動-細胞と組織の機械生物学」 | 丸山 一郎 (OIST) | ポール 松平 (シンガポール国立大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 18名 (海外 5, 日本13) 合計 19名 (海外 6, 日本13) |
| 2 | 2009年4月10日 | OIST 社内セミナー 「Fpi計算とRNA干渉」 | - | 浜野 正浩 (OIST シンクレアユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 25名 (海外10, 日本15) 合計 26名 (海外10, 日本16) |
| 3 | 2009年4月10日 | OIST 社内セミナー 「単一シナプス小胞から放出された神経伝達物質はポストシナプスの受容体を飽和させるか」 | - | 江口 工学 (OIST 高橋ユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 25名 (海外10, 日本15) 合計 26名 (海外10, 日本16) |
| 4 | 2009年4月21日 | 「マラリア薬剤とワクチン開発のための大腸菌を利用したマラリア原虫のスポロゾイトタンパク質の発現と構造解析」 | ファデル・サマテ (OIST) | ヨン ホ・ユン (横浜市立大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 9名 (海外 7, 日本 2) 合計 10名 (海外 8, 日本 2) |
| 5 | 2009年4月23日 | 「アフリカツメガエルにおける雌雄で異なる鳴き声のパターン形成」 | メリー・アン・プライス (OIST) | 山口 文子 (ポストン大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 25名 (海外12, 日本18) 合計 31名 (海外12, 日本19) |
| 6 | 2009年4月24日 | 「鼻が脳に何を伝えるかを見る-覚醒状態のラットとマウスに見られる能動的センシングと匂いのプログラミング」 | メリー・アン・プライス (OIST) | マシュー・ワコヴィアック (ポストン大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 28名 (海外14, 日本14) 合計 29名 (海外15, 日本14) |
| 7 | 2009年5月11日 | 「全ゲノム配列の物理学及びゲノム成長と進化の意味」 | ジョナサン・ミラー (OIST) | H.C.ポール・リー (台湾国立中央大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 5, 日本 5) 合計 11名 (海外 6, 日本 5) |
| 8 | 2009年5月15日 | OIST 社内セミナー 「ロボットの行動進化における複数の種交配戦略の出現」 | - | ステファン・エルヴィング (OIST 銅谷ユニット) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 35名 (海外16, 日本19) 合計 36名 (海外17, 日本19) |
| 9 | 2009年5月15日 | OIST 社内セミナー 「ヘッジホッグシグナル伝達エフェクターである転写因子Gliの部分分解のメカニズムとその進化的保存性」 | - | メリー・アン・プライス (OIST) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 40名 (海外18, 日本22) 合計 41名 (海外19, 日本22) |
| 10 | 2009年5月19日 | 「システム生物学: 現状と将来の見通し」 | エグゼクティブオフィス | イゴール・ゴリヤニン (英国エジンバラ大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外15, 日本 0) 合計 16名 (海外16, 日本 0) |
| 11 | 2009年5月25日-26日 | ニューロコンピューティング研究会・バイオ情報学研究会・合同ワークショップ 「DNA配列の超保存と複製超保存」 | - | ジョナサン・ミラー (OIST) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 45名 (海外 5, 日本40) 合計 46名 (海外 6, 日本40) |
| 12 | 2009年5月28日 | 「細胞内物質輸送のモデリングにおける結合排他過程」 | ジョナサン・ミラー (OIST) | コンスタンティノス・ツェコウラス (米国ライス大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 8名 (海外 6, 日本 2) 合計 9名 (海外 7, 日本 2) |
| 13 | 2009年6月10日 | 「逐次選択技法による全方位到来方向推定」 | ジョナサン・ミラー (OIST) | エディ・タムフェール (富士通) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 8名 (海外 6, 日本 2) 合計 9名 (海外 7, 日本 2) |
| 14 | 2009年6月26日 | 「深海生物と化学生合成細菌との共生: 共生形成の新たなモデル」 | 佐藤 矩行 (OIST) | フランソワ・ラリー (パリ第6大学・フランス国立科学研究所) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 16名 (海外 6, 日本10) 合計 17名 (海外 7, 日本10) |
| 15 | 2009年7月3日 | 「視床と皮質のニューラルコーディングにおける同調性の役割」 | クラウス・シュティーフェル (OIST) | ビン・ワン (ソーク研究所) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外10, 日本 5) 合計 16名 (海外11, 日本 5) |
| 16 | 2009年7月6日 | 「淡蒼球における発火変動性をチャンネル密度分布で説明 - 生理学的及びコンピュータシミュレーションのデータベースを用いたアプローチ」 | 銅谷 賢治 (OIST) | チェンギス・グナイ (エモリー大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 21名 (海外11, 日本10) 合計 22名 (海外12, 日本10) |
| 17 | 2009年7月10日 | OIST 社内セミナー 「注意欠陥・多動性障害がみられる男児の強化の頻度に対する感受性の違い」 | - | ゲイル・トリップ (OIST) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 25名 (海外11, 日本14) 合計 26名 (海外12, 日本14) |
| 18 | 2009年7月10日 | OIST 社内セミナー 「生きた脳からの定量的ペプチド回収のための改良型精密ろ過プローブ」 | - | マイケル・チャンドロ・ロイ (OIST 内藤ユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 50名 (海外15, 日本35) 合計 51名 (海外16, 日本35) |
| 19 | 2009年7月13日 | 「内向き整流性カリウム (Kir) チャネル: 構造とメカニズム」 | 事業推進部 | 西田 元彦 (ロックフェラー大学) | OIST バイオセンター会議室 | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外10, 日本11) |
| 20 | 2009年7月15日 | 「分子電子トモグラフィとは?」 | 事業推進部 | ウルフ・スコグランド (カロリンスカ研究所) | OIST バイオセンター会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外11, 日本10) |
| 21 | 2009年7月21日 | 「活性依存性神経成長円錐ガイダンスと軸索の特性」 | 事業推進部 | 西山 誠 (ニューヨーク大学医学部) | OIST バイオセンター会議室 | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外10, 日本11) |
| 22 | 2009年7月22日 | 「有糸分裂染色体の構造と機能」 | 事業推進部 | アレキサンダー・ストロニコフ (米国国立衛生研究所) | OIST バイオセンター会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外11, 日本10) |
| 23 | 2009年7月22日 | 「中脳ドーパミン細胞の機能設定と過剰予期効果への反応」 | ジェフ・ウィッケンス (OIST) | ルカ・アキリ (セント・アンドリュース大学大学院) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外 9, 日本 6) 合計 16名 (海外10, 日本 6) |
| 24 | 2009年7月23日 | 「3次元低温電子顕微鏡法により無傷細胞のゲノムと機能の相互関係を示す」 | 事業推進部 | ルイス・コモリ (ローレンスバークレー国立研究所) | OIST バイオセンター会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外11, 日本10) |
| 25 | 2009年7月27日 | 異文化セミナー | 伊藤 圭子 (OIST トリップユニット) 人事課 | ウェスリー・上運天 (サンフランシスコ州立大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 24名 (海外 7, 日本17) 合計 25名 (海外 8, 日本17) |
| 26 | 2009年7月28日 | 「神経発生におけるパターン形成: 個眼クリスタル形成の動的モデル」 | メリー・アン・プライス (OIST) | ニコラス・ペーカー (アルバート・アインシュタイン医科大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 28名 (海外10, 日本18) 合計 29名 (海外11, 日本18) |

| | 開催日 | テーマ | 主催者 | 講演者 | 開催地 | 参加者 |
|----|-------------|---|----------------------|------------------------------------|------------------|--|
| 27 | 2009年7月29日 | 「ショウジョウバエの成長・ホメオスタシス・癌化抑制にみられる細胞間の食食と競合」 | メリー・アン・ブライス (OIST) | ニコラス・ベーカー (アルバート・アインシュタイン医科大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 32名 (海外14, 日本18) 合計 33名 (海外15, 日本18) |
| 28 | 2009年7月31日 | 「線条体シナプス可塑性: ドーパミンだけではない」 | ゴードン・アーバスノット (OIST) | ジェームス・サーマイヤー (ノースウェスタン大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外11, 日本10) |
| 29 | 2009年8月3日 | 「皮膚処理と神経調節系」 | 事業推進部 | 小林 俊輔 (ケンブリッジ大学) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 8, 日本 3) |
| 30 | 2009年8月3日 | 「視覚的意識の神経メカニズムの解明」 | 事業推進部 | アレキサンダー・マイヤー (米国国立精神衛生研究所) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 9, 日本 2) |
| 31 | 2009年8月3日 | 「規則的分離可能な離要素: 規則に基づく行動は前頭内側部と前頭前野部の別々の部位に依存する」 | 事業推進部 | ファラド・マンズーリ (理化学研究所脳科学総合研究センター) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 9, 日本 2) |
| 32 | 2009年8月3日 | 「報酬に基づいた意思決定における視覚運動表現の脳活動信号」 | 事業推進部 | イゴール・カーガン (カリフォルニア工科大学) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 9, 日本 2) |
| 33 | 2009年8月4日 | 「行動の切り替えとモニタリングにおける内側前頭前野の役割」 | 事業推進部 | 磯田 昌岐 (理化学研究所脳科学総合研究センター) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 8, 日本 3) |
| 34 | 2009年8月4日 | 「視覚的意識と意思決定に関わる視床-皮質間の相互作用」 | 事業推進部 | メラニー・ウィルケ (カリフォルニア工科大学) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 9, 日本 2) |
| 35 | 2009年8月5日 | ミニシンポジウム 「ショウジョウバエ運動神経回路の形成と可塑性: シナプスから機能まで」 | メリー・アン・ブライス (OIST) | 能瀬 聡直 (東京大学) | OITG サロニウム | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 20名 (海外 5, 日本15) 合計 21名 (海外 5, 日本16) |
| 36 | 2009年8月5日 | ミニシンポジウム 「テロシンホスファターゼ受容体LARIはミオシンIIの機能を制御し、軸索ガイダンスに影響を及ぼす」 | メリー・アン・ブライス (OIST) | デイビッド・パン・バクター (ハーバードメディカルスクール) | OITG サロニウム | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 5, 日本15) 合計 21名 (海外 6, 日本15) |
| 37 | 2009年8月5日 | 「新規行動の獲得決定と発見における段階的ドーパミンシグナルの役割」 | ゴードン・アーバスノット (OIST) | ピーター・レッドグレイブ (英国シェフィールド大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外10, 日本 5) 合計 16名 (海外11, 日本 5) |
| 38 | 2009年8月6日 | 「皮膚介在ニューロンの不規則発火への偏微分方程式によるアプローチ」 | クラウス・シュティーフエル (OIST) | バーナード・エングリツ (マックスプランク脳研究所) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 21名 (海外15, 日本 6) 合計 22名 (海外16, 日本 6) |
| 39 | 2009年8月17日 | 「樹状突起のシグナル伝達をシステム神経科学と行動に関連づける」 | 事業推進部 | バーン・クーン (プリンストン大学) | OIST バイオセンター 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 9, 日本 2) |
| 40 | 2009年9月11日 | OIST 社内セミナー 「システムバイオロジーはいかにして細菌二次代謝の進化を理解するのに役立つか」 | - | ホルガー・イエンケコダマ (OIST) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 35名 (海外25, 日本10) 合計 36名 (海外26, 日本10) |
| 41 | 2009年9月11日 | OIST 社内セミナー 「静止状態細胞のメタボローム解析」 | - | トマーシュ・ブルスカル (OIST 柳田ユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 40名 (海外25, 日本15) 合計 41名 (海外26, 日本15) |
| 42 | 2009年9月14日 | 「ラット線条体のアセチルコリン作動性抑制性細胞の神経支配」 | ゴードン・アーバスノット (OIST) | レイチェル・サイズモア (オタゴ大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外 7, 日本 5) 合計 13名 (海外 8, 日本 5) |
| 43 | 2009年10月16日 | OIST 社内セミナー 「神経成長因子シグナルは、あらかじめ形成されたTrkAホモダイマーにより細胞内に伝達される」 | - | 沈 達英 (OIST 丸山ユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 32名 (海外 9, 日本23) 合計 33名 (海外10, 日本23) |
| 44 | 2009年10月16日 | OIST 社内セミナー 「コユビドリイシ・ゲノムプロジェクト」 | - | 新里 宙也 (OIST 佐藤ユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 48名 (海外27, 日本21) 合計 49名 (海外27, 日本22) |
| 45 | 2009年10月26日 | 「有顎脊椎動物のHox遺伝子クラスターと脊椎動物Hox遺伝子クラスターの進化」 | 丸山 一郎 (OIST) | ピラッパ・ヴェンカテッシュ (シンガポール国立分子細胞生物学研究所) | OIST バイオセンター 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外 7, 日本 8) 合計 16名 (海外 8, 日本 8) |
| 46 | 2009年11月6日 | 「非平衡膜電位: 電位差イオン感知を最大限まで上げる」 | クラウス・シュティーフエル (OIST) | アンジェイ・レウエンスタム (フィンランドオーボ・アカデミー大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 21名 (海外15, 日本 6) 合計 22名 (海外16, 日本 6) |
| 47 | 2009年11月13日 | 「健康と病気時における発達段階での網膜細胞ネットワークの可塑性」 | ゴードン・アーバスノット (OIST) | イブリン・セナガー (英国ニューキャッセル大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 18名 (海外13, 日本 5) 合計 19名 (海外14, 日本 5) |
| 48 | 2009年11月16日 | 「粘液細菌の新薬開発における利用」 | ホルガー・イエンケコダマ (OIST) | ロルフ・ミュラー (ドイツザールランド大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外 6, 日本 6) 合計 13名 (海外 7, 日本 6) |
| 49 | 2009年11月30日 | 「小脳プリキン細胞可塑性と恒常性に関する細胞構築の役割: 実験とシミュレーション」 | エリック・デ・シュッター (OIST) | トーマス・ローニー (理化学研究所脳科学総合研究センター) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外20, 日本10) 合計 31名 (海外21, 日本10) |
| 50 | 2009年12月11日 | OIST 社内セミナー 「自由に移動するネズミの新線条体のドーパミン濃度のリアルタイム測定値」 | - | 李 昱廷 (OIST ウィッケンズユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 19名 (海外10, 日本 9) 合計 20名 (海外11, 日本 9) |
| 51 | 2009年12月11日 | OIST 社内セミナー 「皮膚ニューラルネットワークにおける情報処理の神経調節」 | - | マリア・イリーナ・ウーシサリ (OIST シュティーフエルユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 39名 (海外25, 日本14) 合計 40名 (海外26, 日本14) |
| 52 | 2009年12月14日 | 「美しいべん毛の世界における特殊なベン毛」 | ファデル・サマテ (OIST) | 相沢 慎一 (広島大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 9名 (海外 7, 日本 2) 合計 10名 (海外 7, 日本 3) |
| 53 | 2009年12月15日 | 「形態を考慮したモデルニューロンのスパイクタイミング依存可塑性」 | クラウス・シュティーフエル (OIST) | ニコランジェロ・イアネラ (理化学研究所脳科学総合研究センター) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 17名 (海外 9, 日本 8) 合計 18名 (海外10, 日本 8) |

| | 開催日 | テーマ | 主催者 | 講演者 | 開催地 | 参加者 |
|----|-------------|--|----------------------|------------------------------------|--------------------------------|--|
| 54 | 2009年12月17日 | 「アイソフォーム依存性トロポモジュリン・トロポミオシンの結合調整メカニズム」 | ファデル・サマテ (OIST) | アラ・コスチューコバ (ロバート・ウッド・ジョンソン医学校) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 11名 (海外 8, 日本 3) 合計 12名 (海外 9, 日本 3) |
| 55 | 2009年12月21日 | 「嗅覚並列処理経路の2光子イメージング」 | 銅谷 賢治 (OIST) | 永山 晋 (テキサス大学ヒューストン校) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 11名 (海外 3, 日本 8) 合計 12名 (海外 3, 日本 9) |
| 56 | 2009年12月22日 | 「シー・エレガンスと幹細胞の内因性アルゴノート結合部位の発見」 | エグゼクティブオフィス | ジーン・ヨー (カリフォルニア大学サンディエゴ校) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 25名 (海外 23, 日本 2) 合計 26名 (海外 24, 日本 2) |
| 57 | 2010年1月15日 | OIST 社内セミナー 「新しい生息地への侵入を促進する過性無性アリによる珍しい有性生殖」 | - | アレクサンダー・ミケエブ (OIST) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 43名 (海外 23, 日本 18) 合計 44名 (海外 26, 日本 18) |
| 58 | 2010年1月15日 | OIST 社内セミナー 「5量体細菌ペニシリン毛フックキャップ蛋白質の構造と機能」 | - | 松波 秀行 (OIST サマテユニット) | OIST IRP ラウンジ | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 12名 (海外 5, 日本 7) 合計 13名 (海外 5, 日本 8) |
| 59 | 2010年1月21日 | 「ヒトゲノムの進化的に保存されたシス調節エレメントの同定と解析」 | ジョナサン・ミラー (OIST) | ピラッパ・ヴェンカテッシュ (シンガポール国立分子細胞生物学研究所) | OIST バイオセンター 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 25名 (海外 15, 日本 10) 合計 26名 (海外 16, 日本 10) |
| 60 | 2010年1月25日 | 「テクノロジー成熟と経営」 | 総務課 | 所 眞理雄 (ソニーコンピュータサイエンス研究所) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 20名 (海外 5, 日本 15) 合計 21名 (海外 5, 日本 16) |
| 61 | 2010年2月10日 | 「総合ベスト対策管理のためのインパルス制御戦略」 | ロバート・シンクレア (OIST) | ポール・ジョージエスク (ヤシエ科大学) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 5名 (海外 3, 日本 2) 合計 6名 (海外 4, 日本 2) |
| 62 | 2010年3月5日 | 「魚類の後胚発生期における皮膚による外線パターンの制御」 | 政井 一郎 (OIST) | 和田 浩則 (PRESTO、独立行政法人 科学技術振興機構) | OIST IRP 会議室 | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 14名 (海外 4, 日本 10) 合計 15名 (海外 4, 日本 11) |
| 63 | 2010年3月8日 | 「認知アーキテクチャと合成知能」 | エリック・デ・シュッター (OIST) | ヨシユア・バッハ (MicroPsi) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 35名 (海外 25, 日本 10) 合計 36名 (海外 26, 日本 10) |
| 64 | 2010年3月10日 | 「生物医学的な機能の画像化：ブレイン・コンピュータ・インターフェースと磁気ナノマーカー」 | ロバート・シンクレア (OIST) | マインハルト・シリング (ブラウンシュヴァイク工科大学) | OIST キャンパス ラボ 1 D棟 会議室 1 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 14名 (海外 9, 日本 5) 合計 15名 (海外 10, 日本 5) |
| 65 | 2010年3月19日 | 特別講演 「小脳の電氣的に結合した介在神経細胞ネットワークの特質」 | 高橋 智幸 (OIST) | アンガス・シルバー (ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン) | OIST シーサイドハウス | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 44名 (海外 28, 日本 16) 合計 45名 (海外 29, 日本 16) |
| 66 | 2010年3月23日 | マリンゲノミクスセミナーシリーズ 「脊椎動物起源の進化過程の解明」 | - | 佐藤 敦子 (OIST 佐藤ユニット) | OIST キャンパス ラボ 1 C棟 会議室 1 | 講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 24名 (海外 9, 日本 15) 合計 25名 (海外 9, 日本 16) |
| 67 | 2010年3月25日 | シリーズ 1 「認識論と神経科学」 | クラウス・シュティーフェル (OIST) | ジョン・ジェイコブソン (ソーク研究所 & UCSD) | OIST キャンパス ラボ 1 D棟 会議室 1 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 23名 (海外 15, 日本 8) 合計 24名 (海外 16, 日本 8) |
| 68 | 2010年3月26日 | シリーズ 2 「認識論と神経科学」 | クラウス・シュティーフェル (OIST) | ジョン・ジェイコブソン (ソーク研究所 & UCSD) | OIST キャンパス ラボ 1 D棟 会議室 1 | 講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 23名 (海外 15, 日本 8) 合計 24名 (海外 16, 日本 8) |

ワークショップアンケート

Fundamental of Quantum Mechanics and Its Applications

量子力学の基礎と応用

日付: 2009年5月13日~5月15日

回答数 26 件 (講師 10、参加者 11、聴講者 2、その他 2、不明 1)

1. 講義内容

優良(22)、良(3)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

- ・ 皆さん素晴らしかった!

2. 会場設備

優良(23)、良(3)、可(0)、不可(0)

- ・ 素晴らしいミーティング環境だ!

3. 食事

優良(19)、良(7)、可(0)、不可(0)

4. エクスカーション

優良(21)、良(5)、可(0)、不可(0)

5. 事務局

優良(24)、良(1)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

6. 旅行手配

優良(25)、良(1)、可(0)、不可(0)

7. 沖縄の印象

優良(22)、良(4)、可(0)、不可(0)

8. その他のご意見、ご提案

- ・ 素晴らしい機関だ!
- ・ 講師は素晴らしいのに聴衆があまりいない!
- ・ 最高! ありがとう!
- ・ 外村先生と彼のスタッフ、またこの OIST スタッフは、本当に突出した仕事をした。またここに戻りたいと思う。
- ・ 全てが素晴らしかった! ありがとう!
- ・ このミーティングを大いに享受した! 新しい交流関係を得て、新しい物理学と技術を学んだ!
- ・ 参加者がポスターの場所まで案内してもらえれば、もっと良かった。ポスターパネル設置場所と講義室はあまり関係がなかったの、ポスターに来る人が少なかった。
- ・ とても良いワークショップだ。
- ・ 5月半ばはイギリスの大学にとって理想的な時期ではない(学生の試験に近い)!
- ・ このワークショップは素晴らしく、私には役立った。
- ・ このワークショップをととても楽しんだ。この手のミーティングは国際協同研究を拡大するために極めて重要だろう。
- ・ 尽力に感謝。

ワークショップアンケート

Okinawa Computational Neuroscience Course (OCNC) 2009

沖縄計算神経科学コース 2009

日付: 2009年6月15日~7月2日

回答数 35 件 (講師 7、チューター6、参加者 22)

1. 以下の点に関して、コースの印象はいかがでしたか

1. 講義内容

優良(13)、良(17)、可(1)、不可(0)、未回答(4)

- ・ 拝聴した講義は素晴らしかった。
- ・ 拝聴した講義はとても良かった。
- ・ 講義は、概ね関連分野の基礎から先端まで取り扱っていた。
- ・ テーマ間の関連付けをもっとはっきりさせたら良いと思った。例えば、私の講義は、Wolpert の講義の前だったらもっと効果的だったかもしれない。
- ・ 多分、私は実験主義者の人の話に偏見がある。
- ・ とくに意見なし。

2. 講師、参加者との午後ミーティング

優良(20)、良(10)、可(3)、不可(0)、未回答(2)

- ・ 学生との午後ミーティングはとても良かった。いろいろなテーマについて充実した議論ができた。
- ・ 良かったが、学生との個人ミーティングがあればもっと生産的だったと思う。グループの中で学生にのびのび自由に話をさせるのはちょっと難しかった。
- ・ 学生は積極的で、自分自身の専攻プロジェクトについて講師と熱心に議論した。
- ・ とても楽しかった。
- ・ 教員との個人(1対1)ミーティングがあれば一層有意義な時間をすごせたかもしれない。
- ・ 実に楽しかった。
- ・ ランチタイムの歓談は不要。科学的テーマについてまじめに議論するのに良い機会。
- ・ ミーティングのテーマは、科学的というより哲学的であった。
- ・ 改善点として、ミーティングの進め方をあらかじめ決めておくやり方もあった - 例えば一般的な議論とするプロジェクトに関連して問題解決を探る、など。
- ・ 該当せず。

3. 参加者のプロジェクト

優良(13)、良(13)、可(2)、不可(1)、未回答(6)

- ・ プロジェクトの最終ステータスまで見るには至らなかったが、それぞれのプロジェクトについて多数の学生と話をした。それぞれ非常に優れたプロジェクトという印象を受けた。
- ・ この面で実地の経験は乏しかったが、学生のプロジェクトについて学生との議論を楽しんだ。
- ・ 質の高さに感心した。
- ・ もう一度こうした機会があれば、「計算神経科学における適正な研究プラクティス」についても時間を割いて学生を指導したいと思う(私の生徒の大半は、この種の作業に経験がない)。また、次のミーティングまでに達成すべき、具体的な目標を数多く細かく設定したいと思う。
- ・ (私の講師には)プロジェクトの実施のときに大変お世話になった(NESTの学習、モデルの選択)。全般にわたり、たくさん助言をもらった(文献の送達、他の者の関連作業の指摘、ネットワークモデリングの経験の伝授など)。すべての質問にいつでも対応してくれた。
- ・ 自分のプロジェクトでの作業を通じて、たくさんのお話を学んだ。
- ・ (私の講師は)とても素晴らしい講師だった。一緒にたくさんのお話を学び、モチベーションも大いに高まった。
- ・ 自分自身に限って言えば、もっと多くの時間が必要だった。
- ・ 私の講師、バージットは、自由にやらせてくれて大いに励ましてくれたので私は自分の興味に合ったプロジェクトを進めることができた。バージットの知識はそれほど広くはなく NEST に限定されていたが、気軽に遠慮なく助けを求めることができた。Matthijs と Yann にも大変お世話になった。

- ・ (私の講師は) とても素晴らしかった。
- ・ とくに意見なし。

4. ポスター発表

優良(10), 良(16), 可(3), 不可(0), 未回答(6)

- ・ ポスター発表はまったく見なかった。
- ・ 見逃した。多分、来年は、開会に遅れて到着する教授陣のためにポスターを残すということにすれば良いのでは。
- ・ 見なかった。
- ・ これは見なかった。
- ・ 1日ないし2日間、ポスターをそのまま残すのが良い。全部を見るのは不可能だが、見に行くのは非常に面白い。
- ・ 初日すぎたらポスターを片付けなければならないのは残念だった。例えば、プロジェクト作業中に発生する疑問に答えるなど、後の議論のためにも、そのまましておくのが有益だと思う。
- ・ 全員を知り、みんなの作業を知るのに、ポスターは非常に効果的である。
- ・ コースの進んだ段階で、追加のポスターセッションがあったらと思う。
- ・ ポスターをもっと長く(コース期間全体にわたってまたは少なくとも最初の週の間) 掲示した方が良かったと思う。コースのいろいろなタイミングで、自分のポスターの内容を他の人に紹介したい、あるいは他の人のポスターを見たい(自分の研究に関連するテーマにその人たちが取り組んでいることをあとで初めて知った) と思うことも多かった。
- ・ 短すぎた。3日間にわたるようにすれば良かったと思う。
- ・ コースの導入として良かった。他の参加者を知り、自分と関心を同じくする人を「認識」するのに役立った。
- ・ 他の学生が取り組んでいることを知るのに役立った。
- ・ 最初の週全期にわたってポスターを掲示させた方が面白かったように思われる。
- ・ 第2セッションまでに多数の人が去ってしまうので、最初の2日間に2回ポスターセッションを開くのが良い。
- ・ 特に意見なし。

5. エクスカーション

優良(8), 良(14), 可(7), 不可(0), 未回答(6)

- ・ 該当せず。(3)
- ・ 参加しなかった。
- ・ 私が参加したエクスカーションは、沖縄科学技術大学院大学(OIST)(非常に立派だった) 視察とお城見学(面白かった)のみであった。代表的な沖縄観光(シュノーケリング、スキューバなど)のエクスカーションがもっと欲しかった。
- ・ 交通の便に難があるので、自由計画ではなくて、週末には、主催者企画による活動をもっと用意した方が良い。
- ・ 以前にOIST ビル敷地を視察したが、その時からの進捗を目にして大変感動した。
- ・ 教授会のため、参加し損なったエクスカーションもあった。
- ・ 勝連城址は、想像以上に素晴らしいところだった。
- ・ 文化的要素がもっとあれば良かった。教授会のため、お城見学にも参加し損なった。
- ・ 那覇と水族館を見学する企画旅行があれば良かったと思う。自分たちでグループ活動を計画するのが億劫な人たちは、こうした貴重な遺産を見学する機会を逃している。
- ・ ラボ視察は、良かった。お城見学は、あまり良くなかった。水族館の見学があればもっと良かったと思う。ミーティングとぶつかったため、エクスカーションに参加し損なったのは残念だった。
- ・ 特に意見なし。

6. 会場設備

優良(32), 良(3), 可(0), 不可(0)

- ・ 素晴らしかった。ただ、インターネットはやや低速だった。
- ・ 全体に快適で、仕事をするのが楽しかった。空調の関係で少し寒いことがあった。ミーティングルームにもっと延長コードを追加すると良いと思う。◎
- ・ 申し分なし。

7. 宿泊施設

シーサイドファカルティハウジング: 優良(1), 良(0), 可(0), 不可(0)

シーサイドハウス: 優良(26), 良(2), 可(0), 不可(0)

- ・ 講師にはシングル室を用意するのが良いと思う。
- ・ 現場にいられるのは、学生をケアするのに理想的。
- ・ 部屋は快適で眺めも良かった◎。清掃スタッフの仕事も上々で、困ったときにはいつも良くやって

くれた。

- ・ 完璧。
- ・ 立地、共同エリア、講義/ミーティング施設など、施設は素晴らしかった。但し、寝室の共有は全く心地悪い。

8. 食事

優良(30), 良(4), 可(0), 不可(0), 未回答(1)

- ・ 食事に必ずアレルギーの可能性を伝えるラベルが付いているのは本当に好ましかった。食べ物としてもおいしかった。
- ・ 非常に良かったが、食べ物を片付けるのが早すぎるがあった。時間にもっと融通を利かせてもらえると、助かったと思う。
- ・ ミーティング施設での食事は、素晴らしかった。リザンでの食事は良かった。
- ・ ベジタリアンでない者にも、もっと野菜の料理があった方がよかった。
- ・ とっても良かった。
- ・ ありがとう。

9. 事務局

優良(35), 良(0), 可(0), 不可(0)

- ・ お手伝いを良くやってくれた。
- ・ ようこ、あつこ、つゆき、最高だった!!!
- ・ 見事で、非常に親切なスタッフ。大いに感謝。
- ・ いつでも、助けてくれて、答えてくれた◎。協力で大いに感謝している。本当にありがとう。
- ・ 本当に助かった。
- ・ ありがとう。
- ・ 満点!

10. 旅行の手配

優良(24), 良(4), 可(7), 不可(0)

- ・ 旅行の手配は万事すこぶる順調だった。帰国の際、帰りの便のためもう少し早く空港に着いていたかった。搭乗にはまったく問題ないが、空港にはもう少し早く着いているほうが良い。
- ・ 事務局にはお世話になりスタッフ全員に感謝している。
- ・ 旅行規則の責任者に伝えたいこと: 旅行手配に関してこれほど困難な経験をしたのは初めて。日本に飛行機で移動するのは楽ではなく、あまり旅行に制限を加えられると、外国人講師にとっては参加する魅力が薄くなる。仕事の代償としてチケットをもらったのである。さらに、自分の休暇で日本国内を旅行するかどうかについてOISTは心配しなくても結構だ。
- ・ ストップオーバー(短期滞在)などに関して、規則の制約が過剰である。自分で追加料金を負担してもっと長く滞在できれば良かったのだが、それすら難しかった。ただ、厳密な規則のなかで、事務局スタッフは、非常に親切であった。このような厳しい規則をどうにかすることを事務局にはお願いしたい。
- ・ 素晴らしかった(ただ、滞在を延ばせないことはいつも気になる)。
- ・ コースの前または後に、数日過ごすことができれば良いと思う。とくに、航空運賃が同じかもっと安ければの条件付きで。
- ・ 非常に順調な運びであった。
- ・ 学生が日本観光やラボ視察ができるなど、旅行手配に融通が利けば、良いと思う。
- ・ 完璧。
- ・ 旅行手配/払い戻しの条件が最初からオープンに明示されていれば、自分で直接照会していたと思う。こちら側の誤解も避けられたと思う。
- ・ コース後もう少し滞在できれば、申し分なし!
- ・ もし東京のラボを視察すれば東京のストップオーバーも可能であることを知らなかったのが残念。

11. その他のご意見、ご提案

- ・ 全体に素晴らしい旅行だった。コースに参加させてもらったことに感謝している。
- ・ ミーティング会場にOISTが夏季教職員室を提供すれば良いと思う。
- ・ (自分の講義でも他の講師の講義でも) 講義の時に、集中しているのはおよそ50%で、他の50%の人は自分のコンピュータで作業していて、講義に参加していないようだった。これは理想的な状況ではない。この状況を回避するために、例えば、講義に参加するかどうかを出席者に自分で選択させて、インターネットへのアクセスを制限するなど、主催者は、なにか改善のための策を考えてはどうだろうか。
- ・ 参加者はみな間違いなく多くのことを学んだはずである。組織と施設も素晴らしかった。ただし、

いくつかの点で、コースの内容は学生の学習におそらく最適化されていないのではないかと思われた。例えば、講義には、多くの学生にとって、実践、問題解決、プログラミング作業を経て初めて理解できるような技術的内容を取り扱っているものもある。

- ・ 部屋とミーティングでのインターネット接続をもっと高速にした方がよい。
- ・ 多くの点でコースはとても良かったが、自分の講師にはあまり満足しなかった。例えばミーティング中の態度などに関して教えるのにおかしなアプローチをしていた。
- ・ Eugene Itzkevich がコースに来られなかったのには本当にがっかりした。
- ・ 提案：
 - ポスターセッションを午前と午後に分ける。
 - コース期間中にわたり、スペースを用意してポスターをそのままにしておく。
 - コース途中で学生に発表の機会を与える。その際には学生のやりたい研究テーマを発表のテーマとする。本人にとっては実際に自分たちのやりたいことに集中することができ、周りの者にとっては議論や協力のパートナーを見つけることが容易になる。コースの最後にも、個々の指導グループ内で、発表の場を設ける。
 - すべての「作業」終了後に、1日特別に追加すると、自分のプロジェクト以外のことを議論する時間ができる（おそらく、最終日に旅行を計画することになるのではないかと、多分那覇か）。
- ・ 他の人たち (Ping, Matthijs) も提案していたが、アドホックなジャーナルクラブを設けて、講師の指導の下で、次の講師の論文を含めて、共通に興味がある論文をいくつか学習するようにする。
- ・ 島を周遊するのもっと便利な方法があれば、良いと思う。

2. 将来のコースについての提案

1. もし来年もこのようなコースが開催されたら、同僚に申し込みをするよう勧めますか

- ・ はい。(14)
- ・ はい、きっと。(5)
- ・ 絶対に。(2)
- ・ もちろん。(2)
- ・ きっと。
- ・ 間違いなく。
- ・ はい、間違いなく。
- ・ はい！絶対に。
- ・ はい、ただしだれにでもではなく。
- ・ はい。実験主義者の人たちに推薦したいと思っている。ただし、複数の学生から聞いたところでは、このコースは、計算の基礎知識のない学生には適していない。
- ・ はい、間違いなく。このコースは、神経科学のサマーコースのなかで最良の一つである。
- ・ きっと。ただし、コースに改善の余地がないというわけではない。学生になにを学習してもらいたいか、そこに興味を集中するように講師には促したい、また、そのゴールを達成するのに講義が最善の形態かどうかを考えてもらいたい。学生によっては、チュートリアル（個別指導）/演習がより効果的な形態であるかもしれない。
- ・ はい。コースは自分にはとても有益だった。異なるテーマについて話を聞いたり、研究の関心を同じくする他の人たちと直に顔を合わせる良い機会になった。
- ・ はい。強く推薦したい。
- ・ 絶対に！すでに推薦した！
- ・ はい、そうしたい。ただし、予定講演者のリストを見直しすることを勧めたい。

2. コースの長さ（3週間は長いですか、短いですか）

- ・ 申し分ない。(3)
- ・ ほぼ妥当。(2)
- ・ 自分がいたのは5日間だけ。もう2日間程度長くいられば良かった。
- ・ 妥当な長さだと思う。
- ・ 自分には妥当ではない。自分自身の参加期間（5日間）はちょうど良かった。
- ・ ちょうど良い。
- ・ ぴったり過不足なし。
- ・ 妥当。
- ・ ちょうどぴったり。
- ・ 概ね妥当。
- ・ 外部講師には長い。
- ・ ほぼ妥当であろうが、2週間程度の経験者向け「上級コース」と、隣接分野の人向けの例えば4週間にわたる「基礎コース」の間で選択させるようにすれば最適と思われる。

- ・ 決して長すぎるということはない。
- ・ ちょっと短すぎる。
- ・ プロジェクトは講師陣による慎重な管理を必要とするが、このたび学んだことを活かして、この点で次回はきっともっと良い仕事ができると思う。
- ・ 3週間は、概ね妥当な長さであった。
- ・ まったく申し分ない。もっとも、もっとも快適に過ごしたと思う。◎
- ・ 申し分ない期間。
- ・ 概ね妥当な時間量だと思う。あるいは、もう1週間あった方が良かったかもしれない。
- ・ OKであった。
- ・ 適切。
- ・ 少し長すぎたが、学生が自分たちのプロジェクトに取り組む場合、必要。コース中に週末が2回あるのも大変良かった。私にとっては沖縄を十分に探検するのに必要であった。
- ・ ちょうどぴったりの長さ。
- ・ ちょうどぴったり。
- ・ 若干長すぎる。多分2週間が理想的。
- ・ いや、そうは思わない。ぴったり過不足なし。
- ・ 3週間は妥当。短いのは良くない。プロジェクトの発表後に、もう1日議論したり楽しむのに必要。
- ・ ちょうど良い。多分4週間でも。
- ・ ちょうどぴったり。これより短かったら、プロジェクトに集中するのが難しかっただろう。もっと長かったら、だらだらするよう促すことになっただろう。
- ・ 若干長すぎる。多分2週間が理想的。
- ・ 3週間は妥当な長さ（これより短くしてはいけない）。

3. 講師と参加者の間で十分に交流が持てましたか

- ・ はい。(8)
- ・ はい。よく準備されていた。一つだけ意見を述べたいのは、私の講義が自身の最終日になってということ。私の講義とワークショップの後に他の参加者が私と話ができる時間が数日もてるように、私の滞在を手配してくれていればもっと良かった。しかしこれはとても些細なコメント。滞在はとても楽しかった。
- ・ はい。ただ、グループミーティングのスケジュールではなく個人別ミーティングのスケジュールにしたい。
- ・ 一部のケースのみ。
- ・ まあまあレベルだった。
- ・ はい。ただし、自分の講義の前より後の方がかなり多かった。次回は、自分の講義が滞在期間の初めになるように、旅行をスケジュールしようと思う。
- ・ 十分ではなかった。
- ・ はい。主に食事の時に。
- ・ 今年は良かった。
- ・ はい。交流できたと思う。
- ・ 講師による。
- ・ 改善の余地あり。講師によっては、食事中主に他の講師と話をする傾向があったし、夕食後すぐに席を立てていた。毎週バーベキューをすれば、交流に役立つだろう。
- ・ はい。教授陣みな大変近づきやすく感じた。とくにだれかと話をしたければ、それもできたと思う。
- ・ はい。これは非常に良かった。
- ・ 事前に予定されていた教授陣とのミーティングは、非常に有益だった。これで交流しやすくなったと思う。◎
- ・ はい。とくに午後の教授会はとても良かった。
- ・ そう思う。
- ・ おおよそそう思う。参加者が、もっとシーサイドハウス周辺に出れば、もっと良かったと思う。しかしもちろんそれぞれにするべき事があるわけだ。
- ・ 講師によっては話をするのがちょっと難しいこともあった。
- ・ 十分だった。
- ・ 講師と学生が同じ場所に宿泊するようになれば良かったと思う。
- ・ 講師陣は1台のタクシーで一斉に自分たちのホテルに戻っていった。講師1人につきタクシー1台にしてはどうだろう。夕食後も講師と話をしたかった。
- ・ はい。大半の講師はフレンドリーで、交流は、学生の自発性の問題。
- ・ はい。午後のミーティングは、教授陣との間の垣根を低くするのに有益だった。夜間、教授陣のためのバス/タクシーの便にもっと融通を利かせることもできるのでは。そうすれば、教授陣も、自身が望む時には、シーサイドハウスにもっと長く居られる。
- ・ はい、講師は、しばらくの時間、あちこち動き回ってくれているように感じた。それで、話かけることができた。

- ・講師と話をするのがちょっと難しいこともあった。

4. 今後取り上げるテーマや招聘講師の提案

- ・バランスと重複を最適化する
- ・回路遺伝学。聴覚情景分析。
- ・生態系/環境などに比重を置いて、システム生物学の方向のテーマでなにか試してもらいたい。
- ・Matlab (マトラボ) チュートリアル。学生の関心をベースにして、事前準備されたソフトウェアチュートリアルをもっと。
- ・単純なモデリングだけでなく、機械学習、認知科学、神経形態工学 (ニューロモフィックエンジニアリング).....
- ・Eugene Izikevich が、どうしてもコースに出席できず、講義が聞けなかったのは残念だった。他に講演者として下記を推奨したい。Cristof Koch, Terry Sejnowski, Ad Aertsen, Gyorgy Buzaki, Bruce McNaughton, Edvard Moser, Wolf Singer, Roger Traub, Nancy Kopell, Eri Miller
- ・Dietmar Plenz の招聘を推奨したい。彼の最新テーマがこの分野で議論を巻き起こすのは間違いなく、理論と実験を結び付ける興味深い観点を提供してくれるはずである。
- ・相関がニューラルコーディングに及ぼす影響 (Bill Bialek/Peter Latham/Sheila Nirenberg/Alex Reyes)、記憶と行動のモデル (Mike Hasselmo)、神経科学における理論とモデルの役割 (Eve Marder)。
- ・知覚神経科学、超小型回路、情報理論。講演者の候補として、Gilles Laurent, Karel Svoboda, Edvard Moser, Mike Hasselmo, Michael Brecht, Idan Segev。
- ・議論を呼んでいるテーマについて、2人の講師間のディベートを聞きたい。
- ・認知神経科学またはシステム神経科学。
 - データ分析方法についての話をもっと聞ければ良いと思う。
 - 非実験主義者として、各種データ記録手法の概要について話が聞ければ興味を抱くと思う (もっとも、多分、計算コースのテーマではないかもしれない◎)。
- ・Idan Segev, Magnus Richardsson
- ・神経系における可変性と不変性。
- ・Salk Institute の Tatyana Sharpee 助教授。彼女は私の友人である。
- ・講師本人の個人的研究についての話をもっと少なくてよかった。もう少し一般的な理論について話を聞きたかった。
- ・もっと理論を増やし、樹状突起は減らす。
- ・認知科学者 (Stanislas Dehaene, Etienne Koechlin など)。
- ・この OCNC は、完璧。
- ・システムレベルの計算神経科学に取り組んでいる人をもっと多く招くことを推奨したい。テーマに情報理論も含めても良い。
- ・とくに意見なし。

3. OISTについて

1. OIST をどのように知りましたか

- ・賢治とのつきあいを通して、以前に OIST を訪れたことがあった。
- ・このコースから知った。
- ・このコースを通じて。
- ・日本の科学者コミュニティを通じて。
- ・銅谷賢治から。
- ・Erik De Schutter を通じて。
- ・自分のラボのメンバーの多くが前に訪れたことがあるか、現在勤務している。
- ・最初は、Erik が招いてくれた。
- ・いろいろな通知を通じて。
- ・OIST 教授陣の講演招聘を通じて。何人かの友人が講演に招かれた。
- ・以前の OCNC 参加者。私自身も、2008 年の意思決定ワークショップのオープンプログラムに参加していた。
- ・OCNC を通じて OIST のことを聞いた。
- ・日本の友人。
- ・前に参加したことのある同僚を通じて。
- ・Comp Neuro のメーリングリスト。
- ・私のスーパーバイザーが、前のサマースクールで教えたことがある。
- ・以前の参加者から。
- ・以前の OCNC 参加者から。
- ・教授陣の名前で。

- ・プロジェクトが始まったときから知っていた。
- ・最初は、OCNC を通じて OIST のことを聞いた。
- ・同僚。
- ・スーパーバイザーから以前に薦められた。
- ・正直に言えば、このサマーコースで。
- ・ATR。すでに参加していた学生から。
- ・ポスドク (Timm Lochmann) と自分の指導教官 (Sophie Deneve) から。
- ・銅谷賢治がどこにいるか探していた。
- ・サマースクールを通じて OIST について聞いた。
- ・インターネットのリサーチで。
- ・計算神経科学サマースクールに出席するつもりだった。
- ・前に OCNC に参加した人たちを通じて。
- ・スーパーバイザーから以前に薦められた。
- ・最初 OCNC について聞いたことから。

2. OIST の印象

- ・非常にポジティブ。(2)
- ・非常に刺激的なところ。
- ・良い。
- ・素晴らしい。新しい建物が完成した時、今後数年でどのように成長するか楽しみ。
- ・良い環境で、予算は十分にあり、国際的。
- ・大いなる可能性を宿したユニークな場所である。
- ・非常に魅力的で、仕事をするのに良いところ。
- ・素晴らしいスタッフのいる素晴らしい施設。ただし、建設段階で難儀している。
- ・日本の大学院大学の革命的構想。
- ・本当に素晴らしい教授陣を擁して科学環境は充実している。教授陣との交流も旺盛。また、施設が素晴らしい。
- ・資金も組織も整っていて、世界クラスの教授陣が揃い、立地も美しいが、地理的、学問的に孤立している (しばらく学生は不在、と理解している)。
- ・将来は刺激的な場になりそうであるが、現状、科学的、社会的に孤立している。
- ・見事な研究施設 (潤沢な資金)。
- ・立派な研究施設という印象を受ける。
- ・研究実施に多大な支援を受けている良いところのように思われる。
- ・活力ある研究環境。ラボを通じてツアーに大変感銘した。
- ・良い、有望。
- ・素晴らしい。
- ・たくさんの可能性を宿している。
- ・絶大な資源と卓越した科学者の両方を擁する研究センターという印象。
- ・素晴らしい。ただ、世界からは若干隔絶している。
- ・素晴らしい構想である。成功を祈念している。
- ・科学を楽しむ活動的な場である。
- ・優れて学際的、非常にオープンで刺激的で、恵まれた研究条件。多文化であるが、統合に向けた努力がさらに必要。
- ・印象深く、興味をそそる、創造的なストラクチャー。
- ・とても良いところだ。沖縄が気に入っている。
- ・野心的な構想に基づく研究施設である。新キャンパスの開発がまもなく完成することを期待している!
- ・新キャンパスの建設立地に魅了された。
- ・素晴らしい環境であるが、遠隔の立地であることを考えると、希望通りの成長を遂げるのは困難かもしれない。
- ・有望な事業のように思われる。自由な学究の雰囲気を感じ入っている。
- ・素晴らしい構想である。成功を祈念している。
- ・良好な施設 - 非常に優秀な施設になる可能性がある。

3. OIST への求人応募を検討しますか

- ・はい。(13)
- ・はい、きっと。(2)
- ・それは分からない。
- ・しない。任期は終身であり、現在の勤務先の大学に大変満足している。ただ、私のポスドクに OIST への志願を推薦した。
- ・多分しない。科学自体は素晴らしいが、ここへの転居を妻に説得することはできないと思う。

- ・原則「はい」であるが、得失を十分に考えないといけない。
- ・いいえ。単純に家族の問題のため。
- ・はい。ただし、多分かなり短期間か、非常勤職のみ。
- ・現時点では、いいえ。
- ・はい。有な科学コミュニティの構築に協力しながら数年間研究に集中できるのは、非常に魅力的である。
- ・すぐにはない。多分、数年後、コミュニティが形成された時に。
- ・多分、いつかある日、人生の別の時期に。
- ・就職先がなかったら、検討したい。
- ・はい。ポスドクとして関心がある。
- ・検討したい。
- ・多分、一定期間ポスドクとして。
- ・（一緒に勤務することになる PI だけでなく、アイデアを議論する環境なども含めて）教授陣が私の研究ラインに一致すれば、多分はい。
- ・多分、数年後博士号を取得した時に。
- ・ポスドクとして、はい。
- ・一つの可能性として、はい。
- ・はい、ただし多分ポスドクとして。

4. もし応募する場合、沖縄に移る、または移らない、もっとも重要な要因は何ですか

- ・給与。
- ・OIST は、そこで一定の時期を過ごす人たちのために成功のキャリアパスを確立（証明）しなければならない。つまり、OIST の将来がなければならない。
- ・家族（妻の仕事、子供の通学）。
- ・私にとって一番の心配は、沖縄の地理的位置。加えて、上に記した旅行規則など、課される規則のいくつかも悩ましい。
- ・アクセス、家族。
- ・科学自体だけでなく、良好な生活の質も。
- ・パートナー - 仕事など。
- ・家族のサポート、遠隔の立地、教授陣や学生の質、言葉の壁、研究プログラム。
- ・家族の非常時の旅費と移動時間。子供の学校と医療。
- ・研究支援：財務（創始・運営コスト、ポスドク、旅費など）だけでなく、他の教授陣はどのような顔ぶれか、どのような共用便益が提供されるか（例えば、実験環境の構築のための作業室と技術者、招聘講演者によるセミナーと講演など）の点も含めて。
- ・活気に満ちた科学コミュニティ。
- ・移らない。文化の違いと、沖縄に大都市がないことが理由。日本語を話さない者にとっては、外国人の多く住む（東京のような）大都市の方が友人を見つけやすいから。
- ・OIST 周囲の施設、交通の便 - 少し孤立しているため。
- ・親のいるところからの距離。
- ・私にとって本当に大切なのは、学究の自由であり、自分の考えを述べ、上司に同意しない自由である。これは、日本の文化とは相容れないのではないかと危惧している。また、孤立するのを避けるため、会議への出席など旅行の機会がたくさん提供されるかどうか知りたいところである。
- ・私のパートナーの仕事の機会。
- ・興味深い島。
- ・言葉。
- ・オファーが来るかどうか。
- ・自分の関心分野での研究の質。
- ・新キャンパスの開設後の生活の質と実際に OIST に赴任する教授陣の質。
- ・私にとって、重要な要因は、恩納から主要都市までの距離だが、自動車を使えばそれほど問題にはならないと思う。
- ・研究環境。
- ・家族。
- ・研究テーマ／一緒に働く人たちの顔ぶれ
- ・移りたい理由は、銅谷賢治が OIST にいること。
- ・移りたくない理由は、大都市から離れすぎていること（最新の科学ニュースを把握しにくい）
- ・研究の質。実験主義者たる私にとって、はっきりしていないのは、1) 設備類を容易に入手できること（もっとも、銅谷と Wickens のラボを見学してこの心配は大部分解消されたが）、2) 他の科学者と十分な交流があること（サマースクールは素晴らしいが、それ以外の 48 週間がどうか）。妻が沖縄で仕事を見つけるのも難しいかもしれない。
- ・学究面での要因。どのような種類のプロジェクト、グループ、同僚か。
- ・遠隔立地を補うのに十分な旅費の予算が必要。最低 1 年に 2 回は帰省ができるように十分な休暇も

必要。

- ・沖縄に移るのに障害になる最大の要因は、OIST の遠隔立地であろう。島の他の場所を回るのに大変苦労し費用も嵩んだ。
- ・私にとって、重要な要因は、恩納から主要都市までの距離だが、自動車を使えばそれほど問題にはならないと思う。
- ・まずは OIST での職位／プロジェクトによる。

5. OIST のプロジェクトに関して他の意見やリクエスト

- ・優れた構想だと思う。
- ・OIST とホテル間のタクシーの問題は、自転車を数台用意すれば解決する。
- ・電子メールニュースグループを設けてはどうか。10 年毎に OCNC プログラム全体の同期会を開いてはどうか（自費負担で、他の同期生と会いたい）。最終完成後の建物も見たい！
- ・非常に面白い構想。成熟段階でプロジェクトの発展を見るのも興味深い。
- ・このまま進んでほしい…あなた方はすごいことをやっている。
- ・刺激的な事業であり、発展を期待している！
- ・OIST は、大きな可能性を秘めていると同時に克服すべき困難な課題もある非常に意欲的なプロジェクトである。文化間のギャップを埋めるのは難しい仕事であるが、反面、考えの異なる研究者間のこうした協力は、いったん確立されると、ことのほか実りが大きいものであることも確信している。プロジェクトの発展を期待している。
- ・有名で、思慮深い PI をもっと多く手配してもらいたい。沖縄という場所はやや不利である。
- ・OIST の進捗について最新の情報が得られるようにしたい。
- ・野心的なプロジェクトである。私の意見では、このプロジェクトは、初期から参加する PI の質にかかっている。遠隔の地ではあるが、最高の環境の中にいると感じられるなら、聡明な若い人たちは、参加することに喜びを覚えるだろう。
- ・幸運を祈る！

4. 全体的なコメント&提案

- ・OCNC は素晴らしいコースだ。参加させてもらったことに感謝している。
- ・素晴らしいコース。組織、運営も見事。とても素敵な時間を過ごし、講師に招聘されたことに感謝している。将来戻ってきたら、小さな提案を一つ：バイク/自転車をもつと、3 台使えるようにすると良いと思う。そうすれば教授陣も SH とリザン間をもっと楽に行き来できる。これで、（予約タクシーを使わなければ行き来できないこともなくなり）融通が増すことになる。
- ・首尾は上々。また会おう。
- ・大いにミーティングを楽しんだ。感謝している。自転車があったら、もっと楽に OIST 周辺を動ける。
- ・来年戻れるかは確かでないが、将来コースに参加したい気持ちがあることは間違いない。このユニークなコースを可能にしてくれてありがとう。
- ・OCNC2009 の講師として楽しんだ。機会を与えてくれてありがとう。
- ・1) 翌日の講演者に関心のある人のために数日毎のジャーナルクラブタイプの活動を提案したい。講演者の価値を最大限活用しない人がいるのは残念である。
- ・2) プログラムの 10 周年目に全 OCNC 参加者の同窓会を提案したい。そのときには同窓の人たちと再開し、新しい OIST の建物も見ることができるといい。
- ・3) 絆を維持し、記憶を新たにするために、また、OIST の最新情報を得るために、SFN で OCNC 同窓会/レセプションを毎年開催することを提案する。
- ・素晴らしいコースで、組織も見事。ポスターセッションは、やや短く、混んでいた。ポスターを後でも見られるように数日間壁や廊下のどこかにそのまま貼っておいたら、良かった。
- ・数学の方法論とアルゴリズムの学習を学生に促す努力がもっとあれば有益だったという印象がある。各種方程式を扱った入門講義は、発表の仕方がうまく、結構面白かったが、必要な数学の基礎知識とソフトウェアツールの使い方について十分に取上げていなかった。他方、例えば、Mathjis von der Meer の Matlab チュートリアル、Oliver Gewaltig の NEST チュートリアルなど、チュートリアルは非常に有益だった。
- ・OCNC2009 を成功させたこと、また、その一部として私を招いてくれたことに対して、主催者とスタッフに大いに感謝している。自身の教育/指導技能を高めるのにもとても良い機会になった。教授陣、学生、チューターとの交流のおかげで、いろいろと良い発想が生まれ、将来の協力のための着実な基盤づくりもできた。しかし、先に述べたように、いくつかのケースで、講義に明確な学習目標がないと感じた。学生になにかを教えることを目的に設計されているのではなく、研究の解説が主旨になっているように思われる。というのは、一部のケースで、内容がかなり技術的あるいは高度であるために、多くの学生が自分の既知の知識にこの新しい情報を結び付けられない、あるいはその他なんらかのかたちで積極的に関わって自分のものにするのもできないということが

- あったからである。多分、もっと充実した、実践的チュートリアルや問題解決セッションのメニューがあれば、この面で効果的であると思われる（一部はチューター主体のものにし、講師主体のものも加える）。その場合に、学生には、こうしたチュートリアルの全部をかみ砕かずに受けさせるのではなく、自分／自分のプロジェクトに最も関係の深いものを選択させれば良い。
- 全体にコースの運営は卓抜で、講演者の選択も良かった。ただし、方法論（メソッド）の部分は改善の余地があると思う。方法論の講師は、研究の結果にあまり重点を置かずに、純粋に理論を中心にすべきである。多分、その後チュートリアルでフォローする。
 - 著名な教授陣が一同に会しているチャンスを存分に活用するために、コース中に1回ないし2回、なにかのテーマでパネルディスカッションを見たい。
 - なにからなにまで大いに感謝している。
 - OISTでの時間は快かった。素晴らしいスクールを開いてくれた主催者に心から感謝している。非常に良い雰囲気、たくさん学んだ。他の学生や講師、チューターと時間を過ごせることは、コースの大きな利点であった。OISTで自分の時間にいることができた。
 - 私にとって本当に大切なのは、学究の自由であり、自分の考えを述べ、上司に同意しない自由である。これは、日本の文化とは相容れないのではないかと危惧している。同時に、孤立するのを避けるため、会議への出席など旅行の機会がたくさん提供されるかどうか知りたいところである。
 - たくさん学び、楽しい時を過ごし、多くの友人、連絡先ができた。ありがとう！
 - とても楽しく、とてもとても面白いコース。このような機会を設けてくれて本当にありがとう。
 - 全体に、沖縄で素晴らしい数週間だった。すこぶる楽しく時を過ごし、専門でもそれ以外でも、他の参加者とは有意義な議論を交わした。
 - 素敵な施設を訪れる機会をもらって大変感謝している。
 - みなさんにしてもらったすべてのことに感謝している。
 - このきらめく経験にもう一度ありがとう。
 - 素晴らしい。もう一度みなさんに感謝したい（組織、講師、事務局、そしてOCNCを素晴らしいコースとして盛り立てるすべてのみなさんに）。
 - 準備をありがとう。OCNCに出席できて本当に嬉しい。つゆき、竹内さん、あつこ、本当にありがとう！！
 - とても楽しいコース。素晴らしい講演者と素敵な立地。教育と探求の申し分ないバランス。
 - 素晴らしい時を過ごした。この経験の内実を成す作業と思索のすべてについて、みなさんに大変感謝している。
 - 素敵な施設を訪れる機会をもらって大変感謝している。
 - すばらしいコース。十分に堪能した。大いに推薦したい。

ワークショップアンケート

Reinforcement and Attention Deficit Hyperactivity Disorder (ADHD)

強化学習の脳神経メカニズムと注意欠陥多動性障害

日付： 2009年9月8日～10日

回答数 19件（講師8、参加者9、他〔聴講者〕2）

1. 講義内容

優良(18)、良(1)、可(0)、不可(0)

- 講演が多すぎるということはない。とても良かった。ディスカッションを気に入った。
- 神経科学の基礎と臨床の組み合わせは申し分ない - 主研究グループの発表が良かった。
- 素晴らしい発表→講演とディスカッションの一部について、もっと時間が与えられていれば、なお良かった。非常に啓発的で、とても良い学習経験であった！
- 割り当て時間がちょっと短いことがあった。
- 水準が非常に高かった。

2. 会場設備

優良(16)、良(3)、可(0)、不可(0)

- 素晴らしい映写設備。そつなく、万事順調に運んだ。
- 絶対的に美しい！
- 考えの及ぶすべての点で、完璧！申し分なし。
- マイクの使用をもっと促して。
- シーサイドハウスは、素晴らしい会場 - テクノロジーの面で大したことではないがいくつか困ったことがあった。
- 素晴らしい。

3. 宿泊施設

シーサイドハウス：優良(6)、良(2)、可(0)、不可(0)

- 1ヵ所にすべてが揃っていて素晴らしい。部屋は広々として設備は整っていた。
- 大変便利で、とても素敵な立地！

4. 食事

優良(17)、良(2)、可(0)、不可(0)

- 美味しかった。面白い風味で、バラエティも豊か。
- ベジタリアン用の食事が素晴らしい - ありがとう！
- 食事の質とバラエティに感心した。
- 抜群。

5. エクスカーション

優良(2)、良(9)、可(3)、不可(0)、該当せず(5)

- ツアーガイドの話すストーリーがとても気に入った。島の国日本についてもっと話を聞きたい。
- 万座毛までの旅はとても楽しかったが、店での時間が長すぎる（1時間15分）。もっと観光の方を増やしてほしい。
- 沖縄をいろいろ見物するのは良かった。ビーチも良かった。
- エクスカーションをすっかり楽しんだ。時間が決まっている中でできることの範囲には制約があった。

6. 事務局

優良(16)、良(3)、可(0)、不可(0)、該当せず(1) ※1名は「優良」「可」の両方に回答。

- 組織は素晴らしい。万事順調に運んだ。問題はなかった。
- とてもよく組織されていた。
- できれば、最初に正確な旅行規則を知っておきたい。

- ・ 優秀で、親切なホスト!
- ・ 主催者として、ワークショップスタッフの尽力は素晴らしいと感じた。ワークショップでのコミュニケーション全般についていくつか提案がある。

7. 旅行の手配

優良(11)、良(3)、可(0)、不可(0)、該当せず(5)

- ・ もうこれ以上改善の余地はないほどだった。
- ・ シーサイドハウスへのからの旅行については、便の支払い、予約の手配に少しトラブルがあった。そのためその後日本に残ることができた。しかしそうできて非常に感謝している。

8. 沖縄の印象

優良(17)、良(2)、可(0)、不可(0)

- ・ ここに住住。
- ・ 素晴らしい神経科学の研究機関、素晴らしい立地。
- ・ 残念ながら、探策の時間がなかったが、目にした限りで美しい印象をもった。探訪するのに素晴らしいところだ。

9. その他のご意見、ご提案

- ・ ありがとう!
- ・ 素晴らしいワークショップだった。非常に多くを学んだ。臨床疾患についてこれまでよりはるかに優れた洞察を得た。ADHDの臨床、基礎科学の研究者を結集させるのは素晴らしいアイデアだ。
- ・ 基礎科学者と臨床医間の対話を本当に楽しんだ。素晴らしい学習経験になった - フレンドリーで、学問的な環境のなか、実に多様な経験をもつグループに入って研究についてディスカッションするのは、とても良かった。ありがとう!
- ・ 素晴らしい会議だった。選ばれた学者、講師の水準は、最高だった。とても感動した。
- ・ この分野に関心のある現地の人(医師、臨床医、親など)が参加できていれば、もっと良くなっていただろう。
- ・ ことのほか楽しかった! 本当にありがとう。
- ・ なし (2)

ワークショップアンケート

DNA Topology DNAトポロジー

日付: 2009年11月2日~7日

回答数 29 件 (講師 11、参加者 18)

1. 講義内容

優良(19)、良(8)、可(0)、不可(0)、未回答(3) ※1名は「優良」「可」の両方に回答。

- ・ テーマ間のバランスをもっととってはどうかだろうか。いくつか繰り返し(重複)があり、難しい問題が多すぎる。
- ・ 参加者が何を言ったか知りたい。発表のスタイルは、コース形式から研究の解説まで、様々であった。最も効果的に進めるにはどうしたらいいのだろう。
- ・ セッションが少し長すぎた。昼食時に休憩を長くし、その代わりに夕食後に追加セッションを設けたら良かった。とにかく夜間には何もすることがなかった。
- ・ 数学手法の演習は有り難かった。
- ・ もっとメカニクスを取り扱ってはどうか - 単一分子。
- ・ テーマは素晴らしいかった。

2. 会場設備

優良(28)、良(1)、可(0)、不可(0)

- ・ 美しい会場。
- ・ 各座席個別に固定マイクを用意すれば助かると思う。
- ・ ワークショップに適した良い雰囲気。
- ・ これまでのなかで最高の施設。

3. 宿泊施設

シーサイドハウス: 優良(16)、良(0)、可(1)、不可(0)

4. 食事

優良(20)、良(8)、可(1)、不可(0)

- ・ 地元の食べ物をもっと出してもらえれば良かった。

5. エクスカーション

優良(10)、良(12)、可(5)、不可(1)、未回答(2) ※1名は「優良」「可」の両方に回答。

- ・ 万座毛ポイントがすごく近い! 午後水族館を見学できれば良かった。
- ・ 午後の時間全部を使って沖縄探訪する日があっても良かった。
- ・ 丸1日であればもっと良かった。
- ・ 個人的な好みであるが…水族館の類を見たかった。
- ・ 現地での時間がもっとあれば良かった。
- ・ 検査時間 (censor time) をどうにかしてもらいたい。
- ・ 参加しなかった。
- ・ 該当せず。参加していない。

6. 事務局

優良(27)、良(2)、可(0)、不可(0)

- ・ 良いアシストだった。鈴木敦子さんとフィブス志乃さん、ご協力ありがとう。

7. 旅行の手配

優良(26)、良(4)、可(0)、不可(0) ※1名は「優良」「可」の両方に回答。

- ・ 便がビジネスクラスなら良かった。

8. 沖縄の印象

優良(19), 良(6), 可(0), 不可(0), 未回答(4)

- ・ OIST の外の生活を見るのに十分な時間はなかったが…目にした限りで印象は素晴らしかった!
- ・ まだ何も見ていないので、あまり言えない。
- ・ 素晴らしいと口にするには、沖縄を探索する十分な時間も余地もなかった。
- ・ 美しいところ。
- ・ 沖縄をあまり見物していない。多分、町に出たい人のため夜にバスを手配するのが良いと思う。
- ・ 分からない。探索する時間はなかった。
- ・ 目にした限りで気に入ったが、あまり多くは見えていない。

9. その他のご意見、ご提案

- ・ 素晴らしい仕事!
- ・ ありがとう!!
- ・ ポスターセッションを設ければ、参加者が自分の作業を発表できる。参加者の研究がワークショップのテーマに直接関係していない時にも、異分野間で学び高めあえる。
- ・ この機会を与えてもらって感謝している。コースは生産的で、かつ、楽しかった。
- ・ 1日、午後フリーの時間があれば良かった。
- ・ また別のコースを楽しみにしている。
- ・ 素晴らしい仕事! 大変ありがとう。
- ・ 参加者のためのポスターセッション。なにか夜遅くの活動。動いている時間に比べて座っている時間が長すぎるので、なにかスポーツでも。数学/生物学のグループに分けて、少数(1~3人)の講師の話。
- ・ 会議週間の途中に1日の休み。
- ・ 少なくとも1週間に1回は、午後の代わりに夜間にコース/講義を入れる。そうすればその日の2回目の講義セットの前に、昼間の活動や気軽なコミュニケーションが可能になる。
- ・ お互いの作業を知るために初日にポスターセッション。セッションを夜間にして、日中に自由時間を与える。
- ・ 一部発表者を除いて、どの発表も良かった。もっとバックスケジュールを増やして。
- ・ 会議の後もう1日あれば良かった!
- ・ これ以上なにも必要ない。
- ・ コース内容に生物学のパートをもっと加えるべき。主催者と、とくに Dr. Robert Sinclair、鈴木敦子、ありがとう。
- ・ 素晴らしいコース-ワークショップ。Dr. Robert Sinclair に脱帽する。
- ・ 始めは考えが狭かった。このコースは、私に新しい科学的考察をもたらしてくれた。コースは素晴らしかった。このコースの成功に尽力されたすべての方々、素敵で素晴らしい人たちであったと申し上げたい。
- ・ テーマは良いが、私自身は、生物学と数学のもっとバランスのとれたアプローチを期待している(生物学的な点より計算の側面の方をはるかに詳しく取り扱っている)。
- ・ 本当に本当にありがとう。素晴らしい仕事。
- ・ ありがとう!
- ・ 会議期間をもっと長くすれば(2週間)、島や周辺を探索する機会が生まれるし、更におそらくは(とくに非ラボの人間、つまり数学畑の人にとって)活動中のラボを視察する機会も得られる。
- ・ 旅行手配の規則にもっと融通が利けば良くなると思う。

ワークショップアンケート

The Retina: Neural Stem Cells and Photoreceptor Degeneration

網膜：神経幹細胞と光受容体の変性

日付： 2009年11月9日~11月12日

回答数 28 件 (講師 7、参加者 21)

1. 講義内容

優良(24), 良(4), 可(0), 不可(0)

- ・ 議論や質問のための時間があるのが有り難かった。
- ・ この分野の第一線で活躍されている研究者の皆さんのお話が聞けて、かつ知り合いになることが出来、大満足。
- ・ 招待講演やショート・トークも、講演の長さはちょうど良いと感じた。
- ・ 手配が隅々まで行き届いており、とても快適に過ごすことができた。一緒に行ったラボの若い人たちも帰ってから目も輝かせていた。印象に残るすばらしいミーティングだった。
- ・ 誘導された photoreceptor の移植や degeneration の抑制、人工網膜の話題など、再生医療の話題に関して、興味深く、幅広い構成であったと思う。もう少し、progenitor/stem cell の分化、増殖の basic な研究の話題があってもいいのでは、という印象は少し受けた。

2. 会場設備

優良(20), 良(8), 可(0), 不可(0)

- ・ スクリーンは見づらかったが、席の配置のおかげで交流が促進された。
- ・ とてもよい雰囲気だった。横の席で、スクリーンが少し見難かったのだけが残念。
- ・ 半円形の会議場でスクリーンが左右に1つずつだと、片方を使ったときに反対の端に座った時に少し見えにくいかもしれない。真ん中に1つ大きなスクリーンというのはいかがか。

3. 宿泊施設

シーサイドハウス：優良(7), 良(8), 可(5), 不可(0)

- ・ 過ごし易い部屋だった。2人部屋は、今回自分には良かったと思う。しかし、事前に知らされてもよかったのでは、とは思った。
- ・ 相当快適だったが、もし改善するとすれば、デスクのいすが堅いので、その点を。インターネット環境が良く助かった。
- ・ 風が吹くとバタバタと音が鳴ってうるさかった。修理した方がいいと思う。(2Fの一番端の部屋)

4. 食事

優良(15), 良(13), 可(0), 不可(0)

- ・ エクスカーションの時のランチボックスは多すぎて食べられなかった。サンドイッチで十分では。
- ・ おいしかった。願わくは、もう少し沖縄色(沖縄らしい料理)があっても良いかもしれない。
- ・ 美味しく、楽しく、沢山頂いた。
- ・ 沖縄ならではのものも、もう少し出してほしかった。

5. エクスカーション

優良(10), 良(9), 可(4), 不可(0), 未回答(5)

- ・ 参加しなかった。(2)
- ・ 出席しなかった。
- ・ 私は先に発ったので、楽しむことは出来なかった。
- ・ 水族館の中をもっとじっくり見たかった。
- ・ エクスカーションの時間が十分ではなかったと思う。昼食時間ももっと短かったら、もっと時間が割けたら。
- ・ 水族館は素晴らしい。でも行事に利用できる時間量を考えると、第二の選択肢を検討すべきだ。
- ・ 水族館での時間が短く残念だった。
- ・ 獅子舞、太鼓すばらしかった。
- ・ 楽しく過ごした。水族館には、家族でいつか行ってみたい。

- ・水族館でもっと時間があれば良かった。
- ・時間に余裕がほしかった。

6. 事務局

- 優良(27), 良(1), 可(0), 不可(0)
- ・何も不自由することもなく、快適にすごさせて頂いた。

7. 旅行手配

- 優良(24), 良(2), 可(2), 不可(0)
- ・いたれりつくせりだった。
 - ・空港に最初到着した時にタクシー運転手と誤解があったが、フライト手配は良かった。
 - ・とてもスムーズに往復できた。
 - ・とても良く準備されておりストレスが少ない。

8. 沖縄の印象

- 優良(19), 良(9), 可(0), 不可(0)
- ・今回は、私にとって初めての沖縄だった。今度は、観光で行ってみたい。
 - ・雨の降り方や、木々の様子が、南国だなあ、と感じさせてくれた。那覇から OIST に向かう道筋では、季節外れのせいも、少し寂れた印象を受けた。

9. その他のご意見、ご提案

- ・これは、今まで出席した最良の会議の一つだった。開学後は那覇空港から OIST への公共交通機関が改善されればよいと思う。
- ・とても良く準備されており、プレゼンテーションは高水準だった。会議のための環境は傑出していた。とても満喫した。ありがとう。
- ・このような素晴らしい会議をどうもありがとう。
- 1. 旅行手配が参加者の好みに応じてされればもっと良いだろう。
- 2. ワークショップ参加者がラボ体験をできればもっと申し分ないだろう。
- ・次回の「網膜」会議にとっても期待する。
- ・全般的に見れば、素晴らしい会議だった。しかし、ホテルや SH への交通がどのように手配されているかについて混乱があった。OIST スタッフが空港に来て説明してくれるか、到着前に情報が提供されるかすれば良いだろう。ありがとう。
- ・全体的に、ただもう素晴らしい会議だ。良く準備されていて科学的に大変優秀。ペースも順調。ありがとう！
- ・とてもいい会だった。内容が多岐にわたり、理解が難しくても、そういう分野がありそこで研究されている内容にふれられたことはとても刺激になった。個人的に会って話しかけた先生とも会える機会をいただいた。帰りの空港までの交通費は個人負担でいいとも思ったが、なにからなにまでありがとう。
- ・網膜ワークショップはとても充実しており、全てがとても良かった。全ての手配に心から感謝する。しかしながら一点お伝えしたい。インド人男性が私達の部屋へ頻りに訪れ、私には居心地が悪かった。このような場合、彼らが同室になれないだろうか？？どうもありがとう。
- ・大変お世話になった。どうもありがとう。
- ・全ての基準の面からして、これは良く準備された会議だ。この会議は大変長きに渡って記憶に残るだろう。素晴らしい！
- ・屋休みが少し長いと感じた。もう少し詰めても大丈夫だったかもしれない。贅沢をいえば、夜食用などパンの自動販売機もあればより嬉しかったと思う。
- ・大変充実した会だった。本当にありがとう。
- ・今まで経験した中で最高の会議。どうもありがとう。
- ・今年出席した中で最も有益な会議の一つだった。
- ・大変お世話になり、ありがとう。
- ・素晴らしい経験だ！ありがとう。
- ・本当に素晴らしいミーティングだった。ありがとう。

ワークショップアンケート

The 4th International Workshop on Cell Regulations in Division and Arrest

第4回分裂と停止の細胞制御

日付: 2009年11月29日~12月2日

回答数 49 件 (講師 32、参加者 17)

1. 講義内容

- 優良(47), 良(2), 可(0), 不可(0)
- ・いくつか優良、ほとんどが良、いくつか可、いくつか不可。
 - ・多種多様なトピックだが、多くを学んだ。

2. 会場設備

- 優良(47), 良(2), 可(0), 不可(0)
- ・セミナールームは少し小さ過ぎる。

3. 宿泊施設

- シーサイドハウス: 優良(11), 良(4), 可(3), 不可(0) ※1名は「優良」「可」の両方に回答。
- ・2人部屋でなければ優良だった。

4. 食事

- 優良(40), 良(9), 可(0), 不可(0)
- ・素晴らしい食事であれば、話にならないものもあった。
 - ・もう少し日本食があっても良い。

5. エクスカーション

- 優良(19), 良(25), 可(2), 不可(0), 未回答(3)
- ・参加しなかった。

6. 事務局

- 優良(48), 良(1), 可(0), 不可(0)

7. 旅行手配

- 優良(44), 良(3), 可(1), 不可(0), 未回答(1)
- ・自分で手配した。

8. 沖縄の印象

- 優良(39), 良(9), 可(1), 不可(0)
- ・沖縄は今回が初めてではない。

9. その他のご意見、ご提案

- ・とても良い学会だった。
- ・大変ありがとう。
- ・ありがとう。
- ・どうもありがとう。
- ・空港からのシャトルバスは国際線ターミナルも経由すべき。
- ・皆ありがとう。とても良いミーティングだ。
- ・私の現在の研究関心にちょうど合っていた！
- ・ありがとう！！
- ・手厚いもてなしをどうもありがとう。
- ・このような優秀な学者が一同に会し議論できる重要なミーティングに参加でき、とても嬉しい。柳田先生と彼のスタッフに大いに感謝する。

- ・ 美しい立地での素晴らしい会議だ。全ての主催者とサポートスタッフに感謝する。
- ・ とても素晴らしいミーティングだ。招待してくれてありがとう！

ワークショップアンケート

OIST Winter Course "Evolution of Complex Systems" (OWECS) 2009

ウィンターコース「複合システム進化コース」2009

日付： 2009年12月6日～12月13日

回答数 28 件 (講師 3、参加者 25)

1. 以下の点に関して、コースの印象はいかがでしたか

1. 講義内容

優良(24)、良(3)、可(1)、不可(0)

- ・ 講演者は全員、面白く、知識豊かで、議論は大変内容が濃かった。
- ・ 時々、細部に入りすぎることがある - もっと一般的な内容にすれば、誰でも何か学ぶことができる。

2. 会場設備

優良(25)、良(3)、可(0)、不可(0)

- ・ シーサイドハウスは、細かいところまで神経の行き届いたとても素敵なおとこだ。

3. 宿泊施設

シーサイドハウス：優良(13)、良(11)、可(1)、不可(0)

- ・ 部屋は全体に良かったが、シャワーだけでなく、風呂にも入りたい。
- ・ 部屋は非常にすてきで清潔。

4. 食事

優良(20)、良(8)、可(0)、不可(0)

- ・ 弁当は毎日同じだった。変化があった方がよい。
- ・ 食べ物はいつも素晴らしかった。
- ・ 昼食は良くない。

5. エクスカーション

優良(15)、良(12)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

- ・ 水族館の代わりに、「古の」沖縄からどこか見学するのも面白かったと思う。古城とかどうだろう。
- ・ 見学の時間がもっと必要。
- ・ 水族館が良かった！ もっと時間がほしい。
- ・ 水族館はとても楽しかった。
- ・ 日本の伝統的な文化の場所も見たかったと思う。

6. 事務局

優良(25)、良(2)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

- ・ 大変お世話になった。鈴木教子、ありがとう。

7. 旅行の手配

優良(23)、良(3)、可(2)、不可(0)

- ・ スケジュールにもっと融通を利かせてもらいたい。つまり、沖縄にもう少し長く滞在するオプションが欲しい。
- ・ 旅行代理店の仕事は上々で、万事抜かりなかった。まったく問題ない。
- ・ 沖縄探策にもう数日滞在を延ばせるよう融通を利かせてもらったらありがたい。

8. 沖縄の印象

優良(19)、良(7)、可(2)、不可(0)

- ・ 沖縄は小さな楽園で、シーサイドハウスの立地は申し分ない。
- ・ 沖縄をあまり見ていないので特に印象はない。
- ・ 美しいところ！
- ・ 立地は素晴らしいが、那覇はあまり見学していない。

9. その他のご意見、ご提案

- ・ 素晴らしいワークショップ。このままあまり変えないでほしい。
- ・ よく準備された刺激的なミーティングだった。学生との交流は楽しく、ミーティングの大きな部分だった。提案として、学生の半分が初日の午後に発表し、2日目の午後にもう半分が発表するようにしたら良い。
- ・ 1日2ないし3講義、プラス各回1時間のディスカッションが最適。
- ・ 大変ありがとう。
- ・ 私には枕が硬い。
- ・ 私には、フィールドワークコースの実験が必要。
- ・ 半日オフがあって、市内を周遊できたら良いと思う。
- ・ いろいろ買い物して回りたい人には残念。
- ・ ワークショップで、実践の実験から手法を学ぶようにすれば、有益であろう。講義は良いが、話の時間が多すぎる。実践/実験のパートを追加すると良いと思う。
- ・ 市内あるいは沖縄観光の旅行をもっと増やしてほしい。行き方を教えてほしい。
- ・ 9時前に部屋に続く廊下には清掃員は来ないで！時差ぼけの人が、できるだけ長く眠れるようにしてほしい。
- ・ これまで出席した中で最高の会議。招いてくれて本当にありがとう。
- ・ 今まで出席した中で最高の会議。OISTにいきたくなってきた！
- ・ これまでに受けたことがない素晴らしいコースで、研究をこれから進める上で、ひとつの転機にもなりそう。スケジュールも詰め込み過ぎず、逆に物足りないこともなく、講師もこのコースのことをよく理解して準備されていたのが印象的だった。多くの人と共有できにくいことだけが不満の、素晴らしいコースだった。
- ・ これまで出席したなかでも絶対に卓越した会議。参加者の混ざり合い、交流も、ディスカッションも良かった。講師からあらゆる洞察を吸収するのにスケジュールは申し分なかった。

2. 将来のコースについての提案

1. もし来年もこのようなコースが開催されたら、同僚に申し込みをするよう勧めますか

- ・ はい。(12)
- ・ もちろん。(4)
- ・ はい、もちろん。
- ・ もちろん、はい。
- ・ はい、必ず。
- ・ きっと。
- ・ コースに実践(実験)のパートがあるなら、同僚に推薦したい。
- ・ 間違いなく。
- ・ 絶対にはい。
- ・ 絶対。OWECS 2008に出席した同僚がコースについて教えてくれたので幸運だった。喜んで、来年のOWECSを世界に宣伝したい。
- ・ はい、そうしたい。
- ・ はい、Evolution ウェブサイトで宣伝してほしい。
- ・ はい。同僚の大半はもっぱら微生物系を専攻している。
- ・ 間違いなく!!!

2. コースの長さ(6日間は長いですか、短いですか)

- ・ ちょうど良い。(2)
- ・ 申し分なし。(2)
- ・ 最善。(2)
- ・ 私としては良いのだがPIとしては他にも仕事があるため、6日間はちょっと長すぎる。
- ・ ちょうど良い。
- ・ どちらとも。
- ・ 結構いい。
- ・ OK。
- ・ 良い。6日間はぴったり適した長さ。

- ・ 講義の数は同じまま、コースはもう少し長くしてもらいたい。
- ・ ぴったりの長さ。たくさん学んだ。
- ・ 6日間はぴったり。
- ・ 若干長い。
- ・ 6日間は十分な長さ。ただし、やはり周囲から孤立した場所であるため、夜間には実験をするか、観光をするか、なにか活動することが必須。
- ・ 長い。
- ・ ちょうどぴったり。
- ・ ちょうど良い。
- ・ ちょうど良い。
- ・ 6日間は、ちょっと長い。中断する時間が多かった。期間を減らして1日当たりの話の時間を長くすれば良いかもしれない。
- ・ ちょっと長い(3~4日で良いかも?)。
- ・ 短い。
- ・ 申し分ない - あまり短いと旅行の価値がない。長すぎると、やはり長すぎる!
- ・ 理想的 - 私なら変えない。
- ・ 十分な長さ。
- ・ ちょうど短い。

3. 講師と参加者との間で十分に交流が持てましたか

- ・ はい。(17)
- ・ いいえ。
- ・ はい。申し分なし。
- ・ はいといいえ。宿泊場所が別で、夜に離れるのは残念。
- ・ OK。
- ・ そう思う。
- ・ 講師と学生が交流する時間が多くある。
- ・ そう思う。
- ・ 間違いなく。
- ・ くださった交流の場となる夕食に講師が同席せず、がっかりしたことがあった。
- ・ 十分。
- ・ まさに十二分に。

4. 今後取り上げるテーマや招聘講師の提案

- ・ 古生物学(Charles Marshall/ Graham Budd)を入れると有益かもしれない。他にも提案があるので別送する。
- ・ 形態学のテーマを増やしてほしい。
- ・ 申し分なしに決まっている。多くのことを学んだ。
- ・ 寄生動物。
- ・ 神経生物学、行動の脳メカニズムなど。
- ・ 生物情報学の実践コース。
- ・ モデル有機体。
- ・ 1. 遺伝子ほどのように変異するか 2. 遺伝子を順序付け&トレースする方法 3. chip-chip 法実験など、実験テーマを提案したい。
- ・ 脊索動物の進化をもっと。
- ・ Nicole King, Chris Lowe, Greg Wray, Billie Swalla, Sean Carroll, Patrick Lemaire,
- ・ 細胞生物学、数理発生生物学の講師を招聘してほしい。
- ・ 複雑性を定義するもの。
- ・ 有機体の共進化とその微生物コミュニティ(つまり生態発生学)。
- ・ 無脊椎動物と脊椎動物の生態発生学の総合は実に素晴らしい。「極端な環境における生命」のテーマを追加してほしい。→生態発生学。
- ・ 生態進化発生学を含む複雑システムの進化。Liz Robertson(オックスフォード); Peter Holland(オックスフォード); Scott Gilbert; Chris Lowe(シカゴ/スタンフォード); Sean Carroll(ウィスコンシン); Jean-Francois Brunet(ENS, パリ)
- ・ 比較ゲノミクス、分子進化。
- ・ 招聘講師としてDr. Mike Levine(カリフォルニア大学バークレー校)。

3. OISTについて

1. OIST をどのように知りましたか

- ・ 同僚から。(2)
- ・ 同僚から (日本人)。
- ・ 自分の同僚から。
- ・ 会議のメンバーの一人と会って OIST のことを聞いた。
- ・ 組織委員会のメンバーから情報を得た。
- ・ Nature 誌で。
- ・ Marine Genomics で。
- ・ ウェブサイトで。
- ・ その開設時から。
- ・ コースを紹介する科学雑誌の広告で。
- ・ 日本人なので、友人から聞いて知った。
- ・ 昨年参加した仲間から教えてもらった。
- ・ 貴機構のホームページから。
- ・ OWECS 2008 に参加した同僚からコースと機構について聞いた。
- ・ ニュースで。
- ・ 友人から。
- ・ コースから。
- ・ パークリーでカワシマタケシが教えてくれた。
- ・ 沖縄が好きで、海洋生物を愛している。それで、OIST の進捗を辿っている。
- ・ 自分のアドバイザーから。
- ・ 同僚が OIST に勤務していることで。

2. OIST の印象

- ・ 非常に良い。(2)
- ・ 非常に有望。
- ・ 非常にポジティブ。
- ・ 良い。
- ・ すごい。
- ・ 外国の PI が多い。
- ・ OIST は、若干孤立しているが、非常にモダンで明るい科学環境のように思われる。
- ・ 良いところだが、最近日本で起こった政権交代が気になる。
- ・ きれいだ。
- ・ OIST は、若くて有望な機構だ。
- ・ 立派な施設とオープンな雰囲気。
- ・ 素晴らしい！
- ・ 大きな可能性を秘めた魅力的な機構。
- ・ 非常に美しい。
- ・ とても良い。
- ・ 新しい建物を見ただけだが、素晴らしい。
- ・ 有力な機構の一つになるようにすべてが組織されている。
- ・ 非常に有望なプロジェクトだと思う。十分なサポートがあるように思われるが、立地に難があるかもしれない。
- ・ 非常に美しい。
- ・ 素晴らしい活動環境。
- ・ 大変魅力的 - 可能性はすこぶる大きい。
- ・ 素晴らしいところ！
- ・ 非常に魅力的な取り組みをされている。
- ・ 優れて国際的！
- ・ 斬新、国際的、恵まれた景観。
- ・ 非常に新しく、素敵。

3. OIST への求人応募を検討しますか

- ・ はい。(6)
- ・ はい!!!
- ・ 多分。(2)
- ・ いいえ。もっとも、これは現在すでに確たる地位にあるため。
- ・ はい。ただし、今はできない。
- ・ はい。面白いプロジェクトがあれば。
- ・ 近い将来ではないが、一つの可能性として検討したい。できれば、なんらかの種類の共同研究を充足させることを真剣に検討したい。

- ・ 将来なにかあれば。
- ・ はい。OIST での研究について詳しい知識を得たうえで、検討するかもしれない。
- ・ そうしたいと思っている。
- ・ 分からない。
- ・ OIST にはサブティカルポジションに応募したい。沖縄をまだ十分に見ていないので、ここに住むかどうかは分からない。
- ・ 間違いなく。
- ・ 自分で良ければ...
- ・ 応募について考えるのは、自分のキャリアのごく初期で、と思っている。なにか刺激的な研究があれば、ポスドクへの応募を検討するかもしれない。
- ・ しない。
- ・ 当然する。
- ・ 沖縄は、家族の元から遠すぎる。

4. もし応募する場合、沖縄に移る、または移らない、もっとも重要な要因は何ですか

- ・ ユニット間、施設間の相互交流。
- ・ 金。
- ・ 言葉 (日本語を話す、知ることがまだまだ重要)。
- ・ 宿泊設備と毎日の買い物。
- ・ 沖縄が美しい場所であること。
- ・ ポジションがどの程度安定したものか、どれぐらいの期間ここで働けるか。
- ・ 家族にとって良い環境。
- ・ 沖縄が好き。
- ・ 一つの重要な要因は、交通手段。参加者として、我々は、機構の外に対して非常に孤立していた。島を探索する機会もなかった。島の良さを知るには、もっと見る必要がある。
- ・ とくにない。
- ・ 暑い夏。
- ・ そうした要因はない。だれでもここへ来たいと思う。
- ・ (少なくとも私自身に関して) ここに移るのに妨げになるかもしれない一つの要因は、近くに都市部がないように思われる点だ。
- ・ 本土から離れすぎている。
- ・ 活動環境。
- ・ 私の場合、(移る) 理由は 1. 素晴らしい施設と科学 2. 国際環境 3. 海！
- ・ OIST の将来構想がどれくらいはっきりするかだろうか。
- ・ 移る - 研究環境が良い。移らない - 良い図書館がない。車の運転が必要。
- ・ 学術環境、外国人に関する政策。
- ・ 研究環境。

5. OIST のプロジェクトに関して他の意見やリクエスト

- ・ 非常に豊かな可能性。
- ・ OIST の近くにコンビニが欲しい。
- ・ 理解の容易でない有機体の研究によって生命の進化を理解しようとする努力の面で、日本の講師に大変感銘を受けた。
- ・ コースが繰り返しの時は、実験によるテクニック研修を追加し、機構の外で夜の活動を手配してもらいたい。
- ・ 最良の場所の一つ。
- ・ そのまま努力を続けて @。
- ・ 託児所施設。
- ・ サンゴ礁/鞭毛藻の進化に関するあなた方の研究について知識をさらに深めることに関心がある。
- ・ OIST に入る方法について知りたい @。
- ・ 有望なプロジェクトだ。
- ・ 研究分野の先駆者から歴史的背景とホットなテーマについて学ぶのは本当に刺激的だ。
- ・ なし。
- ・ ない。

4. 全体的なコメント & 提案

- ・ ボート周遊/プランクトン採集を企画して現地の多様性についてもっと学ぶようにすれば有益かもしれない。
- ・ OIST で良い経験をした。自分は英語をもっと真剣に実践学習しなければならない。

- ・ OIST の最新のラボを見学する機会があれば素晴らしい。
- ・ 私にとっては、このワークショップに参加するのは本当に面白い機会だった。連絡をとり合い、共に研究を検討したい。
- ・ 冬季コースで参加するこのような素晴らしい機会を提供してもらって大変感謝している。
- ・ 会議は非常に有益だった。講師はとても良かった。しかし、期待したほど多くは得られなかった。このコースは、ミニのウッズホールあるいはコールドスプリング港コースになると思った。その際には、私はいくつかのテクニックについて講義し学習しよう。テクニック研修を追加すれば、もっと良いコースになると思う。また、島を知るために夜間の活動も必要である。沖縄を見物しなかったのが、沖縄で働きたいかどうかは言えない。時には食事を機構から離れた場所にしてもらいたいのと、なにか島観光があったら、沖縄についてもっと詳しく知るのに役立つと思う。ワークショップをまとめるのに立派な仕事をされた主催者と事務局のみなさんに感謝する。
- ・ 今回のコースは本当にゴージャスで感動した。皆さん本当にありがとう。
- ・ OW ECS に参加する機会を得られて大変感謝している。ここは美しいところで、会議は全般に非常によく組織されていた。国際的な進化発生学コミュニティの面々とミーティングができて幸いであった。将来日本にまた来ることを楽しみにしている。
- ・ ありがとう。
- ・ 多分、ちょっとウッズホールのコースに似たような、モデルシステムとテクニックを発見するラボ時間を追加するのも良いと思う。招いてくれてありがとう！
- ・ OW ECS2009 に出席する機会を与えられて大変感謝している。将来共同で仕事をできることを期待している！
- ・ 現地の海洋生物を使って研究の可能性を探るために、海洋フィールドコースを企画するのも良いかもしれない (OW ECS と併せての実施も可能だろう)。
- ・ 新大学院生として、進化発生学に触れ、刺激的な人たちとお会いする素晴らしい機会をもらって感謝している。講演者の顔ぶれは本当に卓越していて、そのすべての講義が非常に啓発的である。この分野の最も重要な方向はどちらになるのか知る良い機会である。面白いアイデアを生み出すのにも有益である。この素晴らしいワークショップの主催者とスタッフのみなさんありがとう。
- ・ みなさんの親身のサポートに大変感謝している。
- ・ 理解の容易でない有機体の研究によって生命の進化を理解しようとする努力の面で、日本人の熱心さに大変感銘を受けた。
- ・ ここに来る機会を与えてもらって感謝している！

ワークショップアンケート

Garuda One
ガルダ・ワン

日付：2010年2月23日～25日

回答数 9 件 (講師 6、参加者 3)

1. 講義内容

優良(7)、良(2)、可(0)、不可(0)

2. 会場設備

優良(7)、良(2)、可(0)、不可(0)

4. 食事

優良(4)、良(5)、可(0)、不可(0)

5. 事務局

優良(9)、良(0)、可(0)、不可(0)

6. 旅行手配

優良(7)、良(2)、可(0)、不可(0)

7. 沖縄の印象

優良(6)、良(3)、可(0)、不可(0)

8. その他のご意見、ご提案

- ・ 全ての助けともてなしにありがとう!!!!
- ・ 太陽に恵まれて滞在できたおかげで雰囲気がとても良くなり、幸運だった。
- ・ ワークショップを大変楽しいものにしてくれた OIST スタッフに感謝。
- ・ 屋食の弁当にもっと選択肢があればもっと良かった。
- ・ 遅延にも関わらず辛抱強く待ってくれたタクシー運転手に感謝した。
- ・ 素晴らしいもてなしを本当にありがとう。

平成21年度 国際ワークショップ参加者数

| | 国際ワークショップ 「量子力学の基礎と応用」 | | | | | 国際サマースクール 「沖縄計算神経科学コース2009」 | | | | | 国際ワークショップ 「強化学習の脳神経メカニズムと 注意欠陥多動性障害(ADHD)」 | | | | |
|--------------|---------------------------|------|------|------|----|--------------------------------|------|------|------|----|--|------|------|------|----|
| | 外国人 | | 日本人 | | 合計 | 外国人 | | 日本人 | | 合計 | 外国人 | | 日本人 | | 合計 |
| | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | |
| 講演者(非OIST) | 9 | 1 | | 8 | 18 | 10 | 1 | | 2 | 13 | 9 | | 1 | | 10 |
| 講演者(OIST) | | | | 1 | 1 | | 4 | | 1 | 5 | | 2 | | | 2 |
| チューター(非OIST) | | | | | | 7 | 1 | | | 8 | | | | | |
| チューター(OIST) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参加者(非OIST) | 5 | 1 | | 9 | 15 | 24 | | | 5 | 29 | 8 | | | 2 | 10 |
| 参加者(OIST) | | | | 5 | 5 | | | | | | | | | 6 | 6 |
| 聴講者(非OIST) | 1 | | | 1 | 2 | | | | | | 5 | | | | 5 |
| 聴講者(OIST) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 15 | 2 | | 24 | 41 | 41 | 6 | | 8 | 55 | 22 | 2 | 1 | 8 | 33 |

| | 国際ワークショップ 「DNAトポロジー」 | | | | | 国際ワークショップ 「網膜:神経幹細胞と光受容体の変性」 | | | | | 国際ワークショップ 「第4回分裂と停止の細胞制御」 | | | | |
|--------------|-------------------------|------|------|------|----|---------------------------------|------|------|------|----|------------------------------|------|------|------|----|
| | 外国人 | | 日本人 | | 合計 | 外国人 | | 日本人 | | 合計 | 外国人 | | 日本人 | | 合計 |
| | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | |
| 講演者(非OIST) | 11 | | | 2 | 13 | 10 | | | 4 | 14 | 12 | 1 | 2 | 25 | 40 |
| 講演者(OIST) | | | 1 | | 1 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 |
| チューター(非OIST) | | | | | | | | | | | | | | | |
| チューター(OIST) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 参加者(非OIST) | 17 | 3 | | | 20 | 10 | 2 | | 25 | 37 | 5 | 1 | | 15 | 21 |
| 参加者(OIST) | | | 1 | 2 | 3 | | | | 5 | 5 | | 2 | | 8 | 10 |
| 聴講者(非OIST) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 聴講者(OIST) | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 28 | 5 | | 4 | 37 | 20 | 2 | | 35 | 57 | 17 | 4 | 2 | 49 | 72 |

| | 国際インタースクール 「生物複雑系の進化コース2009」 | | | | | 国際ワークショップ 「ガルーダ・ワン」 | | | | |
|--------------|---------------------------------|------|------|------|----|------------------------|------|------|------|----|
| | 外国人 | | 日本人 | | 合計 | 外国人 | | 日本人 | | 合計 |
| | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | | 海外機関 | 日本機関 | 海外機関 | 日本機関 | |
| 講演者(非OIST) | 6 | | | 2 | 8 | 4 | 3 | | 5 | 12 |
| 講演者(OIST) | | 1 | | 1 | 2 | | | | 1 | 1 |
| チューター(非OIST) | | | | | | | | | | |
| チューター(OIST) | | | | | | | | | | |
| 参加者(非OIST) | 14 | 1 | 3 | 8 | 26 | 1 | | 1 | 5 | 7 |
| 参加者(OIST) | | | | 10 | 10 | | | | 1 | 1 |
| 聴講者(非OIST) | | | | | | | | | | |
| 聴講者(OIST) | | | | | | | | | | |
| 合計 | 20 | 2 | 3 | 21 | 46 | 5 | 3 | 1 | 12 | 21 |

The Progress of the Discussions about the Purpose of Establishment of OIST

The OIST SC Establishing Members

The Establishing Members discussed the purpose of establishment of OIST. The points on which the Establishing Members agreed are summarized as follows.

- (1) Educational and research organization
 - The Graduate University has only a single graduate school (Graduate School of Science and Technology (*Kagakugijutsu-Kenkyuka* in Japanese)) and a single major (Major of Science and Technology (*Kagakugijutsu-Senkou* in Japanese)) so as to encourage multidisciplinary and integrative education and research.
- (2) Curriculum
 - The Graduate University has only a single five-year integrated doctoral program, and will not accept students whose objective is to obtain a master's degree.
 - Students who have received a master's degree at another university may be granted transfer admission and be allowed to take a reduced number of lecture courses and lab rotations, so that they may start their doctoral thesis research sooner.
- (3) Number of students and internationality
 - After the opening of the Graduate University, initially, the Graduate University will accept about 20 students every academic year with about 50 faculty members (total student enrollment number: about 100).
 - Education and research will be conducted in English.
 - At least half of the students and faculty members are projected to be non-Japanese.
 - Student recruitment and admission procedures of applicants will be further studied in a tangible manner.
- (4) Academic degrees conferred
 - The degree title is Ph.D., Doctor of Philosophy (*Hakase (Gakujutsu)* in Japanese), which is commonly used in graduate universities that conduct multidisciplinary education and research in science and technology.
- (5) Financial support, etc.
 - Student financial support measures, including its financial resources, will be further studied in a tangible manner with reference to a common practice at many of the best in the world graduate universities in science and technology, such as Rockefeller University.
- (6) Opening
 - The opening (student enrollment) of the Graduate University will be in September 2012.

大学院大学設置の趣旨等の検討状況について

沖縄科学技術大学院大学学園設立委員

沖縄科学技術大学院大学学園設立委員は、大学院大学設置の趣旨等について検討を行った。設立委員の合意を得たものについては、以下のとおり要約できる。

- (1) 教育研究組織
 - 融合的・学際的な教育研究を促進するために、一つの研究科(科学技術研究科)、一つの専攻(科学技術専攻)のみを置く大学院大学とする。
- (2) 教育課程
 - 5年一貫制の博士課程のみを置くこととし、修士号取得を目的とする学生は受入れない。
 - 他の大学で修士号を取得した学生については、講義科目、ラボローテーション科目数の減免を認め、途中年次への編入学を認めた上で、博士論文作成に従事することができる。
- (3) 学生数、国際性
 - 開学後の初期段階では、50人規模の教授陣で、毎年約20名の学生を受入れる(収容学生定員は約100名)。
 - 教育研究は英語で行う。
 - 学生、教員の半数以上は外国人となることを想定。
 - 学生の募集・選抜方法については、今後更に具体的な検討を進める。
- (4) 授与する学位
 - 学際的な科学技術分野の教育研究活動を行う大学院大学で多く使用されている「博士(学術)」を学位の名称とする。
- (5) 経済的支援等
 - 学生への経済的支援措置等について、ロックフェラー大学等、学際的な科学技術分野の世界最高水準の大学院大学等が標準で実施している事例を踏まえつつ、財源も含めて今後更に具体的な検討を進める。
- (6) 開学時期
 - 開学(学生入学)時期については、平成24年9月とする。

沖縄科学技術大学院大学の学長選考プロセスについて

1. 平成 20 年より、沖縄機構運営委員会において選考委員会を立ち上げ、有馬・ヴィーゼル共同議長の下、学長選考の準備を開始。
2. 本年 3 月、学長選考に係るスケジュール管理と必要な調査等を実施するため、沖縄機構において、人材調査会社であるエゴン・ゼンダー・インターナショナル社(EZI 社)を入札により選定。
※学長選考における人材調査会社の活用は、海外の有名大学等では一般的に行われている。
3. 平成 21 年 7 月の沖縄科学技術大学院大学学園法の成立を受け、同年 8 月より、ネイチャー、サイエンスといった世界的な学術雑誌や機構のホームページを通じ、学長予定者の公募を開始し、世界中の著名な研究所、大学における候補者合計 160 名をリストアップ。設立委員の指導の下で、EZI社が候補者について徹底した調査を実施し、優先順位付け。
(主な人材発掘方法)
 - (1) 一般公募(ネイチャー、サイエンス等の掲載公募)
 - (2) 運営委員／設立委員のネットワークを通じた人材の発掘
 - (3) エゴンゼンダー社のネットワークを利用した人材の発掘
4. 平成21年10月及び平成22年3月の設立委員会合において、候補者について、個別・具体的に議論。
(その間、優先順位の高い候補者について、設立委員による面接等を実施)
5. 平成22年7月の設立委員会合において、最終決定。



平成22年7月9日
独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構

- プレスリリース -

沖縄科学技術大学院大学の初代学長予定者に
ジョナサン・ドーファン博士を決定

2012 年度の開学に向けて準備を進めている沖縄科学技術大学院大学の初代学長予定者として、米国スタンフォード大学において線形加速器センター所長などの要職を歴任し、研究・マネジメントの両面で高い評価を得てきたジョナサン・ドーファン博士を決定しました。

この度、沖縄科学技術大学院大学学園設立委員は、国際的に著名な物理学者であり米国スタンフォード大学が運営する SLAC 国立加速器研究所（旧スタンフォード線形加速器センター）の名誉所長であるジョナサン・ドーファン博士を 2012 年度開学に向け準備中の沖縄科学技術大学院大学の初代学長予定者に選出しました。ドーファン博士の学長就任により、同博士の長年にわたる世界トップレベルの研究所の所長等としてのマネジメント経験と、国際共同プロジェクトを主導してきたリーダーとしての手腕が、大学院大学にもたらされることとなります。

ドーファン博士は、1976 年に米国カリフォルニア大学アーバイン校にて素粒子物理学に関する研究で博士号を取得後、スタンフォード大学で 30 年以上にわたって勤めました。1999 年～2007 年にはスタンフォード線形加速器センター（SLAC）の所長を務め、1,500 名の教職員を統括するとともに、25 カ国から集まったおよそ 3,000 名の科学者が参画する研究プロジェクトを束ねました。同博士の卓越したマネジメントの手腕により、かつては主に単一の研究目的のみにしか利用されていなかった素粒子実験施設を、素粒子物理学に加え、光量子科学や粒子宇宙物理学等あらゆる研究目的に活用される世界的にも有名な研究施設に生まれ変わらせました。ドーファン博士がディレクターとして主導した SLAC の B Factory での実験は、姉妹施設である高エネルギー加速器研究機構の B-factory（茨城県つくば市）での実験とともに、益川敏英博士や小林誠博士の理論を実証し、両氏に 2008 年ノーベル物理学賞受賞をもたらすとともに、素粒子物理学の発展に貢献しました。

現在、ドーファン博士は、英国のオックスフォード大学及びロンドン大学ロイヤルホロウェイ校、ドイツのマックスプランク研究所、イスラエルのワイツマン科学研究所等、世界の数多くの著名な大学・研究機関にアドバイザーや理事等の立場から参画しています。同博士は、これまでのキャリアを通じて国際的な科学者との幅広く多様なネットワークを築き、日本の著名な科学者達とも親交を深めてきました。

この初代学長予定者の選考は 1 年以上をかけて慎重に進められてきました。学術誌やホームページを通じた公募、設立委員のネットワーク等により、世界中から国籍や性別を問わず、研究・マネジメントの両面で優れた合計 160 名を候補者として抽出し、その中から設立委員による面接等を経て、最終的にドーファン博士が選ばれました。

設立委員は、今後、ドーファン博士に、世界中の卓越した教員・学生の獲得、カリキュラムの策定、さらには現在進みつつある世界規模の学術的連携や産業界との連携関係の構築に、大いに貢献していただけるものと確信しています。また、同博士の地域社会との積極的な交流活動を通じて、この大学院大学が沖縄の将来の発展に寄与するものとなることを期待しています。

ドーファン博士の略歴については、別紙をご参照ください。

沖縄科学技術大学院大学及び独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構について

沖縄科学技術大学院大学は沖縄科学技術大学院大学学園法に基づき開学準備が進められている新しい大学院大学で、沖縄において世界最高水準の科学技術に関する教育研究を行い、沖縄の自立的発展と世界の科学技術の向上に寄与することを目的としています。同法は、大学院大学の自主性と運営の柔軟性を尊重する観点から、同大学を特別な学校法人により設置されるものとし、また、国が同大学に対し安定的な支援を行うことができるものとしています。文部科学大臣への学校法人設立・大学設置の認可申請は平成23年3月に行う予定です。

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構は、沖縄において卓越した科学技術の研究を行うため、また、世界最高水準の国際的な大学院大学を設立する準備のため、平成17年9月に設立されました。理事長はシドニー・ブレナー博士（2002年ノーベル生理学・医学賞受賞）です。現在までに24の研究ユニット（研究者約170名）が発足し、神経科学、分子科学、数学・計算科学、環境科学の4分野において、学際的な研究活動を展開しています。また、国際ワークショップやコースの開催など、学生や若手研究者の育成にも力を入れており、これらの取組は国際的にも認知されています。機構は、2012年秋の大学院大学の開学（学生受入れ）に向け、こうした活動をさらに拡充していくこととしています。

沖縄科学技術大学院大学学園設立委員

沖縄科学技術大学院大学学園設立委員は、沖縄科学技術大学院大学学園法に基づき、世界最高水準の大学院大学の実現に向けた設立準備業務を行うものであり、平成21年9月1日に内閣総理大臣によって以下の9名が任命されました。学長の人選は、文部科学大臣への認可申請に必要な設立準備のための最重要事項の一つです。

ありま あきと
有馬 朗人

財団法人日本科学技術振興財団会長、武蔵学園長、
ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム会長

ジェローム・フリードマン

マサチューセッツ工科大学教授（1990年ノーベル物理学賞受賞）

ティム・ハント

英国がん研究所主席科学者（2001年ノーベル生理学・医学賞受賞）

かなざわ いちろう
金澤 一郎

日本学術会議会長、東京大学名誉教授、皇室医務主管

くろかわ きよし
黒川 清

政策研究大学院大学教授、東京大学名誉教授、
前内閣特別顧問（科学、技術、イノベーション担当）、前日本学術会議会長

り えんてつ
李 遠哲

台湾中央研究院名誉会長（1986年ノーベル化学賞受賞）

しょう ひろこ
尚 弘子

琉球大学名誉教授、元沖縄県副知事

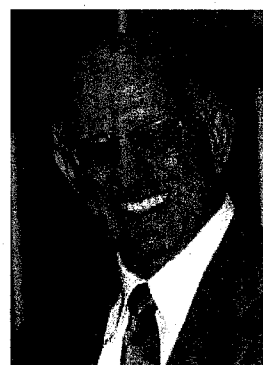
とねがわ すずむ
利根川 進

マサチューセッツ工科大学教授（1987年ノーベル生理学・医学賞受賞）
独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター長

トーステン・ヴィーゼル

ロックフェラー大学名誉学長（1981年ノーベル生理学・医学賞受賞）

ジョナサン・ドーファン博士 略歴



ジョナサン・ドーファン博士

専門: 物理学、加速器科学

学歴:

1969年 南アフリカケープタウン大学 物理学・応用数学 理学士号取得
1976年 米国カリフォルニア大学アーバイン校 素粒子実験物理学 博士号所得

職歴

1989年-現在 スタンフォード線形加速器センター 教授
1994-1999年 スタンフォード線形加速器センター 副所長
1999-2007年 スタンフォード大学 エグゼクティブキャビネットメンバー
1999-2007年 スタンフォード線形加速器センター 所長
2007年-現在 SLAC 国立加速器センター (スタンフォード線形加速器センター) 名誉所長
2007-2008年 スタンフォード大学 学長特別補佐

他の主要なポジション:

ワイツマン科学研究所 (イスラエル) 理事
ワイツマン科学研究所 (イスラエル) 理事会、科学アドバイザーコミッティ共同代表
SuperB 計画、マシンアドバイザーコミッティ (イタリア) 代表
米国 Large Synoptic Space Telescope 会社 理事会副代表
米国物理学会、広報部門パネルメンバー副代表
英国オックスフォード大学ジョンアダムス加速器科学研究所・ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校アドバイザーボードメンバー
TRIUMF 国立研究協議会 (カナダ) アドバイザーコミッティメンバー
独国マックスプランク物理研究所、科学アドバイザーボードメンバー
国際ニアコライダー (ILC) 国際共同設計チーム (GDE) (多国籍協力プロジェクト) 加速器アドバイザーコミッティメンバー

受賞等:

ドレスデン技術大学 (ドイツ) 名誉博士号
ケープタウン大学 (南アフリカ) 名誉博士号
ニューヨーク科学アカデミー会員
米国科学アカデミーフェロー
米国物理学会フェロー

【本件問合せ先】

独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構
総務グループ コミュニケーション・広報課 広報担当: 名取 薫
電話: (代表) 098-966-8711 (直通) 098-966-2389 FAX: 098-966-2152
E-mail: kaoru.natori@oist.jp OIST ウェブサイト: <http://www.oist.jp>

当機構の施設整備に関する予算執行問題の概要等について

沖縄科学技術研究基盤整備機構においては、第1研究棟及び管理棟の整備に当たり、施設整備費補助金として138億円が確保されていたところ、実験・研究室整備に係る大幅な仕様変更に伴い、実際の施設費(執行額)が、当該予算額から約38億円の超過となった。その概要等については、次のとおりである。

1. 概要

- 第1研究棟及び管理棟の整備(平成22年3月竣工)については、平成18年度から平成21年度において、内閣府からの施設整備費補助金が138億円措置されていた。
- 実験・研究室の整備の段階において、研究者からの要望等を受け、研究環境の充実に必要な大幅な仕様変更(※)を行い、平成21年4月の工事契約締結時において、予算額を約30億円超過していた。
※ 動物飼育施設に必要な空調機器の整備、スーパーコンピュータ対応のサーバールームの整備等
- その後、工事期間中にも仕様の追加変更を行い、さらに約9億円が上積みされた結果、最終的な執行額は約176億円となり、予算額を約38億円超過することとなった。
- これは、工事契約の締結・変更の過程において、施設整備費補助金と運営費交付金等による一体的総合的管理が徹底されず、具体的な対応策を十分に検討できていなかったこと等によるものである。

2. 予算上の対応

- 上記の超過額については、平成21年度中に既定予算の範囲内で対応した。その内訳は次のとおり。
 - － 運営費交付金からの支出の節減： 2.5億円
 - － 第2研究棟等に係る施設整備費補助金の充当： 35.5億円

3. 改善策

- 本件については、平成22年2月及び3月に、内閣府独立行政法人評価委員会分科会に対して報告を行い、同分科会において、改革の方向性等に係る提言を含め、御見解をお取りまとめ頂いており、機構は、これに沿って、管理運営体制の抜本的な強化に向けた改善策を講じている。

(改善策の概要)

- ・ 組織構造の再構築
- ・ 実務レベルでの体制強化と業務改善
- ・ 研究環境の着実かつ効率的な整備
- ・ 監事による厳格な監査の実施等 等

Independent Administrative Institution
Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation
独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構

Establishment of the OIST Facilities and Construction Budget Review Committee

「OIST 施設及び建設に関する予算検討委員会」の設置について

Approved on April 19, 2010

平成 22 年 4 月 19 日 決裁

1. Purpose of the Committee 委員会の目的

The Independent Administrative Institution Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation (hereinafter referred to as the “Corporation”) establishes the OIST Facilities and Construction Budget Review Committee (hereinafter referred to as the “Committee”) to review the Facilities and Construction budget in terms of appropriate budget execution.

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（以下「機構」という。）は、適正な予算執行の観点から施設整備に係る予算について検討するため「OIST 施設及び建設に関する予算検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

2. Composition of the Committee 委員会の構成

The members of the Committee are as follows.

委員会のメンバーは次の通りである。

- (1) Executive Director (ex officio)
理事（オブザーバー）
- (2) Chief Administrative Officer (Chair)
事務局長
- (3) Director of Finance and Human Resources
財務・人事部長
- (4) Director of Facilities and Construction
施設・建設部長
- (5) Manager of Campus Building Section
キャンパス建設課長
- (6) Manager of Budget Section
予算課長

Attendance is in person but can exceptionally be by teleconference. No proxy is possible.

会議は原則本人出席によるものとするが、例外的に電話会議による出席も認めるものとする。

Other OIST members or external parties can be invited on an “as needed” basis.
必要に応じて以下の機構内部の職員又は外部の者の出席を求めることができるものとする。

3. Operation of the Committee 委員会の運営

(1) Chair 議長

The Committee is chaired by the Chief Administrative Officer who calls the meeting and decides its agenda at least one week before the date of the meeting, taking into account the requests received at that time.

事務局長が委員会を招集し、議長を務めるものとし、遅くとも会議の一週間前までにそれまでの要望を考慮し、議題を決定するものとする。

(2) Date of meeting 会議日程

Normally the Committee meets monthly.

委員会会議は原則として月 1 回開催されるものとする。

(3) Standard agenda 標準的議題

(a) Presentation by Manager of Campus Building Section on current status of design and construction planning and implementation.

キャンパス建設課長による設計及び建設の実施及び計画に係わるプレゼンテーション

(b) Presentation by Manager of Budget Section on current status of design and construction budget execution

予算課長による施設の設計及び建設予算の執行に係わるプレゼンテーション

(c) Confirmation on the recommendations of the Committee to the Executive Director

理事への勧告事項の確認

4. Minutes 議事録

Executive Office Secretariat prepares draft minutes of the meeting in consultation with the Chief Administrative Officer. The draft minutes will be circulated for review and approved at the next meeting..

エグゼクティブ・オフィスは議事録案を作成する。事務局長は議事録案を次回会議の場に提出し、審査及び了解を得るものとする。

5. Report 報告

The Chief Administrative Officer shall report the recommendations of the Committee to the Executive Director.

事務局長は委員会会議による勧告を理事に報告するものとする。

当機構の施設整備に係る予算執行問題について

平成 22 年 3 月 8 日

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構

当機構においては、沖縄科学技術大学院大学の研究棟等の整備を進めているところですが、今般、第 1 研究棟等の整備に係る予算執行管理に不適切な点があったことが明らかになりました。この問題につきましては、当機構から内閣府独立行政法人評価委員会沖縄科学技術研究基盤整備機構分科会（分科会長：平澤冷東京大学名誉教授）に対し、事実関係を報告し、同分科会から、管理体制の不備等に関する指摘や改革の方向性等を内容とする提言が示されました。

今後このようなことのないように、役職員一同、機構は日本の公費の投入を受けて運営されているという自覚をより一層強く持ち、上記分科会から示された提言に沿って、予算の適正執行の徹底に向け、組織運営・予算執行体制に関して改革を進めてまいります。

なお、今回の事態を招いた責任に鑑み、理事長及び理事は、報酬月額 10%相当額の二ヶ月分を自主返納することといたします。

(今後の対応)

1. 組織としての効率性と国際的な研究と教育を担う特殊性に配慮した組織構造の再構築の早急な実施
2. 適正な業務運営を徹底するための実務レベルの体制強化・業務改善
3. 開学に必要な研究環境の着実かつ効率的な整備
4. 監事による厳正な監査の実施 等

以上

※ 内閣府独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構分科会による見解（平成 22 年 3 月 2 日）「独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の施設整備に係る予算執行問題に関する見解」

※ 内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策）のコメント（平成 22 年 3 月 2 日）「独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構の施設整備に係る予算執行問題について」

共用研究施設整備-集約化効果のシミュレーション/Common & central research facilities-simulation of front loaded

OIST Aug 17, 2010

| 項目/items | necessary floor area: sqm/PI A | Numbers of PI user B | LAB1-3 | | | | LAB1/present floor area: sqm D | 削減コスト/reduction cost: yen E |
|---|-----------------------------------|-------------------------|------------|------------|------------|--------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| | | | LAB1 C1 | LAB2 C2 | LAB3 C3 | total floor area C=C1+C2+C3 | | |
| 1. Server room/サーバールーム | 12 | 50 | 240 | 180 | 180 | 600 | 540 | 71,000,000 |
| 2. RI suite/RIスイート(放射線実験施設) | 20 | 25 | 201 | 151 | 151 | 503 | 430 | 68,000,000 |
| 3. EM, Confocal room, other imaging room/ 電子顕微鏡、共焦点レーザー顕微鏡室、 他イメージング機器室 | 48 | 25 | 480 | 360 | 360 | 1,200 | 1,120 | 56,000,000 |
| 4. Vivarium - rodent, aquatic organism/動物飼育施設 - げっし類、水性生物類 | 80 | 25 | 804 | 603 | 603 | 2,010 | 1,810 | 162,000,000 |
| 5. BIO TECH/バイオテック | 28 | 25 | 278 | 208 | 208 | 694 | 550 | 101,000,000 |
| 6 工作室/Workshop | 10 | 25 | 100 | 75 | 75 | 250 | 210 | 28,000,000 |
| 合計/total | | | | | | | | 486,000,000 |

A: PI一人当たりに必要な想定面積(類似研究機関などのデータ)/necessary floor area per PI

B: 利用するPI数/numbers of PI user

C: 第1-3研究棟にそれぞれ整備した場合の合計床面積(m²)/total floor area of LAB1-3

D: 第1研究棟に整備した床面積(m²)/floor area of a room at LAB 1

E: 集約化による削減コスト(円)/reduction cost by centralization

平成21年度における随意契約見直し計画のフォローアップ

随意契約と平成19年度、平成20年度、平成21年度に締結した契約の状況

(単位:件、億円)

| | 平成18年度 | | 平成19年度 | | 平成20年度 | | 平成21年度 | | 見直し計画 | |
|------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|-----------------|-------------------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 競争入札等 | (16.2%) 42 | (52.3%) 25.72 | (37.8%) 79 | (89.0%) 79.69 | (76.4%) 149 | (91.4%) 73.61 | (76.7%) 165 | (89.7%) 87.37 | (88.4%) 229 | (68.6%) 33.63 |
| 企画競争・公募 | (0%) 0 | (0%) 0 | (4.3%) 9 | (2.3%) 2.06 | (6.2%) 12 | (4.7%) 3.75 | (5.6%) 12 | (3.5%) 3.38 | (2.3%) 6 | (11.9%) 5.84 |
| 競争性のある契約 (小計) | (16.2%) 42 | (52.3%) 25.72 | (42.1%) 88 | (91.3%) 81.75 | (82.6%) 161 | (96.1%) 77.36 | (82.3%) 177 | (93.2%) 90.75 | (90.7%) 235 | (80.3%) 39.47 |
| 競争性のない随意 契約 | (83.8%) 217 | (47.7%) 23.45 | (57.9%) 121 | (8.7%) 7.78 | (17.4%) 34 | (3.9%) 3.17 | (17.7%) 38 | (6.8%) 6.62 | (9.3%) 24 | (19.7%) 9.71 |
| 合計 | (100.0%) 259 | (100.0%) 49.17 | (100.0%) 209 | (100.0%) 89.53 | (100.0%) 195 | (100.0%) 80.54 | (100.0%) 215 | (100.0%) 97.37 | (100.0%) 259 | (100.0%) 49.17 |

総務省行政管理局からの事務連絡に関する対応について
(独法における契約の適正化：20年11月14日)

事務連絡にて要請されている規程等の整備状況は次のとおり。

| | 項 目 | 措 置 |
|---|-------------------------|---|
| 1 | 公告期間・公告方法 | 契約事務取扱規則に規定済 |
| 2 | 指名競争入札限度額 | 契約事務取扱規則を改正(21年3月31日) |
| 3 | 包括的随契条項・公益法人随契条項 | 包括的随契条項は契約事務取扱規則を改正、削除済(21年3月31日)。公益法人随契条項は、同規則の表現を国の基準に合わせるよう改正(21年5月15日)。 |
| 4 | 予定価格調書の省略基準 | 契約事務取扱規則の基準額を国の基準に合わせるよう改正(21年3月31日) |
| 5 | 総合評価方式・複数年度契約 | 総合評価方式は契約事務取扱規則に規定済。複数年度契約の取扱要領を制定(21年3月31日)。 |
| 6 | 総合評価方式・企画競争・公募の要領・マニュアル | 総合評価方式・公募は20年3月に整備済。調達契約に係る企画競争等の実施細則を制定(21年3月31日) |

以上

● 一覧表

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 平成21年度における調達について(一覧表)

契約担当官の指名並びにその所属する部局の名称及び住所(独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構 理事長 シドニー・ブレナー 沖縄県国頭郡恩納村字恩納7542)

<添付資料#22-3>

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|----|-------------------------------------|-----------|------------|-------|---------------------------------|------|--|--|------|--------------------|--------------|----|
| 1 | H21年度沖縄科学技術・研究交流センター賞貸借 | 平成21年4月1日 | 48,181,124 | 随意 | 同種の他の契約の予定価格を照らさせるおそれがあるため公表しない | - | 財団法人 沖縄科学技術振興センター 沖縄県那覇市旭町1番地 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賞貸借契約であり、当該賞貸借物件でなければ研究目的を達成できないため | - | - | | |
| 2 | H21年度沖縄県健康バイオテクノロジーセンター賞貸借 | 平成21年4月1日 | 7,115,285 | 随意 | 同上 | - | 沖縄県 新産業振興課 沖縄県うるま市州崎12-22 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賞貸借契約であり、当該賞貸借物件でなければ研究目的を達成できないため | - | - | | |
| 3 | H21年度沖縄県健康バイオテクノロジーセンター研究室賞貸借 | 平成21年4月1日 | 9,576,000 | 随意 | 同上 | - | 沖縄県 新産業振興課 沖縄県うるま市州崎12-22 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賞貸借契約であり、当該賞貸借物件でなければ研究目的を達成できないため | - | - | | |
| 4 | H21年度沖縄県工業技術センター賞貸借 | 平成21年4月1日 | 26,995,558 | 随意 | 同上 | - | 沖縄県 工業技術センター 沖縄県うるま市州崎12-2 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賞貸借契約であり、当該賞貸借物件でなければ研究目的を達成できないため | - | - | | |
| 5 | トロピカルテクノセンター賞貸借 | 平成21年4月1日 | 5,016,000 | 随意 | 同上 | - | 株式会社トロピカルテクノセンター 沖縄県うるま市州崎5-1 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賞貸借契約であり、当該賞貸借物件でなければ研究目的を達成できないため | - | - | | |
| 6 | トロピカルテクノセンター研究室賞貸借 | 平成21年4月1日 | 1,848,000 | 随意 | 同上 | - | 株式会社トロピカルテクノセンター 沖縄県うるま市州崎5-1 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賞貸借契約であり、当該賞貸借物件でなければ研究目的を達成できないため | - | - | | |
| 7 | 日立製作所内研究所賞貸借 | 平成21年4月1日 | 1,993,896 | 随意 | 同上 | - | 株式会社日立製作所 基礎研究所 埼玉県比企郡鳩山町赤沼2520番 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 研究実施場所の賞貸借契約であり、当該賞貸借物件でなければ研究目的を達成できないため | - | - | | |
| 8 | 図書(電子ジャーナルElsevier ScienceDirect) | 平成21年4月1日 | 26,785,093 | 随意 | 同上 | - | Elsevier B.V. 1043NX Amsterdam, Netherlands | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該電子書籍はオランダ・エルゼビア・ビー・ブイ社のみから提供されているため | - | - | | |
| 9 | 業務車両の賞貸借(プリウス) | 平成21年4月1日 | 1,184,400 | 随意 | 同上 | - | 株式会社琉球リース 沖縄県那覇市久茂地1丁目7番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 前年度まで契約していたリース契約の再リース契約 | - | - | | ◎ |
| 10 | 財務会計業務に関するコンサルタント業務(平成21年度分) | 平成21年4月1日 | 2,100,000 | 随意 | 同上 | - | 新日本有限責任監査法人 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 単年度契約の更新による複数年度(6ヶ月)契約を前提にしているため | - | - | | ◎ |
| 11 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(交流センター)施設整備業務(4.5月分) | 平成21年4月1日 | 2,638,860 | 随意 | 同上 | - | 沖縄ビル・メンテナンス株式会社 沖縄県那覇市曙2丁目6番18号 | 会計規定第17号 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 一般競争入札に付した結果落札決定留保となり、低入札価格調査等の実施期間中前年度の実施者と引き続き契約したため | - | - | | |
| 12 | 研究交流センター 電気料4月 | 平成21年4月1日 | 2,993,979 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 13 | サランダーシステム維持の請負業務 | 平成21年4月1日 | 6,264,720 | 随意 | 同上 | - | 有限会社土浦観賞魚 茨城県土浦市蓮河原新町2-12 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため | - | - | | |
| 14 | 電子入札コアシステムASPサービス提供委託業務 | 平成21年4月1日 | 5,980,800 | 企画 | 同上 | - | 富士通株式会社 沖縄支店 沖縄県那覇市久茂地1-12-12 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約) | 2 | - | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した人数 | 備考 |
|----|---|-----------|--|-------|---------|------|---|--|------|--|-------------|----|
| 15 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)環境モニタリング調査(平成21年度) | 平成21年4月1日 | 40,950,000 | 公募 | 同上 | - | 日本工営(株)・(株)イーエーシー共同体 代表者 日本工営株式会社沖縄事務所 沖縄県那覇市金城5-5-8 2階 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (簡易公募型プロポーザル方式による随意契約) | 2 | - | | |
| 16 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)施設整備等総合アドバイザー業務(平成21年度) | 平成21年4月1日 | 55,000,000 | 公募 | 同上 | - | ボブリス・レンドリース・ジャパン株式会社 東京都港区赤坂1-7-1赤坂坂本ビル3階 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (簡易公募型プロポーザル方式による随意契約) | 1 | 密接に関連する前業務を当該業者が受注しており、新規の業者が消極的になってしまったため。 | | |
| 17 | 国際ワークショップ「Fundamentals of Quantum Mechanics and Its Applications」開催支援業務 | 平成21年4月1日 | 6,112,185 | 一般 | 同上 | - | 株式会社日本旅行 東京都港区新橋2丁目20番15号 | - | 2 | - | | |
| 18 | Web of Science 一式の購入 | 平成21年4月1日 | 4,126,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社紀伊国屋書店 九州営業部 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2-1 | - | 1 | 当機種の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。 | | |
| 19 | 走査型多光子レーザー顕微鏡システムの保守点検 | 平成21年4月1日 | 4,410,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社中央医療器 沖縄県島尻郡南風原町字神里409番地の5 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 20 | 自動細胞解析分離装置(BD FACSria)の保守点検 | 平成21年4月1日 | 1,417,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 21 | ハイブリッド型質量分析装置(QSTAR)の保守点検 | 平成21年4月1日 | 1,818,600 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 22 | LMDレーザーマイクロイメージングシステム保守 | 平成21年4月1日 | 1,050,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 23 | ハイブリッド型質量分析装置の保守点検 | 平成21年4月1日 | 4,756,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ウイックス 京都府宇治市伊勢田町名木2丁目1番地の233 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 24 | 走査型多光子レーザー顕微鏡システムの保守点検(Arbutnott ユニット分) | 平成21年4月1日 | 5,806,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 25 | 生物顕微鏡TIRF-C1Siの保守点検 | 平成21年4月1日 | 1,995,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社猪原商会沖縄営業所 沖縄県那覇市久米1丁目7番10号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 26 | ハイブリッド型質量分析装置他一式の保守(柳田ユニット分) | 平成21年4月1日 | 4,756,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ウイックス 京都府宇治市伊勢田町名木2丁目1番地の233 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 27 | 質量分析装置LTQ他の点検保守 | 平成21年4月1日 | 2,767,800 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ウイックス 京都府宇治市伊勢田町名木2丁目1番地の233 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 28 | 計算機システム管理およびプログラム開発業務 | 平成21年4月1日 | 11,340,000 | 一般 | 同上 | - | NECソフト沖縄株式会社 沖縄県那覇市久米2丁目3番目15号 | - | 2 | - | | |
| 29 | 交流センターとロビカルテリヤセンターを接続する専用回線サービス | 平成21年4月1日 | 1,789,200 | 一般 | 同上 | - | 沖縄通信ネットワーク株式会社 沖縄県那覇市東町4番地1 | - | 2 | - | | |
| 30 | 走査型多光子レーザー顕微鏡システムの保守点検(Wickens ユニット分) | 平成21年4月1日 | 3,832,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 31 | ワークショップのケータリング手配業務 | 平成21年4月1日 | 1,680円/食 2,730円/食 5,103円/食 8,316円/食 | 一般 | 同上 | - | 株式会社パノラマ・ホテルズ・ワン 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 | - | 2 | - | | |
| 32 | ワークショップ宿泊施設手配業務 | 平成21年4月1日 | 15,750円/泊 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ラグーンリゾート名護 東京都港区虎ノ門三丁目22番1号 | - | 3 | - | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|----|--------------------------------------|-----------|-------------------------------------|-------|---------|------|--|--------------|------|--|--------------|----|
| 33 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(IRP実験施設)建物管理及び清掃業務 一式 | 平成21年4月1日 | 42,840,000 | 一般 | 同上 | - | 日本総合整美株式会社 沖縄県那覇市若狭2丁目3番15号 | - | 3 | - | | |
| 34 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(交流センタ)中央監視装置保守点検業務 一式 | 平成21年4月1日 | 3,139,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社沖縄計装 沖縄県那覇市泊3丁目5番7号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 35 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(シーサイドハウス)清掃業務 一式 | 平成21年4月1日 | 3,780,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄県ビルメンテナンス協同組合 沖縄県那覇市曙2-27-14 | - | 3 | - | | |
| 36 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(シーサイドハウス)施設整備業務 一式 | 平成21年4月1日 | 16,065,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄ビルメンテナンス株式会社 沖縄県那覇市曙2丁目8番18号 | - | 6 | - | | ▲ |
| 37 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(シーサイドハウス)建物管理業務 一式 | 平成21年4月1日 | 6,079,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄県ビルメンテナンス協同組合 沖縄県那覇市曙2-27-14 | - | 3 | - | | |
| 38 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(シーサイドハウス)緑地管理業務 一式 | 平成21年4月1日 | 2,100,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社真栄田造園 沖縄県国頭郡恩納村字喜瀬武原314番地の1 | - | 3 | - | | ▲ |
| 39 | カルツァイス社顕微鏡(LSM510)の保守点検 | 平成21年4月1日 | 10,782,450 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 40 | GeneChipシステムの保守点検 | 平成21年4月1日 | 2,588,250 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 41 | 自動細胞解析分離装置(BD FACSCalibur)の保守点検 | 平成21年4月1日 | 1,197,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 42 | Mascot 4CPUライセンス保守 | 平成21年4月1日 | 1,176,000 | 一般 | 同上 | - | マトリックスサイエンス株式会社 東京都千代田区外神田6-10-12 KNEビル3F | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 43 | 各拠点間を相互接続するための回線サービス | 平成21年4月1日 | 5,604,480 | 一般 | 同上 | - | 沖縄通信ネットワーク株式会社 沖縄県那覇市東町4番地1 | - | 2 | - | | |
| 44 | センタースイッチ保守サービス | 平成21年4月1日 | 1,529,472 | 一般 | 同上 | - | 三井情報株式会社 東京都港区愛宕二丁目5番地1号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 45 | ネットワーク機器保守サービス | 平成21年4月1日 | 2,187,150 | 一般 | 同上 | - | 三井情報株式会社 東京都港区愛宕二丁目5番地1号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 46 | 透過電子顕微鏡システム保守契約 | 平成21年4月1日 | 4,069,800 | 一般 | 同上 | - | 日本電子データム株式会社 福岡県福岡市博多区博多駅前2-1-1 福岡朝日ビル | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 47 | 脱臭装置内脱臭剤の交換・再生及び保管 | 平成21年4月1日 | 2,617,000 | 一般 | 同上 | - | 有限会社ナンセイアクアテックサービス 沖縄県浦添市宮城1丁目14番1号 | - | 1 | 既設の脱臭装置の脱臭剤交換であり、供給者が交代した場合、新規の業者の負担において行うことになり、新規の業者が労力、資金の提供に消極的になってしまうため。 | | |
| 48 | 物品の保管 | 平成21年4月1日 | 保管料1,385円 入庫料1,050円 出庫料1,050円 | 一般 | 同上 | - | 琉球物流株式会社 沖縄県那覇市港町2丁目17番13号 | - | 1 | 供給者が交代した場合、既に入庫されている物品の移動が必要になるため、新規の供給者が移動に伴う労力の提供、資金の負担に消極的になってしまうため。 | | |
| 49 | マウス・ラット用飼料の購入 | 平成21年4月1日 | 3,990円/袋 | 一般 | 同上 | - | 有限会社琉球バイオテック 沖縄県浦添市牧港1丁目63番18号 | - | 1 | 実験動物用の飼料であり、実験結果に影響をあたえないよう厳重な品質管理が要求される。機構の要求する仕様を満たす業者は有限会社琉球バイオテックのみであるため。 | | |
| 50 | マウス・ラット用床敷の購入 | 平成21年4月1日 | 2,982円/袋 | 一般 | 同上 | - | エデストロムジャパン株式会社 東京都港区赤坂1-11-28 | - | 1 | 実験動物用飼育ケージの床敷であり、実験結果に影響をあたえないよう厳重な品質管理が要求される。機構の要求する仕様を満たす業者はエデストロムジャパン株式会社のみであるため。 | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|----|-----------------------------------|------------|--|-------|---------|------|--|---|------|---|--------------|----|
| 51 | 実験動物飼育管理・動物施設の環境検査・微生物モニタリング委託業務 | 平成21年4月1日 | 43,037,295 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ケー・エー・シー 京都府京都市中京区西ノ京西月光町40番地 | - | 1 | 動物施設の維持管理、実験機器の操作等を含むものであり、供給者が交代した場合、社員教育などを新規の業者の負担において行うことになり、新規の業者が労力、資金の提供に消極的になってしまうため。 | | |
| 52 | 総合業務システム保守・運用支援サービス一式 | 平成21年4月1日 | 6,552,000 | 一般 | 同上 | - | NECネクサソリューションズ株式会社 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 53 | 税務顧問業務 | 平成21年4月1日 | 1,575,000 | 一般 | 同上 | - | 山内公認会計士事務所 沖縄県那覇市久茂地1丁目7番1号 琉球リース総合ビル9階 | - | 1 | 前年度からの継続案件で、かつ専門性の高い契約であり、他の業者が新規参入に消極的になってしまうため。 | | ▲ |
| 54 | 特別管理産業廃棄物(感染性産業廃棄物)の収集・運搬・処理業務 | 平成21年4月1日 | 動物死体157円/kg 床敷その他105円/kg 収集運搬費1,050円/回 | 一般 | 同上 | - | 株式会社環境ソリューション 沖縄県沖縄市宇登川3328番地 | - | 3 | | | |
| 55 | DNAセンサーの保守点検 | 平成21年4月1日 | 8,977,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県豊原郡南風原宇津嘉山1582 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 56 | 研究交流センター プロバガスの購入 | 平成21年4月1日 | 189円/m ² | 一般 | 同上 | - | ザ・テラスホテルズ株式会社 沖縄県那覇市久茂地三丁目21番1号 | - | 2 | | | |
| 57 | 1MeV冷陰極電界放射顕微鏡の賃借 | 平成21年4月1日 | 11,638円/時間 | 一般 | 同上 | - | 株式会社日立製作所基礎研究所 埼玉県比企郡鳩山町赤沼2520番 | - | 1 | 当該顕微鏡は(株)日立製作所内のみに存在するため、同社しか応札できない。 | | |
| 58 | 給与計算システムFX-Ware保守・運用 | 平成21年4月1日 | 2,883,510 | 一般 | 同上 | - | みずほ情報総研株式会社 大阪府大阪市中央区今橋四丁目2番1号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 59 | 公用車運転業務 | 平成21年4月1日 | 基本管理料236,250円 時間外管理料1,807円 深夜管理料2,168円 | 一般 | 同上 | - | 有限会社琉球人材派遣センター 沖縄県沖縄市室川2-8-13平良AP103号 | - | 3 | | | ▲ |
| 60 | 事務用品等消耗品に係る年間単価契約 | 平成21年4月1日 | 1,613,669 | 一般 | 同上 | - | リコー九州株式会社沖縄支社 沖縄県那覇市寄宮1-3-37 | - | 2 | | | |
| 61 | ワークショップ/宿泊施設手配業務(その2) | 平成21年4月1日 | 27,825円/泊 28,875円/泊 17,850円/泊 18,900円/泊 | 一般 | 同上 | - | リザンコーポレーション株式会社 沖縄県国頭郡恩納村字谷茶1496番地 | - | 1 | 当機種の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。 | | |
| 62 | ゲノム解析コンピュータの保守 | 平成21年4月1日 | 4,741,016 | 一般 | 同上 | - | 日本SGI株式会社 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 63 | High Performance Computerの保守 | 平成21年4月1日 | 1,414,700 | 一般 | 同上 | - | 新日鉄ソリューションズ株式会社 東京都中央区新川2-20-15 | - | 4 | | | |
| 64 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟2内中央実験施設等実施設計業務 | 平成21年4月3日 | 89,029,500 | 随意 | 同上 | - | 日建設計/コンバーグ・アソシエイツ/国建 共同 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条1項第1号 元業務を参加者確認公募方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている。 | - | | | |
| 65 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)学長候補者の調査 | 平成21年4月13日 | 33,600,000 | 企画 | 同上 | - | エオンゼンター国際株式会社 東京都千代田区丸の内2-2-2 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約) | 8 | | | |
| 66 | 分子間相互作用解析システムの保守点検 | 平成21年4月15日 | 2,219,700 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ロジックナカイ 大阪府堺市中区小阪399-1 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 67 | 移転支援業務 | 平成21年4月16日 | 29,925,000 | 企画 | 同上 | - | 株式会社島津理化 福岡営業所 福岡県福岡市博多区飯塚町1-28 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約) | 3 | | | |
| 68 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)トンネル内装及び周辺環境整備工事 | 平成21年4月23日 | 795,900,000 | 一般 | 同上 | - | 西松建設株式会社九州支店 福岡市中央区薬園2丁目17番30号 | - | 2 | | | ▲ |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|----|--|------------|---------------|-------|---------|------|---|--|------|---|--------------|----|
| 69 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新築機械設備(衛生)工事(その2) | 平成21年4月24日 | 619,500,000 | 一般 | 同上 | - | 三晃・ヤシマ特定建設工事共同企業体 代表者 株式会社 三晃空調沖縄営業所 沖縄県那覇市久米1-1-13 ブランビル久米 | - | 1 | 密接に関連する前業務を当該業者が受注しており、新規の業者が消極的になってしまったため。 | | ▲ |
| 70 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新築その他工事(その3) | 平成21年4月27日 | 1,396,500,000 | 一般 | 同上 | - | 竹中・仲本特定建設工事共同企業体 代表者 株式会社 竹中工務店九州支店 福岡市中央区天神四丁目2番20号 | - | 2 | - | | ▲ |
| 71 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新築電気設備工事(その2) | 平成21年4月27日 | 853,650,000 | 一般 | 同上 | - | 東光電気工事株式会社沖縄営業所 那覇市国場1185番5号 | - | 3 | - | | ▲ |
| 72 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹・環境整備(太陽光発電)工事 | 平成21年4月27日 | 47,250,000 | 一般 | 同上 | - | 金城電気工事株式会社 沖縄県那覇市安里三丁目6番29号 | - | 11 | - | | ▲ |
| 73 | ワーキンググループ会合開催支援業務 | 平成21年4月28日 | 4,544,369 | 随意 | 同上 | - | ザ・ベンシユラ東京 東京都千代田区有楽町1-8-1 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため | - | - | | ▲ |
| 74 | 国際サマースクールOCNC2009開催支援業務(航空券) | 平成21年4月28日 | 11,322,700 | 一般 | 同上 | - | 株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル 東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル15階 | - | 3 | - | | |
| 75 | ラウト用個別換気式飼育システム及びケージ交換ステーション一式の購入 | 平成21年4月28日 | 8,788,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 76 | ラウト用自動給水付き飼育ラウト及びラウト飼育ケージ一式の購入 | 平成21年4月28日 | 4,966,080 | 一般 | 同上 | - | エデストロムジャパン株式会社 東京都港区赤坂1-11-28 | - | 2 | - | | |
| 77 | 動物施設洗浄機器等 一式の購入 | 平成21年4月28日 | 73,500,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 78 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟新築機械設備(空調)工事(その2) | 平成21年4月28日 | 1,585,500,000 | 一般 | 同上 | - | ダイダシ株式会社九州支社 福岡市中央区菅町三丁目1番24号 | - | 1 | 密接に関連する前業務を当該業者が受注しており、新規の業者が消極的になってしまったため。 | | ▲ |
| 79 | 研究交流センター 電気料5月 | 平成21年5月1日 | 3,491,555 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 80 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)講堂等実施設計業務 | 平成21年5月11日 | 96,453,000 | 公募 | 同上 | - | 日建設計/コンパネ・アソシエイツ/国建 共同 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (参加者確認型公募による随意契約) | 0 | 密接に関連する前業務を当該業者が受注しており、新規の業者が消極的になってしまったため。 | | ▲ |
| 81 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)トンネル内装及び周辺環境整備電気設備他工事 | 平成21年5月28日 | 238,350,000 | 一般 | 同上 | - | 東光電気工事株式会社沖縄営業所 沖縄県那覇市国場1185番5号 | - | 13 | - | | ▲ |
| 82 | DNAシーケンシング用試薬(Illumina GA II用)一式の購入 | 平成21年5月29日 | 7,581,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 83 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹環境整備(道路理設配管等)工事(その3) | 平成21年5月29日 | 265,650,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社 仲本工業 沖縄県沖縄市美里6丁目5番1号 | - | 9 | - | | ▲ |
| 84 | 研究交流センター 電気料6月 | 平成21年6月1日 | 4,135,841 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 85 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構(交流センター)施設整備業務 | 平成21年6月1日 | 13,904,940 | 一般 | 同上 | - | 沖縄ビルメンテナンス株式会社 沖縄県那覇市曙2丁目8番18号 | - | 8 | - | | ▲ |
| 86 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究実験施設等実施設計業務(その7) | 平成21年6月11日 | 38,661,000 | 随意 | 同上 | - | 日建設計/コンパネ・アソシエイツ/国建 共同代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 本業務は設計意図伝達業務であり、設計行為の延長である。設計上の責任を明確にし、設計意図を正確に伝えることが出来るのは、設計業務受注者のみである。 | - | - | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|-----|--------------------------------------|------------|----------------------|-------|---------|------|--|---|------|---|--------------|----|
| 87 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)施設整備に係る工事監理業務(その6) | 平成21年6月11日 | 54,631,500 | 随意 | 同上 | - | 日建設計・国建共同体 代表者 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている | - | - | | |
| 88 | 生体分子精製用クロマトグラフィシステム等の保守 | 平成21年6月12日 | 1,174,950 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ロジックバイオ 大阪府茨木市中穂積3-14-10 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 89 | X線解析装置等の保守 | 平成21年6月12日 | 2,047,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ロジックバイオ 大阪府茨木市中穂積3-14-10 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 90 | ハイブリッドフーリエ変換型質量分析装置 一式の保守 | 平成21年6月12日 | 3,568,425 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ウインクス 京都府宇治市伊勢田町名木2丁目1番地の233 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 91 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟造付け家具等内装工事 | 平成21年6月17日 | 365,400,000 | 一般 | 同上 | - | 高島屋スペースクリエイツ株式会社 東京都中央区日本橋茅場町2丁目12番7号 | - | 7 | - | | ▲ |
| 92 | 電子顕微鏡用フレームレートカメラシステム 一式の購入 | 平成21年6月23日 | 8,394,750 | 一般 | 同上 | - | 株式会社日立ハイテクノロジーズ 東京都港区西新橋1丁目24番14号 | - | 1 | 既設の顕微鏡の機能付加を行うものであり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 93 | 予算編成システムの導入、一式 | 平成21年6月23日 | 4,704,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ジュッポワークス 大阪府大阪市松ヶ枝町1番39号 | - | 1 | 当機種の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。 | | |
| 94 | プラズマ洗浄装置 一式の購入 | 平成21年6月23日 | 7,108,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 95 | 研究交流センター 電気料7月 | 平成21年7月1日 | 5,330,192 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 96 | 弁護士報酬(人事案件) | 平成21年7月1日 | パートナー 49,350 円/時間 | 随意 | 同上 | - | アンダーソン・毛利・友常法律事務所 東京都港区六本木一丁目6番1号 泉ガーデンタワー | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 同事務所は、人事・労務に係る諸問題に精通し、着実な業務の遂行が認められることから随意契約を行ったものである。 | - | - | | |
| 97 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟家具設計業務(その2) | 平成21年7月7日 | 14,385,000 | 随意 | 同上 | - | 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている | - | - | | |
| 98 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟家具工事監理業務 | 平成21年7月7日 | 40,708,500 | 随意 | 同上 | - | 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている | - | - | | |
| 99 | 実験動物飲料水製造装置 一式の購入 | 平成21年7月17日 | 9,345,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄設計サービス株式会社 沖縄県浦添市宮城5丁目7番8号 | - | 4 | - | | |
| 100 | DNAシーケンシング用試薬 一式の購入 | 平成21年7月17日 | 14,154,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 101 | 9月国際ワークショップ開催支援業務(国際航空券) | 平成21年7月17日 | 5,902,900 | 一般 | 同上 | - | 株式会社JTBグローバルマーケティング & トラベル 東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル15階 | - | 3 | - | | |
| 102 | 第8回運営委員会開催支援業務 | 平成21年7月31日 | 5,116,122 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ニューオータニ 東京都千代田区紀尾井町4-1 | - | 2 | - | | ▲ |
| 103 | 研究交流センター 電気料8月 | 平成21年8月1日 | 5,257,363 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 104 | 官報公告掲載料 | 平成21年8月7日 | 1,411,884 | 随意 | 同上 | - | 沖縄県官報販売所 沖縄県那覇市久茂地1丁目1番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契約とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|-----|---|------------|--|-------|---------|------|---|--|------|--|--------------|----|
| 105 | パルスフィールド核酸電気泳動システム 一式の購入 | 平成21年8月18日 | 2,982,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 106 | 4連サーマルサイクラーシステム 一式の購入 | 平成21年8月18日 | 7,827,750 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 107 | 短鎖読取型次世代DNAシーケンシングシステム 一式の購入 | 平成21年8月18日 | 64,900,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 108 | 共焦点レーザスキャン顕微鏡 一式の購入 | 平成21年8月18日 | 55,009,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 109 | 11月国際ワークショップ開催支援業務(国際航空券) | 平成21年8月18日 | 15,728,511 | 一般 | 同上 | - | 株式会社日本旅行 東京都港区新橋2丁目20番15号 | - | 2 | - | | |
| 110 | DNAシーケンシング用試薬 一式の購入 | 平成21年8月28日 | 14,353,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 111 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称) 研究棟1・センター棟植栽工事 | 平成21年8月31日 | 42,000,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社 グリーンテックトータル 沖縄県浦添市前田617番地 | - | 17 | - | | ▲ |
| 112 | 研究交流センター 電気料9月 | 平成21年9月1日 | 4,580,693 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 113 | 平成21年度沖縄科学技術大学院大学(仮称)土木工事監理業務 | 平成21年9月1日 | 14,700,000 | 公募 | 同上 | - | 社団法人 沖縄建設弘済会 沖縄県浦添市勢理客四丁目18番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (簡易公募型プロポーザル方式による随意契約) | 2 | - | | ▲ |
| 114 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称) 開発行為変更許可申請等業務 H21年度 | 平成21年9月1日 | 21,000,000 | 公募 | 同上 | - | 株式会社 オオバ 沖縄支店 沖縄県那覇市前島3-25-1 とまりんB1 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (参加者確認型公募による随意契約) | 0 | 密接に関連する前業務を当該業者が受注しており、新規の業者が消極的になってしまったため。 | | ▲ |
| 115 | 什器及び複合機の賃貸借 | 平成21年9月1日 | 4,110,120 | 一般 | 同上 | - | 株式会社おきぎんリース 沖縄県那覇市前島二丁目21番1号 | - | 2 | - | | |
| 116 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称) 研究棟1新営電気設備(LAN)工事 | 平成21年9月8日 | 65,410,057 | 一般 | 同上 | - | アメリカンエンジニアコーポレーション 沖縄県宜野湾市大山7丁目8-13 | - | 6 | - | | ▲ |
| 117 | 国際ワークショップ「Cell Regulations in Division and Arrest」開催支援業務(国際航空券) | 平成21年9月11日 | 3,528,294 | 一般 | 同上 | - | 株式会社日本旅行 東京都港区新橋2丁目20番15号 | - | 2 | - | | |
| 118 | 日本語研修 一式 | 平成21年9月11日 | 120分授業 12,800円/クラス 60分授業 8,400円/クラス | 一般 | 同上 | - | 株式会社OWLS 沖縄県宜野湾市長田4-13-8 | - | 1 | 当機構の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。 | | ▲ |
| 119 | 放射線取扱施設管理システム 一式の購入 | 平成21年9月25日 | 76,650,000 | 一般 | 同上 | - | 富士電機システムズ株式会社 東京都品川区大崎1丁目11番2号 | - | 1 | 当機構の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。 | | ▲ |
| 120 | ドラフトチャンバー 一式の購入 | 平成21年9月25日 | 21,735,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 3 | - | | |
| 121 | BACライブラリ 作成業務 一式 | 平成21年9月28日 | 4,380,501 | 随意 | 同上 | - | Amplicon Express NE Hopkins Court Pullman, WA99163 USA | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため | - | - | | |
| 122 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称) 研究棟1・センター棟等防犯システム 一式の購入 | 平成21年9月28日 | 43,050,000 | 一般 | 同上 | - | セコム琉球株式会社 沖縄県那覇市久米2丁目3番15号 | - | 4 | - | | |
| 123 | リアルタイムサーマルサイクラー 一式の購入 | 平成21年9月28日 | 5,197,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 124 | 新規DNAシーケンサ用周辺機器類 一式の購入 | 平成21年9月28日 | 2,273,250 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|-----|---|-------------|-------------|-------|---------|------|---|---|------|---|--------------|----|
| 125 | 新規DNAシーケンササンプル準備用周辺機器類一式の購入 | 平成21年9月28日 | 6,562,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 126 | 機能的磁気共鳴画像装置(MRI)装置他の賃借(時間借) | 平成21年9月28日 | 168,000円/単位 | 一般 | 同上 | - | 株式会社ATR-Promotions 京都府相楽郡精華町光台二丁目2番地2 | - | 1 | 当該MRI装置は(株)ATR-Promotions内にのみ存在するため、同社しか応札できない。 | | |
| 127 | 共焦点レーザスキャン顕微鏡 一式の購入 | 平成21年9月28日 | 71,284,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 128 | 研究交流センター 電気料10月 | 平成21年10月1日 | 3,627,604 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 129 | オープンハウス2009開催支援業務委託 | 平成21年10月13日 | 3,845,888 | 企画 | 同上 | - | 株式会社ピガロエージェンシー 沖縄県那覇市松尾2-22-28 マリカビル201 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約) | 2 | - | | |
| 130 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)基幹環境整備(2号機上部工) | 平成21年10月15日 | 342,909,000 | 一般 | 同上 | - | 宮地鐵工所・金秀鉄工特定建設工事共同企業体 代表者(株)宮地鐵工所沖縄営業所 沖縄県那覇市泉崎2丁目103番地28 | - | 3 | - | | ▲ |
| 131 | 新規DNAシーケンサ用マイクロコンピュータシステム 一式の購入 | 平成21年10月19日 | 10,657,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 132 | IP-PBXの保守 | 平成21年10月23日 | 1,050,000 | 一般 | 同上 | - | 光通信工業株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目4番10号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 133 | 2010年外国逐次刊行物の購入(Aグループ) | 平成21年10月29日 | 31,531,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社紀伊屋書店 九州営業部 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2-1 | - | 2 | - | | |
| 134 | 2010年外国逐次刊行物の購入(Bグループ) | 平成21年10月29日 | 20,590,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社紀伊屋書店 九州営業部 福岡県福岡市博多区博多駅中央街2-1 | - | 2 | - | | |
| 135 | 2010年外国逐次刊行物の購入(Cグループ) | 平成21年10月29日 | 25,737,600 | 一般 | 同上 | - | 丸善株式会社 沖縄出張所 沖縄県那覇市泉崎1-12-7 | - | 2 | - | | |
| 136 | Payao CallDesigner 4.1 ファイル対応機能追加 | 平成21年10月30日 | 5,512,500 | 一般 | 同上 | - | 三井情報株式会社 東京都港区愛宕二丁目5番地1号 | - | 1 | 三井情報株式会社が独自に開発したソフトウェアの機能追加であり、他社が応札することは不可能。 | | |
| 137 | 新規DNAシーケンサ用DNA断片化装置の購入 | 平成21年10月30日 | 3,643,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 138 | 12月国際ワークショップ開催支援業務(国際航空券) | 平成21年10月30日 | 6,412,350 | 一般 | 同上 | - | 株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル 東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル15階 | - | 3 | - | | |
| 139 | 研究交流センター 電気料11月 | 平成21年11月1日 | 3,125,836 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 140 | 超低温フリーザーの購入 | 平成21年11月12日 | 2,084,775 | 随意 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため | - | - | | |
| 141 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)宿舎整備事業財務等アドバイザー業務 | 平成21年11月13日 | 9,993,900 | 企画 | 同上 | - | PWCアドバイザー株式会社 東京都千代田区丸の内1丁目6番6号日本生命丸の内ビル20階 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約) | 2 | - | | ▲ |
| 142 | ネットワークスイッチの導入 一式 | 平成21年11月20日 | 36,624,000 | 一般 | 同上 | - | 三井情報株式会社 東京都港区愛宕二丁目5番地1号 | - | 4 | - | | |
| 143 | DNAシーケンシング用試薬(Illumina GA II用)一式の購入(電子入札対象案件) | 平成21年11月20日 | 7,843,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 144 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1-センター棟及び周辺サイン工事 | 平成21年11月25日 | 25,672,500 | 一般 | 同上 | - | 有限会社 良和組 沖縄県国頭郡本部町宇東326番地の1 | - | 2 | - | | ▲ |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率 % | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|-----|---|-------------|-------------|-------|---------|-------|--|---|------|--|--------------|----|
| 145 | 神経細胞電気活動測定システム一式の購入 | 平成21年11月30日 | 18,165,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社フジオテック 東京都千代田区岩本町1-6-3 | - | 1 | (株)フジオテックは目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 146 | 超低温フリーザーの購入(縦型) | 平成21年11月30日 | 2,152,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 147 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)キャンパス構内設置映像・音響機器等の調達 | 平成21年11月30日 | 39,900,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社沖縄科学AVセンター 沖縄県浦添市勢理窓1丁目2番29号 | - | 3 | - | | |
| 148 | 人材募集広告掲載業務 | 平成21年11月30日 | 2,005,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社林企画 東京都渋谷区渋谷3丁目7番1号 | - | 2 | - | | |
| 149 | 研究交流センター 電気料12月 | 平成21年12月1日 | 2,657,925 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 150 | 研究棟1及びセンター棟 電気料12月分 | 平成21年12月1日 | 1,197,852 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 151 | ラック及び電源供給システムの導入一式 | 平成21年12月4日 | 29,505,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社NTT西日本一九州 沖縄支店 沖縄県浦添市城間4丁目35番1号 | - | 2 | - | | |
| 152 | 精密機器等移転業務 | 平成21年12月7日 | 202,727,700 | 一般 | 同上 | - | 三進金属工業株式会社 京都支店 京都府京都市下京区河原町仏光寺角 | - | 2 | - | | |
| 153 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟一般・造付け家具等内装工事 | 平成21年12月9日 | 144,900,000 | 一般 | 同上 | - | 住商インテリアインターナショナル株式会社 東京都千代田区神田錦町3-24-1 住友商事神保町ビル2階 | - | 5 | - | | ▲ |
| 154 | 顕微鏡用デジタルカメラシステム一式の購入 | 平成21年12月11日 | 1,524,600 | 一般 | 同上 | - | 株式会社 中央医療器 沖縄県南風原町字神里409番5 | - | 2 | - | | |
| 155 | バイオハザード対策用キャビネット及び薬用保冷庫一式の購入 | 平成21年12月11日 | 1,929,900 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 156 | 超低温フリーザー一式の購入(横型) | 平成21年12月11日 | 2,353,050 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 157 | 正位・実体顕微鏡システム一式の購入 | 平成21年12月11日 | 7,854,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 158 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟家具工事 監理業務(その2) | 平成21年12月15日 | 3,465,000 | 随意 | 同上 | - | 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている | - | - | | |
| 159 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)研究棟1・センター棟家具設計業務(その3) | 平成21年12月15日 | 1,260,000 | 随意 | 同上 | - | 株式会社 日建設計 東京都千代田区飯田橋2丁目18番3号 | 会計規程第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 元業務を公募型プロポーザル方式により業者選定する際に、元業務に直接関係する業務として本業務を含めて選定を行っている | - | - | | |
| 160 | 設備管理及び警備業務一式 | 平成21年12月18日 | 132,693,750 | 一般 | 同上 | - | 沖縄ビルメンテナンス協同組合 沖縄県那覇市曙2丁目27番14号 | - | 2 | - | | |
| 161 | デジタル脳定位固定装置一式の購入 | 平成21年12月18日 | 5,348,196 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 162 | 手術用顕微鏡の購入 | 平成21年12月18日 | 2,299,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄/ボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 163 | Roshe GS FLX Titanium システムカメラユニット真空引き作業 | 平成21年12月18日 | 1,932,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄/ボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|-----|--|-------------|------------|-------|---------|------|--|--|------|--|--------------|----|
| 164 | Roshe GS FLX Titanium システムカメラ保守点検 | 平成21年12月18日 | 2,646,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | 納入元による保守契約が必須であり、機器の供給者又はメーカーの代理店しか応札できないため。 | | |
| 165 | 振動刃マイクロトーム一式の購入 | 平成21年12月18日 | 2,551,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 166 | 化学発光検出器一式の購入 | 平成21年12月18日 | 3,341,625 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 167 | オートクレープ一式の購入 | 平成21年12月18日 | 5,773,950 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 168 | バイオハザード対策キャビネット一式の購入 | 平成21年12月21日 | 8,284,500 | 一般 | 同上 | - | オリエンタル技研工業 東京都千代田区神田錦町2丁目9番 コンフォール安田ビル | - | 3 | - | | |
| 169 | 汎用研究機器一式の購入 | 平成21年12月21日 | 21,840,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 170 | 卓上型プッシュプル換気装置一式の購入 | 平成21年12月21日 | 1,707,300 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 171 | 遺伝子発現解析システム一式の購入 | 平成21年12月21日 | 12,432,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 172 | 全自動洗濯機・全自動スチーム乾燥機一式の購入 | 平成21年12月22日 | 3,780,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 173 | メディカルフリーザー他研究機器一式の購入 | 平成21年12月22日 | 4,567,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 174 | 蛍光実体顕微鏡一式の購入 | 平成21年12月22日 | 4,147,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 175 | 神経細胞電気活動測定システム一式の購入 | 平成21年12月22日 | 12,883,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社フジオテック 東京都千代田区岩本町1-6-3 | - | 2 | - | | |
| 176 | 固定式正立顕微鏡一式の購入 | 平成21年12月22日 | 6,038,550 | 一般 | 同上 | - | 株式会社 中央医療器 沖縄県南風原町字神里4Q9番5 | - | 3 | - | | |
| 177 | IP電話の導入一式 | 平成21年12月22日 | 16,380,000 | 一般 | 同上 | - | 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 福岡県福岡市中央区天神4-1-1 | - | 4 | - | | |
| 178 | R1関連機器一式の購入 | 平成21年12月28日 | 22,155,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 179 | 研究棟1及びセンター棟 電気料1月分 | 平成22年1月1日 | 12,901,851 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 180 | IEEE AI-Society Periodicals Package(ASPP) Online の購読 | 平成22年1月1日 | 5,780,040 | 随意 | 同上 | - | 丸善株式会社沖縄出張所 沖縄県那覇市泉崎1丁目12番7号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該電子書籍は丸善株式会社のみから提供されているため | - | - | | |
| 181 | 研究交流センター 電気料1月 | 平成22年1月1日 | 2,605,545 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 182 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称) 橋脚周辺モルタル吹付け工事 | 平成22年1月4日 | 6,405,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社 大育組 沖縄県那覇市東町16番9号 | - | 3 | - | | |
| 183 | 人材募集広告掲載業務 | 平成22年1月6日 | 1,134,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社林企画 東京都渋谷区渋谷3丁目7番1号 | - | 1 | 当機構の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。 | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|-----|--|------------|---|-------|---------|------|--|---|------|--|--------------|----|
| 184 | 沖縄科学技術大学院大学(仮称)新業務システム(ERP)要件策定支援業務 | 平成22年1月15日 | 14,929,100 | 企画 | 同上 | - | 株式会社ビジネスブレイン太田昭和 東京都千代田区内幸町2丁目2番3号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約) | 6 | - | | ▲ |
| 185 | 火災保険契約 一式 | 平成22年1月15日 | 1,082,310 | 一般 | 同上 | - | 日本興亜損害保険株式会社 東京都千代田区霞が関3丁目7番3号 | - | 1 | 当機種の要求する仕様を満たすことのできる業者が他になく、結果的に1者による応札となったもの。 | | |
| 186 | 遠心機 一式の購入 | 平成22年1月15日 | 1,671,075 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | ▲ |
| 187 | Payeo 機能拡張 | 平成22年1月15日 | 7,140,000 | 一般 | 同上 | - | 三井情報株式会社 東京都港区愛宕二丁目5番地1号 | - | 1 | 三井情報株式会社が独自に開発したソフトウェアの機能追加であり、他社が応札することは不可能。 | | |
| 188 | ヒストロジ用機器 一式の購入 | 平成22年1月15日 | 14,983,500 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原字津嘉山1582 | - | 1 | 沖縄メディックス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 189 | 冷蔵・冷凍機器一式の購入 | 平成22年1月15日 | 1,617,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 190 | マルチフォン走査型レーザ顕微鏡用光学調整ユニットの購入 | 平成22年1月15日 | 18,564,000 | 一般 | 同上 | - | 株式会社 中央医療器 沖縄県南風原町字神里409番5 | - | 2 | - | | |
| 191 | Macintosh 一式の購入 | 平成22年1月29日 | 1,680,000 | 随意 | 同上 | - | 沖縄パナソニック特機株式会社 沖縄県那覇市西2丁目15番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第10号 一般競争入札に付したが入札者が無かったため | - | - | | |
| 192 | 研究棟1及びセンター棟 電気料2月分 | 平成22年2月1日 | 10,155,812 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 193 | 研究交流センター 電気料2月 | 平成22年2月1日 | 2,679,413 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 194 | マウス用個別換気式飼育ラック及び専用ケージの購入 | 平成22年2月4日 | 個別換気式飼育ラック 2,291,289円 専用ケージ 13,041円 | 一般 | 同上 | - | エデストロムジャパン株式会社 東京都港区赤坂1-11-28 | - | 1 | エデストロムジャパン(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 195 | 研究棟1及びセンター棟 電気料3月分 | 平成22年3月1日 | 14,841,721 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 196 | 研究交流センター 電気料3月 | 平成22年3月1日 | 2,577,588 | 随意 | 同上 | - | 沖縄電力株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目2番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 当該地域で唯一の供給者であるため | - | - | | |
| 197 | アジアにおける大学院/大学のベンチマーク調査 | 平成22年3月1日 | 11,812,500 | 企画 | 同上 | - | 株式会社野村総合研究所 東京都千代田区丸の内1-6-5 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号 (企画競争コンペティション方式による随意契約) | 8 | - | | ▲ |
| 198 | A重油の調達 その1 | 平成22年3月5日 | 58.3円/L | 一般 | 同上 | - | 株式会社 りゅうせき 沖縄県浦添市西州2丁目 | - | 3 | - | | |
| 199 | DNAシーケンシング用試薬(Illumina GA II用)一式の購入 | 平成22年3月5日 | 6,108,900 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |
| 200 | 「OIST恩納村キャンパス研究開始セレモニー」に関する手配業務 | 平成22年3月5日 | 2,671,500 | 一般 | 同上 | - | 株式会社サン・エージェンシー 沖縄県那覇市上之屋314番地2 | - | 4 | - | | |
| 201 | Altix4700システムの移設にかかるシステムの解体と再設定の業務 | 平成22年3月8日 | 5,134,500 | 一般 | 同上 | - | 日本SGI株式会社 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 | - | 1 | 既設の機器の解体、再設定業務であり、機器の供給者しか応れできないため。 | | |
| 202 | 沖縄科学技術研究基盤整備機構 清掃業務一式 | 平成22年3月9日 | 49,770,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄ビルメンテナンス協同組合 沖縄県那覇市曙2丁目27番14号 | - | 2 | - | | ▲ |
| 203 | Mascot Server Cluster用PGクラスターシステム一式の購入 | 平成22年3月9日 | 2,205,000 | 一般 | 同上 | - | マトリックスサイエンス株式会社 東京都千代田区外神田6-10-12 KNC'ル3F | - | 1 | 既設の質量分析装置の機能付加を行うものであり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまうため。 | | |

| 番号 | 件名 | 契約日 | 契約金額(円) | 契約の種類 | 予定価格(円) | 落札率% | 契約者の名称及び住所 | 随契とした根拠規定と理由 | 応札者数 | 一者応札の場合、一者応札となった理由 | 契約先へ再就職した役員数 | 備考 |
|-----|-------------------------------------|------------|---------------|-------|---------|------|-------------------------------------|---|------|---|--------------|----|
| 204 | 正立顕微鏡 一式の購入 | 平成22年3月15日 | 5,811,750 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 205 | 研究機器 一式の購入 | 平成22年3月15日 | 6,216,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 206 | 低温庫温度異常警報システム 一式の購入 | 平成22年3月18日 | 9,534,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 207 | レーザー顕微鏡用無停電電源装置一式の購入 | 平成22年3月18日 | 3,580,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 208 | シーケンサ用DNAクラスター作成装置一式の購入 | 平成22年3月23日 | 4,987,500 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 209 | DNAシーケンシング用試薬(Illumina GA II用)一式の購入 | 平成22年3月23日 | 2,420,250 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 210 | シーケンシングセンター用機器 一式の購入 | 平成22年3月24日 | 4,326,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 2 | - | | |
| 211 | 大学院大学メインアクセス用地取得 | 平成22年3月26日 | 144,286,766 | 随意 | 同上 | - | 内閣府沖縄総合事務局 沖縄県那覇市おもろまち2丁目1番1号 | 会計規定第17条 契約事務取扱規則第31条第1項第1号及び第8号 国から施設整備用地を直接買入れる契約 | - | - | | |
| 212 | ルミネッセンスマイクロプレートリーダー 一式の購入 | 平成22年3月26日 | 4,158,000 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる機器の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| 213 | 顕微鏡用カラーCCDカメラシステム 一式の購入 | 平成22年3月29日 | 2,268,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原市津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 214 | 種微量分光光度計 一式の購入 | 平成22年3月29日 | 1,785,000 | 一般 | 同上 | - | 沖縄メディックス株式会社 沖縄県島尻郡南風原市津嘉山1582 | - | 2 | - | | |
| 215 | DNAシーケンシング用試薬(Illumina GA II用)一式の購入 | 平成22年3月29日 | 10,257,450 | 一般 | 同上 | - | トミー沖縄ノボサイエンス株式会社 沖縄県浦添市牧港5丁目6番2号 | - | 1 | トミー沖縄ノボサイエンス(株)は目的となる試薬の販売代理店であり、必然的に供給可能な業者が限定されてしまったため。 | | |
| | 合計 | | 9,736,717,256 | | | | | | | | | |

(注)1 調達基準(随意契約によることのできる場合):

- 予定価格が250万円を超えない工事又は製造をさせるとき
- 予定価格が160万円を超えない財産を買い入れるとき
- 予定賃借料の年額又は総額が80万円を超えない物件を借り入れるとき
- 工事又は製造の請負、物件の賃借以外の契約でその予定価格が100万円を超えないものをとするとき

(注)2 公表基準:

- ① 公共工事(公共工事に係る調査及び設計業務等を含む。)の名称、場所、期間及び種別又は物品等若しくは役務の名称及び数量
 - ② 契約担当官等の氏名並びにその所属する部署の名称及び所在地
 - ③ 契約を締結した日
 - ④ 契約の相手方の商号又は名称及び住所
 - ⑤ 一般競争入札又は指名競争入札の別及び総合評価方式による場合は、その旨(随意契約を行った場合を除く。)
 - ⑥ 契約金額
 - ⑦ 予定価格(公表したとしても、他の契約の予定価格を類推されるおそれがないと認められるもの又は国の事務又は事業に支障を生じるおそれがないと認められるものに限る。)
 - ⑧ 落札率(契約金額を予定価格で除したものに百を乗じて得た率。予定価格を公表しない場合を除く。)
 - ⑨ 随意契約によることとした会計法令の根拠条文及び理由(理由は、具体的かつ詳細に記載すること。また、企画競争又は公募手続きを行った場合には、その旨を記載すること。)
 - ⑩ 所管する公益法人と随意契約を締結する場合に、当該法人に国の常勤職員であったものが役員として、契約を締結した日に在職していれば、その人数
 - ⑪ その他必要と認められる事項
- (予定価格が予算令第99条第2号、第3号、第4号又は第7号のそれぞれの金額を超えないものを除く)

(注)3 契約種類欄については、一般競争=「一般」、指名競争=「指名」、随契のうち企画競争=「企画」、随契のうち公募=「公募」、その他の随契=「随契」について記入する。

(注)4 調達基準及び公表基準を国の基準に合わせることであり、当一覧表に掲載されることとなったものについては、備考欄に○を付す。

(注)5 随意契約の見直しにより、22年度以降、一般(又は指名競争入札)に移行するものについては、備考欄に◎を付す。

(注)6 応募に当たり、当該契約内容に関して実務経験者の在籍の有無又は契約(請負)実績の有無を条件としたものについては、備考欄に▲を付す。

(注)7 関連公益法人との契約については、備考欄に「関連」と記載する。

| 1者応札の割合 平成21年度 | | 単位:件、円 | |
|----------------|----|---------------|-------|
| 1者以下 | 件数 | 76 | 48.0% |
| | 金額 | 2,869,242,543 | 33.0% |
| 2者以上 | 件数 | 84 | 53.0% |
| | 金額 | 5,848,635,934 | 67.0% |

**Independent Administrative Institution
Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation
Detailed Stipulations for Procurement Contract**

Examination Committee

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構
調達契約審査委員会細則

(Detailed Stipulations No. 11 of 2005 – September 1, 2005)
(平成 17 年 9 月 1 日 平成 17 年細則第 11 号)

Revised (Detailed Stipulations No. 3 of 2009 – March 31, 2009)
改正(平成 21 年 3 月 31 日 平成 21 年細則第 3 号)

(Purpose 目的)

Article 1 第1条

The purpose of these Detailed Stipulations is to specify items regarding the Procurement Contract Examination Committee (hereafter referred to as “the Committee”) that will be convened whenever persons handling contracts (hereafter referred to as “Contract Works Coordinators”) specified in Article 16 of the Independent Administrative Institution Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation Accounting Regulations (Regulation No. 1 of 2005; hereafter referred to as “Accounting Regulations”) request examinations regarding the handling of works concerning contracts being concluded by the Independent Administrative Institution Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation (hereafter referred to as “the Corporation”).

この細則は、独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構が締結する契約に関して、独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構会計規程(H17規程第1号。以下「会計規程」という。)第16条に規定する契約事務を行う者(以下「契約事務担当者」という。)が、その事務の取扱について、審査要求を行った場合に開催する契約審査委員会(以下「委員会」という。)について定める。

(Committee Establishment 委員会の設置)

Article 2 第2条

1. The President shall establish the Committee to examine the contract works specified in Article 4 of these Detailed Stipulations.

理事長は、本細則第4条に規定する契約事務について審査するため、委員会を設置する。

2. The Director of Finance and Human Resources Division shall convene the Committee whenever receiving requests from Contract Works Coordinators to examine contract works specified in Article 4 of these Detailed Stipulations.

財務・人事部長は、契約事務担当者から本細則第4条に規定する契約事務につい

て審査要求があった場合においては、そのつど、委員会を開催する。

(Committee Composition 委員会の構成)

Article 3 第3条

1. The Committee shall comprise the Committee Chairperson and a number of Committee Members.
委員会は、委員長及び委員若干名をもって構成する。
2. The Director of Finance and Human Resources Division shall serve as the Committee Chairperson.
委員長は、財務・人事部長をもって充てる。
3. When the Committee Chairperson is traveling on business or otherwise absent, a Committee Member appointed by the Committee Chairperson beforehand shall carry out the Chairperson's duties in his or her place.
委員長が出張等のため不在のときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。
4. Committee Members shall include the following individuals.
委員は、次の各号に掲げる者とする。
 - (1) The Director of Finance and Human Resources Division
財務・人事部長
 - (2) A representative of the department or division requesting the procurement (head of the department or division, Principal Investigator, etc.)
調達(契約)を要請する部署の代表者(部署長、代表研究者等)
 - (3) The Procurement Manager
調達課長
 - (4) The Budget & Analysis Manager
予算課長
 - (5) Other persons appointed by the Committee Chairperson (academic experts, etc.)
その他委員長が指名する者(学識経験者等)

(Scope of Works 事務の範囲)

Article 4 第4条

The Committee shall examine the following items concerning contracts being concluded by the Corporation.

委員会は、沖縄科学技術研究基盤整備機構の締結する契約に関する次の事項を審査する。

- (1) The feasibility of procurement from the lowest bidder based on the investigations as specified in Article 24-2 of the Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation Contract Management Stipulations
沖縄科学技術研究基盤整備機構契約事務取扱規則第24条2項に規定する最低価格の入札者の調査に基づく実施可能性の可否
- (2) The suitability of applying the Overall Greatest Value Method of Bidding, Competitive Bidding or Qualified Bidder Identification specified in Article

26 of the Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation Contract Management Stipulations

沖縄科学技術研究基盤整備機構契約事務取扱規則第26条に規定する総合評価落札方式、企画競争又は公募の適否

(3) Other items regarding the concerned contract for which the Contract Works Coordinator has requested examinations

その他契約事務担当者から審査要求のあった当該契約に関する事項

(Committee Duties 委員会の任務)

Article 5 第5条

The Committee shall conduct examinations on the required examination items, report on their suitability to the head (Principal Investigator, etc.) of the department or division requesting the contract with the opinions specified in Article 6 of these Detailed Stipulations (including the contents when there are differences of opinion within the Committee), and submit a written notification to the Contract Works Coordinator.

委員会は、審査要求事項について審査し、その適否について本細則第6条による意見を添えて(意見が一致しないものについては、その内容を含む。)、当該契約を希望する部署の長(代表研究者等)に報告するとともに、契約事務担当者に書面をもって通知するものとする。

(Committee Administration 委員会の運営)

Article 6 第6条

1. The Committee Chairperson shall preside over Committee Meetings.

委員長は、委員会を主宰する。

2. The Committee may ask the head (Principal Investigator, etc.) of the department or division (research unit, etc.) requesting the concerned contract and other concerned parties to attend Committee meetings and provide explanations regarding the examination item contents.

委員会には、当該契約の締結を希望する部署(研究ユニット等)の長(代表者研究者等)、その他関係者を出席させ、審議事項の内容について説明を求めることができる。

3. Committee meetings cannot be held or resolutions passed without at least one-half of the Committee Members in attendance.

委員会は、構成委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開き、議決することができない。

4. Committee resolutions shall be determined by a majority vote of the Committee Members in attendance, with tie votes determined by the Committee Chairperson.

委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(Clerical Works 庶務)

Article 7 第7条

The Committee's clerical works shall be conducted by the Procurement Section, which shall implement works regarding Committee administration, prepare and store minutes of Committee Meetings, and conduct other necessary clerical works for the Committee.

委員会の庶務は、調達課において行い、委員会の運営に関する事務及び議事録の作成保管その他必要な事務を整理する。

(Miscellaneous Provisions 雑則)

Article 8 第8条

Aside from the items specified in the above articles, all necessary items concerning Committee administration shall be determined by the Committee Chairperson following consultation with the Committee.

前各条に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

Supplementary Provisions

These shall come into effect from September 1, 2005

附 則

この細則は、平成17年9月1日から施行する。

Supplementary Provisions

These shall come into effect from April 1, 2009.

附 則

この細則は、平成21年4月1日から施行する。

Independent Administrative Institution
Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation
Detailed Stipulations for Competitive Bidding in Procurement Contracts
独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構
調達契約に係る企画競争等の実施細則

(March 31, 2009; Detailed Stipulations No. 5 of 2008)
(平成21年3月31日 平成21年細則第5号)

(Purposes 目的)

Article 1 第1条

These Detailed Stipulations specify the necessary items concerning tenders via competitive bidding and technology examinations implemented for property and services procurement contracts (hereinafter referred to as "Procurement Contracts") concluded by the Independent Administrative Institution Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation (hereinafter referred to as the "Corporation"), aside from those items stipulated by the Accounting Regulations (Regulation No. 1 of 2005) and the Contract Management Stipulations (Stipulation No. 4 of 2005) for the smooth administration of contract management.

この細則は、独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（以下「機構」という。）が行う財産及び役務の調達に係る契約（以下「調達契約」という。）において実施する企画競争、技術審査による入札等に関し、会計規程（平成17年規程第1号）並びに契約事務取扱規則（平成17年規則第4号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、必要な事項を定め、契約事務の円滑な運営を図ることを目的とする。

(Range of Application 適用範囲)

Article 2 第2条

These Detailed Stipulations apply to procurements by the Corporation. However, they do not apply to procurements conducted through qualified bidder identification (except when deemed particularly necessary by the Procurement Section).

この細則は、機構の調達案件に適用する。ただし、参加者確認公募による調達案件（調達課が特に必要と認めたものを除く。）を除く。

(Procurements That May Be Subjected to Competitive Bidding 企画競争に付することができる場合)

Article 3 第3条

1. Competitive bidding is conducted when competition based on the proposed plans of parties submitting proposals can be expected to produce superior results.

企画競争は、提案者の企画提案を基に競争することにより優れた成果が期待できる場合に行うものとする。

2. The following types of procurements may be subjected to competitive bidding.

企画競争に付することができる調達案件は、次の各号の一に該当する場合とする

- (1) When it is necessary to employ experts and eminent personnel to enhance project recognition

有識者及び有名人等を起用し、事業の知名度を高める必要がある場合

- (2) When design, composition, and multimedia skills are needed for organizing events and creating pamphlets and other types of information media (including broadcasting programs)

イベントの実施、パンフレットや各種コンテンツ等（放送番組を含む。）の制作等において、デザイン及び構成等の視聴覚に対する感性が重視される場合

- (3) When procuring works etc. by specialists

専門的な職種による制作物等を調達する場合

- (4) When procuring surveys, analyses, tests, interpretations, examinations, training, development, and other services that, it is recognized, must be performed by staff with a thorough knowledge of the specialized field

専門分野に精通するスタッフにより行う必要があると認められる調査・分析、試験・解析、検査、研修、開発等を行う場合

- (5) When competitive bidding for comprehensive operations contracts (venue management, operational support, management work, etc.) can be expected to result in more economical and superior quality operations and management

総合的な業務（会場運営、運用支援、管理業務等）において、企画競争を行うことにより経済性に優れ質の良い運営、管理等を期待できる場合

- (6) In fields demanding more efficient or better quality services than usual, when efficient or high quality services can be expected from execution by highly proficient staff deployed under optimal plans

通常よりも効率性に優れ、又は高品質なサービスを要求される分野において、最適な計画の下に配置された熟練スタッフが遂行することにより、効率的又は高品質のサービスが期待できる場合

- (7) In operations conducted by the Corporation, when it has been determined beforehand that parties to assist the Corporation are to be selected through competitive bidding

機構の行う業務において、企画競争により支援先等を決定することがあらかじめ定められている場合

- (8) In other cases when wide-ranging recruitment by competitive bidding can be expected to generate superior results

その他、企画競争を行い広く公募することにより、優れた成果が期待できる場合

3. When the head of the unit requesting procurement of property or services (hereinafter referred to as the "Procurement Request Unit") wants to subject a procurement to competitive bidding, the head must establish a Proposal Examinations Committee as specified in Article 7 and ask the Procurement Section to implement competitive bidding.

財産及び役務の調達を請求する部室（以下「調達請求部室」という。）の長は、企画競争に付そうとする場合には、第7条に規定する提案審査委員会を設置し、企画競争の実施を調達課に依頼しなければならない。

4. When the Procurement Section is asked to implement competitive bidding by the head of the Procurement Request Unit, the Procurement Section must implement competitive bidding after confirming that the procurement may be subjected to competitive bidding under the criteria stipulated in Paragraph 2 above.

調達課は、調達請求部室の長から企画競争の実施の依頼があった場合は、第2項の基準に該当するかどうかを判断の上、企画競争に付するものとする。

(Implementation of Competitive Bidding 企画競争の実施)

Article 4 第4条

1. The Procurement Section must publish public notices that it will conduct competitive bidding (hereinafter referred to as "Competitive Bidding Notices") when it is going to subject a procurement to competitive bidding.

調達課は、企画競争に付そうとするときは、企画競争を行う旨の公告（以下「企画競争公告」という。）を行うものとする。

2. The provisions of Article 6 of the Contract Management Stipulations apply mutatis mutandis to Competitive Bidding Notices.

規則第6条の規定は、企画競争公告に準用する。

3. The Procurement Section will hold briefings on competitive bids to explain the specification forms and other documents to be submitted for proposal examinations and the required specifications. However, this will not apply in cases where explanations through briefings are deemed to be unnecessary based on the opinion of the Procurement Request Unit.

調達課は、提案審査に関する仕様書等及び要求仕様を明らかにするため、企画競争説明会を実施する。ただし、調達請求部室の意見を基に、企画競争説明会における説明を要しないと判断するときは、この限りではない

4. When so requested by parties that want to participate in the competitive bidding (hereinafter referred to as "Prospective Participants"), the Procurement Section will provide Prospective Participants with competitive bidding documents and disclose the examination standards.

調達課は、企画競争に参加しようとする者（以下「参加希望者」という。）から申請を受けたときは、参加希望者に対し、企画競争説明書を交付するとともに、審査基準を開示するものとする。

5. When considered necessary for implementing competitive bidding, the Procurement Section may disclose the budget amounts related to the concerned competitive bidding to the parties submitting proposals.

調達課は、企画競争を実施するために必要があると認めるときは、当該企画競争に係る予算額を提案者へ開示できるものとする。

6. The provisions of Articles 2, 3, and 4 of the Contract Management Stipulations apply mutatis mutandis to the qualifications for participating in competitive bidding.

企画競争の参加資格については、規則第2条、第3条及び第4条の規定を準用する。

7. In principle, the Corporation will not accept any charges for expenses incurred in the preparation of proposals from competitive bidding participants. However, charges for expenses may be accepted in cases where the Procurement Section expressly recognizes that payment for the preparation of proposals can be expected to promote competition and lead to superior results given the contents, nature, and other aspects of the property or services being procured, and public notice that payment will be made for proposals has been given. In such cases, the expense invoicing procedures and other items will be separately stipulated.

機構は、企画競争の参加者が提案書等の作成に要した費用についての請求は原則として認めない。ただし、調達しようとする財産及び役務の内容及び性質等から、提案書等を有償で作成の方が競争を促進し、より優れた成果が期待できるとして調達課が特に認め、有償にて提案書等を公募する旨を公告

したものについては、費用の請求を認めることができる。この場合において、費用請求手続等については、別に定めるものとする

8. The Procurement Section will award contracts to parties that submitted the most advantageous proposals, based on the examinations results.
調達課は、審査の結果、最も有利な提案をした者を契約相手方とするものとする。

(Cases when Technology Examinations may be Implemented 技術審査を実施することができる場合)

Article 5 第5条

1. Technology examinations may be implemented when competitive bidding is conducted and technology examinations are deemed necessary, given the property or services specifications, to confirm that the competitive bidding participants can fulfill the requirements stipulated on the specifications forms.
技術審査は、競争入札を行う場合において、財産及び役務の仕様の関係上、競争参加者が仕様書記載の要件を満たす履行が可能であることを審査する必要がある場合に行うものとする。

2. Technology examinations may be implemented for the following types of procurements.

技術審査を行うことができる調達案件は、次の各号の一に該当する場合とする。

- (1) Procurements of property and services that must meet a particular performance level
特定の性能レベルを有することが必須とされる財産及び役務を調達する場合
- (2) Procurements of property and services for which the fulfillment of the required functions cannot all be confirmed, for example, from product catalogs
製品カタログ等では要求される機能すべてを満たすことが確認できない財産及び役務を調達する場合
- (3) Production of custom-made products and purchases of products developed for the first time
特注品を制作する場合や初めて開発された製品を購入する場合
- (4) Development of special systems and other procurements where the development methods and implementation methods have a large influence on fulfilling the requirements
特殊なシステムの開発等、開発手法や実施方法が要求の達成に大きく影

響する場合

- (5) Other procurements where it is necessary to confirm that the requirements stipulated on the specifications forms are met

その他、仕様書記載の要件を満たしているかどうかを確認する必要がある場合

3. The Procurement Section may request that technology examinations be implemented when it judges that a procurement falls under the criteria stipulated in the preceding paragraph, even without a request from the head of the Procurement Request Unit.

調達課は、前項の要件に該当すると判断する場合には、調達請求部室の長からの要請がなくても、技術審査の実施を要求することができる。

4. When a Procurement Request Unit receives a request from the Procurement Section that technology examinations be implemented under the provisions of the previous paragraph, the Procurement Request Unit must promptly take the necessary measures for implementing the technology examinations.

前項の規定により、調達課から技術審査の実施を要求された調達請求部室の長は、速やかに技術審査の実施のために必要な措置を講じなければならない。

(Implementation of Technology Examinations 技術審査の実施)

Article 6 第6条

1. When the Procurement Section is to implement technology examinations, it must include notice that technology examinations will be implemented in the public notices and bid documents, and specify the deadline for submission of proposals.

調達課は、技術審査を実施する場合、入札公告及び入札説明書に技術審査を実施する旨の記載をするとともに、提案仕様書の提出期限を記載しなければならない。

2. When the head of the Procurement Request Unit is to implement technology examinations, the head must establish a Technology Examinations Committee and conduct the examinations.

調達請求部室の長は、技術審査を実施する場合には、技術審査委員会を設置し、審査を行うものとする。

3. The provisions of Article 7 apply mutatis mutandis to items concerning the composition and administration of Technology Examinations Committees and the details for the implementation of technology examinations.

技術審査委員会の構成・運営等及び技術審査の実施の細目については、第7条の規定を準用する。

(Proposal Examinations Committees, Members, Etc. 提案審査委員会)

Article 7 第7条

1. Proposal Examinations Committees will be established for each procurement, and each committee will be dissolved on the date the concerned procurement contract is concluded.
調達案件ごとに提案審査委員会を設置するものとし、当該調達案件に係る調達契約の締結の時をもって解散するものとする。
2. Proposal Examinations Committees will comprise a committee chairperson and committee members (hereinafter collectively referred to as "Examiners").
審査委員会は、審査委員長及び審査委員（以下「審査委員等」という。）により構成する。
3. In principle, Proposal Examinations Committees will have at least five Examiners, including the head of the Procurement Section.
審査委員等は、調達課長を含め、原則として5名以上とする。
4. The head of the Procurement Request Unit will serve as the Proposal Examinations Committee chairperson, and will direct and preside over the proposal examinations.
審査委員長は、調達請求部室の長をもって充てるものとし、審査を総括し、掌理する。
5. The Proposal Examinations Committee members will be appointed by the committee chairperson from among the officers and other employees of the Corporation in accordance with the contents of the particular procurement. However, the committee chairperson may have outside experts participate as committee members as necessary.
審査委員は、調達案件の内容に応じて、機構の役職員のうちから審査委員長がその都度指名する。ただし、審査委員長は必要に応じて外部の有識者を審査委員として参加させることができる。
6. In the absence or disability of a committee chairperson, the chairperson's duties will be carried out by a committee member appointed by the chairperson beforehand.
審査委員長に事故があるときは、審査委員長があらかじめ指名した審査委員がその職務を代行する。
7. Proposal Examinations Committees will set examinations standards and conduct investigations and deliberations regarding the examinations of proposals.
審査委員会は、審査基準の策定と提案書の審査に関することについて調査審議する。
8. Proposal Examinations Committee meetings will be held whenever deemed

necessary by the committee chairperson.

審査委員会は、審査委員長が必要と認めたときに随時開催する。

9. Even after a Proposal Examinations Committee is dissolved, the committee's Examiners must provide cooperation concerning the procurement to the unit responsible for the procurement contract and others when so requested.

審査委員等は、当該審査委員会が解散した後においても、担当した調達案件について、契約を担当する部室等から要請があるときは、これに協力しなければならない。

(Results of Proposal Examinations 審査)

Article 8 第8条

1. The Proposal Examinations Committee chairperson must promptly report the results of proposal examinations to the Procurement Section.

審査委員長は、審査の結果を速やかに調達課に報告するものとする。

2. Upon receiving reports specified in the preceding paragraph from the Proposal Examinations Committee chairperson, the Procurement Section must promptly notify each of the parties submitting proposals to inform them whether or not they won the bid.

調達課は、提案審査委員会の審査委員長から前項の報告を受けたときは、速やかに各提案者にその合否を通知するものとする。

(General Affairs and Maintenance of Records 庶務及び記録の保存)

Article 9 第9条

1. General affairs concerning proposal examinations (including general affairs concerning Proposal Examinations Committees) will be handled by the Procurement Section.

審査に関する庶務（審査委員会に係る庶務を含む。）は、調達課において行う。

2. Records documenting proposal examinations will be stored by the Procurement Section.

審査の記録は、調達課において保存する。

(Grievance Procedures 苦情処理)

Article 10 第10条

Complaints concerning proposal examinations will be jointly handled by the Procurement Section, the Examiners, and others.

審査に関する苦情については、調達課及び審査委員等が連帯してこれに対処する。

Supplementary Provisions 附則

These Detailed Stipulations shall come into effect from April 1, 2009.

この細則は、平成21年4月1日から施行する。

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構
契約監視委員会

設置年月日：平成21年11月30日

【メンバー】

| 名前 | 所属・職名 |
|---------------|--------------------------------|
| 野里 洋 (委員長) | 琉球新報 元専務取締役・元論説委員長・沖縄国際大学非常勤講師 |
| 渡邊 法美 (委員長代理) | 高知工科大学マネジメント学部教授 |
| 郷原 信郎 | 名城大学教授コンプライアンス研究センター長・弁護士 |
| 楠 茂樹 | 上智大学法学部准教授 |
| 大久保 和孝 | 新日本監査法人社員 公認会計士 |
| 国吉 斉 | 財団法人沖縄県建設技術センター理事長 |
| 勝野 堅介 | 監事 (常勤) |
| 中地 宏 | 監事 (非常勤) |

Independent Administrative Institution
Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation
Detailed Stipulations for the Contract Review Committee

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構
契約監視委員会細則

(Detailed Stipulations No. 3 of 2008 - June 25, 2008)

(平成20年6月25日 平成20年細則第3号)

Revised (Detailed Stipulations No. 4 of 2009 – March 31, 2009)

改正 (平成21年3月31日 平成21年細則第4号)

Revised (Detailed Stipulations No. 17 of 2009 – December 1, 2009)

改正 (平成21年12月1日 平成21年細則第17号)

(Purpose and Establishment 目的及び設置)

Article 1 第1条

The Contract Review Committee (hereinafter referred to as the “Committee”) comprised of Auditors and outside learned experts shall be established in the Independent Administrative Institution Okinawa Institute of Science and Technology Promotion Corporation (hereinafter referred to as the “Corporation”) to further optimize monitoring and assessment in respect to tenders and contracts regarding construction works, manufacturing, purchasing assets and services, etc.

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構（以下「機構」という。）の工事・物品・役務等の入札及び契約に係る監視・評価をより一層適正化するため、機構に監事及び外部の有識者により構成される契約監視委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(Duties 任務)

Article 2 第2条

The Committee shall investigate and discuss the following items regarding the General Competitive Bidding (including the Comprehensive Evaluation Method) and the Negotiated Contracts.

委員会は、機構における一般競争入札（総合評価方式を含む）及び随意契約に関する、次に掲げる事項について審議する。

- (1) Whether the appropriate procedures have been applied to the contracts implemented by the Corporation regarding the General Competitive Bidding, public recruiting and proposal competition, etc.

機構が実施した一般競争入札、公募・企画競争などの契約形態について、契約内容に応じた適切な手続きが適用されているか。

- (2) Whether the competitiveness and transparency have been ensured in the contracts

implemented by the Corporation regarding the General Competitive Bidding, public recruiting and proposal competition, etc.

機構が実施した一般競争入札、公募・企画競争などの契約形態について、競争性及び透明性が確保されているか。

(3) Other matters that the Committee considers being necessary.

その他委員会が必要と認めた事項

(Organization 構成)

Article 3 第3条

1. The Committee shall consist of a chairperson and not more than five (7) members.

委員会は、委員長及び委員7名以内をもって構成する。

2. The chairperson shall be elected by and from among the members of the Committee.

委員長は、委員の互選により定める。

3. In case, unavoidable circumstances prevent the chairperson to perform his/her duties, a committee member whom the chairperson has appointed beforehand shall perform his/her duties in his/her place.

委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

4. Committee members shall include the following individuals.

委員は、次の各号に掲げる者とする。

(1) The Auditor(s)

監事

(2) The members appointed by the President from those with excellent knowledge of contract and related expertise

契約に関して優れた識見を持つ外部の有識者の中から理事長が指名する者

(Term 任期)

Article 4 第4条

The term of the members shall be two years with the provision that the term of replacement members shall be the remaining term of the predecessor.

委員の任期は、2年とする。欠員が生じた場合の補欠の委員及び、前任者の残任期間とする。

(Holding 開催)

Article 5 第5条

The Chairperson shall call the meeting biannually as required.

委員会は、年に2回程度、必要に応じて開催するものとし、委員長が招集する。

(Honorarium, etc. 報酬等)

Article 6 第6条

The Corporation can pay an honorarium and travel expenses for the Committee members as stipulated separately.

委員には別に定めるところにより報酬及び旅費を支給することができる。

(Administration 事務局)

Article 7 第7条

The secretariat of the Committee shall be established in the Procurement Section in the Corporation.

委員会の事務は、機構の財務・人事部調達課が担当する。

(Others その他)

Article 8 第8条

Other matters necessary for the operation of the Committee in addition to the above shall be proposed to the Committee from the chairperson and determined in the Committee.

この細則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

Supplementary Provisions 附則

These Detailed Stipulations shall come into effect from June 25, 2008.

この細則は平成20年6月25日から施行する。

Supplementary Provisions 附則

These Detailed Stipulations shall come into effect from April 1, 2009.

この細則は平成21年4月1日から施行する。

Supplementary Provisions 附則

These Detailed Stipulations shall come into effect from December 1, 2009.

この細則は平成21年12月1日から施行する。

2010年1月19日

第1回契約監視委員会議事要旨

1. 日時 2010年1月19日(火曜) 15時30分～17時30分
2. 場所 沖縄科学技術研究基盤整備機構 本部(恩納村)会議室1
3. 出席 郷原委員、野里委員、小渡委員、大久保委員、勝野委員
4. 議事概要

開会

■ 委員会の改組について

事務局より、旧「調達に関する第三者委員会」から「契約監視委員会」の改組趣旨について説明を行った。

■ 委員長の互選

契約監視委員会細則第3条第2項の規定に基づき、委員による互選を行い、郷原委員が委員長に選出された。

■ 委員長代理の指名

契約監視委員会細則第3条第3項の規定に基づき、郷原委員長が渡邊委員を委員長代理に指名し、了承された。

議事

(随意契約、1者入札・1者応札、複数年度契約)

※番号は添付資料の項番に対応

1. 本件の事由はやむを得ないとする。改善策もOK。しかし、この程度の金額で入札手続きを実行するとなると、リース随意契約80万円の基準額が実際的ではないと言えるのではないかと。委員会における意見として、問題点を整理し内閣府等に報告してよい。
2. 保守契約を締結すれば、その都度修理を実施するよりも契約額は高くなるのではないかと。コストと運用の比較検討資料を作成しておき、この判断が合理的であると説明可能にしておくこと。1,500千円の随意契約を回避するために、高額な保守契約を締結するとすれば、本末転倒である。
3. 現行法上では、単年度予算の制約があることから、工事を小さく分けて、発注していかざるを得ない。それゆえ、毎年工事を発注する際、それに付随して意図伝達業務や工事監理業務等の随意契約(公募プロポーザルを含む)が発生し、その部分は競争が働かない。本来は、全工事を一括して1つの契約で発注するのがもっとも経済合理性が高い。単年度予算主義による弊害こそが公共事業の根本問題である。総務省で取り上げるべき問題である。
4. 同上

5. 問題なし。独占的な供給体制なら仕方ない。ただし、それらが有効活用されることが前提だ。
6. 問題なし。
7. 問題なし。沖縄電力は、本土の電力会社と比較して料金が高いのではないか。大口割引は適用されているのか。だから沖縄に工場が進出してこないのか。
8. 問題なし。
9. 公的機関は取引先を2～3社しか持っていないことが多い。民間研究機関を調査・ヒアリングして、競争環境を構築すること。購買部門の強化に取り組みコスト削減を図ること。研究機関であるから、仕様書の設定の適切性をレビューする委員会が当然必要。少なくとも1,000万円を超える案件は、当該仕様書の適切性をワークフローとしてレビューした方がよい。
10. 購入時に保守も一緒に入札できないか。トータルで最適な調達方法を検討すること。独立系の保守会社が落札しても、品質や信頼性が低ければNGである。これには、発注者が社内コストをかけ注意することが必要。対象機器の性質をよく調査し、明らかに一者しか応札できないものは、随意契約も考えた方がよい。
11. 公募プロポで1者しか応募がなかった理由として、条件の中に高いハードルがあったのではないか。毎年この業務を継続する場合は、条件の見直しとともに、複数年契約も視野に入れること。
12. 本土の民間研究機関をヒアリングした方がよい。業者の準備期間が十分に取れるよう、公告をできるだけ前倒しすること。
13. 実態に即した契約形態を検討すること。例えば、メーカーが代理店を指定されたケースなら、随意契約も検討すべき。

(全般に関する意見・コメント)

- 明らかに随意契約しかできない案件（外国雑誌の購入、ラボスペースの賃貸借契約、電気料金等）は、本委員会で審議する必要はない。
- 随意契約の基準価格が独法一律に設定されていることは（リース80万円、役務100万円、物品160万円、工事250万円）、独法の運営上、その効率性を阻害している面がある。
- 建設工事に付随して、設計意図伝達業務や工事監理業務の随意契約（公募を含む）が発生するのは仕方ない。しかし、細分化された工事全てに関して、このパターンが、毎年発生しているのは、機構内における入札・契約手続きの運用コストを含め、大幅なコスト増となろう。単年度予算から生じる根本的な問題である。前述の随意契約の基準と併せて懸案を整理し、総務省へ問題提起したらどうか。

January 19, 2010

Summary of the First Contract Review Committee Meeting

1. Time and Date: 15:30-17:30 January 19 (Tue.), 2010
2. Place: OIST PC HQ (Onna Village) Meeting Room 1
3. Member Attendees: Gohara, Nozato, Odo, Okubo, Katsuno.
4. Agenda Items

Opening of a meeting

■ Reorganization of Committee

The Secretariat explained the purpose of reorganizing the Third-Party Committee on Procurement to the Contract Review Committee.

■ Mutual Election of the Chairperson

In accordance with Article 3-2 of Detailed Stipulations for the Contract Review Committee, a mutual election was held for the position of chairperson, and Mr. Gohara was elected as chairperson.

■ Appointment of the Deputy Chairperson

In accordance with Article 3-3 of Detailed Stipulations for the Contract Review Committee, Chairperson Gohara nominated Professor Watanabe for the position of deputy chairperson, which was accepted by the committee.

Items of Business

(Negotiated contracts, one bidder/one application, multi-year contracts)

*The following numbers correspond to the item numbers on the table as attached.

1. We believe that this case cannot be helped. The improvement measures are okay. However, if we conduct bidding procedures for this amount of money, can it not be said that the standard amount of 800,000 yen for lease negotiated contracts is impractical? This may be reported to the Cabinet Office, etc., as the Committee's opinion after sorting out the issues.
2. If a maintenance contract is concluded, do you not end up spending more in the end, as opposed to paying for repair when it is needed? Prepare documents that illustrate the relationship between cost and actual operation, in order to be able to explain that it is reasonable. Signing a pricy maintenance contract to avoid a 1.5 million yen negotiated

contract is putting the cart before the horse.

3. The laws we have place a limit on our single-year budget, so there is no choice but to divide up the construction in small parts for ordering. That is why when we order construction projects each year, there is also a need for associated design communication and construction supervision services—which are negotiated contracts (including publicly recruited proposals)—and there is no competition for these contracts. Normally, it is the most reasonable economically to conclude a single contract with all construction projects bundled up in one. This downside of the single-year budget is the very root of the public works problem. The Ministry of Internal Affairs and Communications should discuss this issue.
4. Same as above.
5. No problem. A monopolized supply system cannot be helped. However, it has to be used effectively.
6. No problem.
7. No problem. OEPC's prices might be higher compared to power companies in mainland Japan? Is a volume discount being applied? Is that why they do not build plants in Okinawa?
8. No problem.
9. Public organizations usually have only 2-3 companies that they deal with. Conduct a study and hearings at private research institutions to build a competitive environment. Strengthen the purchasing department and reduce costs. Because it is a research institute, it is absolutely necessary to have a committee that reviews the appropriateness of the condition of specification sheets. At the very least, the appropriateness of specification sheets for contracts whose amounts exceed 10 million yen should be reviewed as part of the standard workflow.
10. Is it not possible to have the bidding for a product purchase and maintenance at the same time? Consider the best procurement method overall. Even if an independent maintenance company submits the most attractive bid, it is unacceptable to award the bid if its quality and reliability are in question. It is important for the ordering party to use appropriate in-house resources to avoid this situation. Investigate the characteristics of the device in question. If it is evident that only a single supplier can bid on it, consider signing a negotiated contract.
11. Perhaps there were participating conditions that were too difficult to meet, which resulted in only one applicant in the public proposal recruitment. If we are to conduct this operation each year, explore the possibility of reviewing the conditions and signing a multi-year contract.

12. It is a good idea to conduct hearings at private research institutions in mainland Japan. Announcements should be made as early as possible to give suppliers enough time to prepare.
13. Consider the best contract type for the given situation. For example, if the manufacturer designated an agent, a negotiated contract should be considered.

(Overall Opinions and Comments)

- The committee does not need to deliberate items that can only be processed with negotiated contracts (purchase of foreign journals, lab space lease agreement, utilities, etc.).
- The fact that the standard prices of negotiated contracts concluded by an independent administrative institution are uniformly set (800,000 yen for lease, 1 million yen for service, 1.6 million yen for goods, and 2.5 million yen for construction work), it interferes with the efficient operation of any independent administrative institution.
- There is nothing that can be done about the negotiated contracts (including publicly recruited proposals) for design communication and construction supervision services that are associated with the construction project. However, this type of segmentalization of a construction project year after year would increase cost, including the in-house operation cost for bidding and contracting procedures. This is an underlying problem that arises from dealing with a single-year budget. Perhaps it would be an idea to organize the issues including the aforementioned negotiated contract standard, and forward them to the MIC.

[Associated with Form 2-1]

【様式2-1関係】

Improvement Measures for Non-Competitive Negotiated Contracts (Draft)

競争性のない随意契約の改善方策について(案)

| Type | Material No | No. of Cases | Amount (1,000 Yen) | Ratio | Why Negotiated Contract? | Improvement Measure | Specific Approaches of the Improvement Measure | Remarks by the Contract Review Committee |
|---|-------------|--------------|--------------------|-------|--|---|--|--|
| 類 型 | 資料No. | 件数 | 金額(千円) | 割合 | 随意契約理由 | 改善策 | 改善策の具体的な内容 | 契約監視委員会の指摘事項 |
| 1. Multi-year contract that assumes renewal of single-year contract 単年度契約の更新を前提とした複数年度契約 | ① | 6 | 9,867 | 3.1% | Because these were multi-year contracts that assumed the renewal of single-year contracts, such as lease contracts, we had to wait until these contracts expire for renewal to switch to competitive bidding. リース契約等、単年度契約の更新を前提とした複数年度契約を締結していたため、競争入札に移行するには契約更改時期を待たざるを得なかったもの | Switch to general competitive contract 一般競争契約へ移行 | Based on the "Handling of Multi-year Contracts" document that was created at the end of 2008, multi-year contracts will be awarded through general competitive bidding. 平成20年度末に整備した「複数年度契約の取扱いについて」を活用し、複数年度契約による一般競争入札に移行する | |
| 2. Urgent repair of research equipment 研究機器の緊急修理 | ② | 1 | 1,554 | 0.5% | Because we did not have a maintenance contract for research equipment, e.g. urgent repair of electron microscopes in the case of malfunction, a negotiated contract was concluded for 2008. 電子顕微鏡の故障発生時の緊急対応など、研究機器の保守契約が未締結だったため、平成20年度は随意契約とせざるを得なかったもの | Switch to general competitive contract 一般競争契約へ移行 | Create specifications of an equipment maintenance contract, and switch to general competitive bidding. 機器の保守契約の仕様を作成し、一般競争入札に移行する。 | |
| 3. Implementation design of research experiment facilities 研究実験施設の実施設設計業務 | ③ | 4 | 39,459 | 12.4% | Had to be a negotiated contract since the design communication work was closely associated with the contract work of a supplier that was selected by the open proposal method before last year. 前年度以前に公募型プロポーザル方式により業者選定された契約と密接に関連する設計意図伝達業務であり、随意契約とせざるを得なかったもの | - | - | |

| Type | Material No | No. of Cases | Amount (1,000 Yen) | Ratio | Why Negotiated Contract? | Improvement Measure | Specific Approaches of the Improvement Measure | Remarks by the Contract Review Committee |
|--|-------------|--------------|--------------------|--------|---|---------------------|--|--|
| 4. Construction management associated with facility development 施設整備に係る工事監理業務 | ④ | 4 | 67,515 | 21.3% | Had to be a negotiated contract since the work was closely associated with the contract work of a supplier that was selected by the open proposal method last year, and the announcement had already been made as a negotiated contract. 前年度に公募型プロポーザル方式により業者選定された契約と密接に関連する業務で、当該公告資料にて随意契約する対象として事前に公表済みであり、随意契約とせざるを得なかったもの | — | — | |
| 5. Purchase contract for foreign magazines and journals 外国雑誌の購入契約 | ⑤ | 2 | 28,452 | 9.0% | Supply system is monopolistic. 独占的な供給体制となっているため。 | — | — | |
| 6. Lease agreement for research implementation locations 研究実施場所の賃貸借契約 | ⑥ | 4 | 121,927 | 38.4% | Cannot achieve the research objectives if the research is conducted elsewhere. 当該研究施設でなければ研究目的を達成できないため。 | — | — | |
| 7. Research exchange center - electric power 研究交流センター 電気料 | ⑦ | 12 | 47,545 | 15.0% | Okinawa Electric Power Company is the only supplier in the region. 当該地域で沖縄電力株式会社が唯一の供給者となっているため。 | — | — | |
| 8. Fees associated with the announcement on the official gazette 官報公告掲載料 | ⑧ | 1 | 1,395 | 0.4% | Supply system is monopolistic. 独占的な供給体制となっているため。 | — | — | |
| Total | | 34 | 317,714 | 100.0% | | | | |

Improvement Measures for One Bidder/One Application Cases (Draft)

一者応札・一者応募の改善方案について(案)

| Type | Material No. | No. of Cases | Amount (1,000 Yen) | Ratio | Why Only One Bidder? | Improvement Measure | Specific Approaches of the Improvement Measure | Remarks by the Contract Review Committee |
|--|--------------|--------------|--------------------|-------|--|--|---|--|
| 類型 | 資料No | 件数 | 金額(千円) | 割合 | 一者応札となった理由 | 改善策 | 改善策の具体的な内容 | 契約監視委員会の指摘事項 |
| 9. Purchase of specialized research equipment 専門的な研究機器の購入 | ⑨-1, 2 | 42 | 661,607 | 53.6% | When buying research equipment, first the technical requirement is set from the viewpoint of "is it necessary for research?" For the most part, products that meet the requirement are specified on the specification sheet as "reasonable products". In the Okinawa region, there is usually only one official dealership for a research equipment manufacturer, and thus results in only one bidder. 研究機器を購入する場合、研究上の必要性の観点から技術的要件を設定して、当該要件を満たす特定の製品の「相当品」として仕様書上に指定しているものが多い。沖縄地区では、研究機器のメーカーにより販売代理店として指定されている業者は多くの場合1社であり、必然的に1者による入札となっているため。 | Change to spec. sheet 仕様書の変更 | Create a framework such as establishing a committee to examine and compare required functions and the performance of candidate devices, and commit to creating a specification sheet that ensures competition. 必要とする機能や候補機種のパフォーマンス等を比較検討する委員会等の仕組みを設けるなどとして、競争性が確保された仕様書を作成するよう努める。 | |
| 10. Maintenance contract for existing research equipment and systems 既存研究機器、システム等の保守契約 | ⑩ | 14 | 48,561 | 3.9% | It was necessary to conclude a maintenance contract with the supplier of research equipment, and the only bidder was the equipment supplier or the manufacturer's dealership. 研究機器等本体の納入元との保守契約が必要であり、機器本体の供給者またはメーカーの代理店しか応札しない状況であるため。 | Change to spec. sheet 仕様書の変更 | Aggressively encourage new suppliers to participate by presenting specific work description and other detailed information necessary for the bidding process. 業務内容を具体的に提示し、可能な限り入札等に必要となる詳細情報を提供することにより、積極的に新規参加者の掘り起こしに努める。 | |
| 11. Comprehensive consulting for facility development, design, and construction supervision 施設整備総合アドバイザー業務、設計業務、工事監理業務等 | ⑪ | 8 | 312,296 | 25.3% | The level of participation requirement we set to ensure quality of service was too high, and resulted in only one participant. 業務の質を確保する観点で設定した応募要件の水準が高く、結果として1者の応募となったもの。 | Change of participation requirement 参加要件の変更 | Among the bidding participation requirements, lower the standards for years of engineer's experience, business history (e.g. total floor area of buildings designed, contracts with government), etc. 応募要件の緩和 企業における同種業務の実績、配置予定技術者の経験年数・実績等の資格要件を緩和することにより複数参加の確保を図る。 | |

| Type | Material No. | No. of Cases | Amount (1,000 Yen) | Ratio | Why Only One Bidder? | Improvement Measure | Specific Approaches of the Improvement Measure | Remarks by the Contract Review Committee |
|--|--------------|--------------|--------------------|--------|---|---|--|--|
| 12. Annual contracts such as program development and building management プログラム開発業務・建物管理等の年間契約 | ⑫ | 7 | 108,807 | 8.8% | Because if the supplier changed, the transition work would have to be done at the expense of the new supplier, and the prospect of spending extra labor and money for transition would put off the new client from participating. 供給者が交代した場合、業務内容の引き継ぎ等を新規の業者の負担において実施することになり、新規の供給者が引き継ぎ等のための労力、資金の提供に消極的になってしまうため。 | Improvement of bidding and contract conditions (other) 入札・契約条件等の改善(その他) | Make sure that there is enough time from the award date to the work commencement date for transition and preparation. 円滑な業務の引き継ぎ、準備が行えるよう、落札決定から業務開始日までの期間が十分確保されるよう留意する。 | |
| 13. Other types その他の類型 | ⑬ | 18 | 102,077 | 8.3% | Bidding announcement period is not long enough, lack of PR, etc. 入札公告期間が十分に確保されていない、入札情報のPR不足、等 | Review of announcement period and enhancement of information service 公告期間見直し、情報提供の拡充 | Make sure that there is enough time for the bidding announcement period. As for the bidding announcement, make efforts to provide information to industry organizations and journals in addition to the announcement on the OIST website. 入札公告期間は、十分な公告期間が確保されるよう留意する。入札等の公告について、現在行っている機構ホームページへの掲載に加え、業界団体・専門誌への情報提供を行い、周知に努める。 | |
| Total | | 89 | 1,233,348 | 100.0% | | | | |

2010年3月1日

第2回契約監視委員会議事要旨

1. 日時 2010年2月18日(木)～3月1日(月)
2. 場所 持ち回り開催
3. 出席 郷原委員、野里委員、小渡委員、大久保委員、
勝野委員、中地委員
4. 議事概要

以下の事項について、契約監視委員会へ持ち回りにより、点検・確認を要請したところ、委員の了解を得た。

点検・確認事項

第1回委員会における類型13（その他の類型）について

第1回の委員会において、類型13の典型例として、「ゲノムシーケンサーの移設」を事務局から説明し、委員会から、「一般競争による調達を原則としつつ、契約の実態に即した適正な契約方式を採用すること」との審議結果となり、それを全体の改善策とした。

この類型に属する他の案件については、「十分な公告期間を確保する。ホームページに加え、専門誌等への情報提供を行い、周知に努める。」をそれらの改善策とする。

持ち回り資料

- 別紙1 第1回点検結果の一部再確認について
- 別紙2 分類13契約一覧
- 別紙3 分類13を含む表

March 1, 2010

Summary of Proceedings at the 2nd Contract Review Committee Meeting

1. Time: February 18 (Thu) – March 1 (Mon), 2010
2. Place Rotating
3. Attendees Committee members Gohara, Nozato, Odo, Okubo, Katsuno, Nakachi

4. Summary of proceedings

The following matters were by rotation referred to the Contract Review Committee for examination and confirmation and accepted by the committee members.

Matters for examination and confirmation

Concerning type 13 (and other types) at the 1st committee meeting

At the 1st committee meeting, the secretariat gave an explanation of the “genome sequencer transfer” as a typical example of type 13. In its deliberations, the committee concluded, and established as a general improvement measure, that “Procurement, as a rule, is subject to general competition, and appropriate contracting methods consistent with contract substance must be used.”

With respect to other instances that belong to this type, the committee established as respective improvement measures that “Advertising periods must be sufficiently long. In addition to information on websites, information will be provided also in specialized journals, etc., and actively promulgated.”

Materials for rotation

- Attachment 1: Concerning confirmation of part of the results of the 1st examination
- Attachment 2: List of contracts for type 13
- Attachment 3: Table including type 13

2010年3月1日

第3回契約監視委員会議事要旨

1. 日時 2010年3月1日(月曜)午前9時～11時
2. 場所 三菱ビル(東京・丸の内)コンファレンススクエア
10F 会議室
3. 出席 郷原委員、野里委員、小渡委員、大久保委員、中地委員
オブザーバー：山里(内閣府)

4. 議事概要

開会

■ 委員長の交代・互選

郷原委員長から、総務省顧問業務との兼ね合いから、当契約監視委員会委員長の辞任の申し出があった。本申し出は委員会にて了承され、契約監視委員会細則第3条第2項の規定に基づき、委員による互選を行い、野里委員が委員長に選出された。

委員長代理は、野里委員長が別途指名することとなった。郷原委員は、当面、当委員会委員を継続する。

議事

1. 「随意契約見直し計画(案)」について

(事務局より、第1回の点検結果を反映していること及びその反映箇所を説明した。)

- ・ 随意契約見直し計画(案)は問題ない。
- ・ OIST プロジェクトの理想(Best in the world)を実現するためには、柔軟性のある調達仕組みが必要だと考える。一方、入札基準など、国の契約制度は一律に定められている。今後、OISTにおける調達方法と国の制度とのマッチングについて、整理して明文化すべきではないか。
- ・ 沖縄地域振興の観点からも、ある程度の地元業者への配慮が要。
- ・ OIST 関連の調達、特に建設工事案件の発注において、沖縄地域の振興に資する観点から、地元業者への配慮を対外的に示した方針はないか。なければ策定することはできないか。

(→ 内閣府より、沖縄振興計画独自の方針ではないが、国の機関や独法に対して、「中小企業に対する国等の契約方針」、「中小企業の受注企業への配慮について」等の通知・依頼を行っており、国として、中小企業の受注拡大に取り組んでいること、また OIST へも要請・依頼していることを説明。)

(→ 事務局より、沖縄振興の趣旨を踏まえ、契約の内容・技術・金額規模を十分に考慮し入札資格条件等を設定していること、地元中小企業への配慮も行っていることを説明。)

- ・ 国の予算を使って、特定の地域業者を厚遇することは難しいが、結果として、地の利で地元業者が受注することはよい。

2. 平成 21 年度の契約状況の点検・見直しについて

(事務局より、第 1 回開催時と同様の類型に分けて整理したことを説明し、了解された。)

- ・ 合理的に説明が可能であれば問題ない。
- ・ 公的機関では、新規の業者をできるだけ開拓すること。
- ・ 世間相場（市場価格）が下がっている場合、契約額にも反映されるべき。
- ・ リースや保守等は、できるだけ複数年契約を活用すること。
- ・ システムや役務は、発注・契約時に十分な審査や評価を実施していることは理解している。しかし、一般に、公的機関の場合、その調達（契約）後、どのくらいの効果や成果があったのかを測定する仕組みがない。将来的に調達（契約）後の効果や成果をレビューできる仕組み作りを検討すること。

3. 「実質的な競争性確保に関する緊急点検」について

(事務局より、対象となる 11 件を個別に説明した。)

- ・ 先ほどの議題でも述べたが、今回の点検対象となっている物品調達の場合、物品の納入業者が固定されているケースが多いので、競争性の確保が重要である。
- ・ 物品の性質（汎用品か、専門的な研究機器か、等）に応じて、どのように競争性を確保するかを判断すること。
- ・ 契約価格を合理的、客観的に説明できること。
- ・ 物品の調達方法の改善について、文科省の取り組み（研究用消耗品）が OIST の調達にも参考にできる部分がある。検討してみること。
- ・ 新規の代理店を積極的に開拓すること。
- ・ 価格の妥当性の検証にあたっては、必ずしも見積書の徴取だけにこだわる必要はなく、例えばネットを通じた市場価格調査を行ってもよいと考える。

4. その他

- ・ 物品や役務は、さまざまな案件があるので、落札率が高いもの、高額なもの、等の角度から焦点を当て、当委員会に提示してほしい。

5. 次回の日程について

時期は 6 月ごろの予定。場所は、委員長及び委員長代理と協議して決める。

March 1, 2010

Summary of Proceedings at the 3rd Contract Review Committee Meeting

1. Time: March 1 (Mon), 2010, 9:00 – 11:00 a.m.
2. Place Mitsubishi Building (Marunouchi, Tokyo), Conference Square,
10th Floor, Conference Room
3. Attendees Committee members Gohara, Nozato, Odo, Okubo, Nakachi
Observer: Yamazato (Cabinet Office)

4. Summary of proceedings

Opening

■ Change of chairperson and co-optation

Committee member Gohara made motion to resign as chairperson of the Contract Review Committee with a view to balancing duties as advisor to the Ministry of Internal Affairs and Communications. This motion was approved by the committee meeting. Pursuant to the stipulations of Article 3, Paragraph 2, of Detailed Stipulations for the Contract Review Committee, by co-optation of the committee members, committee member Nozato was elected as the new chairperson.

Committee member Nozato will separately appoint a deputy chairperson. Committee member Gohara will for the time being continue as a committee member.

Meeting proceedings

1. Plan for the review of negotiated contracts (draft)

(The secretariat gave an explanation on how and where the implications of the results of the 1st examination apply.)

- The plan for the review of negotiated contracts (draft) poses no issues.
- In order to realize the ideal outcome (“Best in the world”) for the OIST project, flexible procurement schemes are considered necessary. On the other hand, with respect to the bidding criteria, etc., national contract regulations provide uniform stipulations. It was suggested that, for matching procurement methods for the purposes of OIST with the national regulations, a review should be conducted and the results clearly put into words.
- To a certain extent local business operators have to be involved, also from the perspective of regional development in Okinawa.
- Concerning procurement related to OIST, in particular with respect to construction work orders, are there any policies that, from the perspective of contributing to the regional development in Okinawa, externally indicate special consideration of local businesses? If

not, would it be possible to formulate such policies?

(According to explanations from the Cabinet Office, although there exist no specific policies under the Okinawa Promotion Plan, national institutions and independent administrative institutions have been sent notifications and requests concerning “Policies of the national government for contracts with small and medium-sized enterprises” and “Special consideration of small and medium-sized enterprises as recipients of orders,” and national efforts are being made to increase order receipts of small and medium-sized enterprises; pertinent requests have been made also to OIST.)

(According to explanations from the secretariat, based on the intent of promoting the development of Okinawa, terms and conditions for eligibility to bid have been established with full consideration of contract substance, technology, and scope of contract value, and special consideration is being given to small and medium-sized enterprises.)

- Although it is not possible to use national funds to benefit specific local companies, it is desirable as an outcome that, in the interest of the region, orders are received by local companies.

2. Concerning the status of contract examinations and reviews in fiscal year 2009

(From the secretariat an explanation was given and accepted by the committee that a categorization into the same types has been used as at the 1st committee meeting.)

- No issue exists if a reasonable explanation can be provided.
- With respect to public institutions, utmost efforts must be made to source new companies.
- If general market prices decline, this must be reflected also in the contract value.
- For leasing and maintenance, etc., multi-year contracts should be used as much as possible.
- With respect to systems and services, it is well understood that a thorough inspection and evaluation is performed when orders are issued and contracts signed. However, in the case of public institutions, generally no arrangements exist for measuring the effects and results after the procurement (contract conclusion). Going forward, deliberations will be held to create arrangements to enable reviews of the effects and results that ensue after the procurement (contract conclusion).

3. Concerning “Urgent examinations regarding the preservation of genuine competitiveness”

(The secretariat gave individual explanations of 11 relevant instances.)

- As mentioned in an earlier agenda point, in the cases of goods procurement at issue in this examination, since the businesses that supply the goods have in many instances been fixed, the preservation of competitiveness is essential.
- The method for preserving competitiveness must be judged consistent with the

characteristics of the goods concerned (e.g., whether general purpose goods or specialized research equipment, etc.).

- The contract price must be open to reasonable and objective explanation.
- With regard to improving procurement methods, the work of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (for consumables used in research) can partly be applied as reference also to OIST procurement. This point should be considered.
- New agencies should be proactively sourced.
- The appropriateness of prices should be verified not only based on written estimates but also by checking market prices, for example, on the internet.

4. Other matters

- Since goods and services comprise a variety of items, cases should be referred to this committee with the focus on instances that display, for example, high successful bid rates or high value, etc.

5. Schedule for the next meeting

The next meeting is scheduled for around June. The place will be determined in consultations between the chairperson and deputy chairperson.

2010年4月1日

第4回契約監視委員会議事要旨

- 1. 日時 2010年3月30日（火曜）午前9時30分～11時30分
- 2. 場所 三菱ビル（東京・丸の内）コンファレンススクエア
10F 会議室
- 3. 出席 野里委員長、渡邊委員、小渡委員、楠委員、勝野委員、
中地委員
オブザーバー：山里（内閣府）

4. 議事概要

開会

■ 委員長代理の指名

契約監視委員会細則第3条第3項の規定に基づき、野里委員長が委員長代理として渡邊委員を指名した。

議事

1. タイプ分け・案件振り分けの適切性について

野里委員長から、タイプ分けと個別案件の振り分けについて、委員長見直し案の提示があった。変更点を事務局から説明した。

タイプの統合：

「供給者が1つに限定されるもの」として、「外国雑誌の購入」、「研究交流センター電気料」及び「官報公告掲載料」は1つのタイプとして統合して、⑤'とした。

タイプの分離：

「専門的な研究機器の購入」をその内容に鑑み、⑨「研究機器」、⑨—2「試薬・消耗品」及び⑨—3「研究機器以外の物品購入」の3つに分離した。

「研究機器・システム等の保守契約」を、⑩「研究機器・システム等の保守契約」と⑩—2「研究機器以外の保守契約」とに分離する。

タイプの新設：

「その他の類型」の中から、4件の同種業務があったことから、これを⑭「DNA解析等の外部委託」として新設した。

各委員の意見・コメントは、次のとおり。

| | 意見・コメント | 事務局説明等 |
|------|---|---------------------|
| 勝野委員 | 統合、分離、新設については了解。 専門的な研究機器から分けたカテゴリは、タイプの性質 | コメントのとおり整理し直すこととする。 |

| | | |
|-------|---|--|
| | が異なるので、枝番ではなく、先頭から振り直したらどうだろうか。 | |
| 小渡委員 | 変更案と新たなタイプ番号を付与することで合意する。 | |
| 渡邊委員 | 「外国雑誌の購入」について、その供給を独占しているという状況は理解できる。完全な独占とは異なるので、「実質的に」を付加した方がよい。 | このケースは、実質的な独占である。「実質的に」を加えることとする。 |
| 野里委員長 | まとめると次のとおり。旧⑦と⑧を統合する。旧⑨「専門的な研究機器の購入」は3つに分離する。旧⑩の保守契約を2つに分離する。その他の類型から、「DNA解析等の外部委託」として新設する。 見直し案は、16の類型とする。この類型を基に、対象案件の再確認を持ち回りにより行う。 | 今回見直した類型を基に対象の全案件を整理し、委員へ確認依頼を行うこととする。 |

2. 研究棟1・センター棟実験室実施設計業務について

施設予算超過問題に係る点検対象案件として、事務局から内容の説明を行った。委員の意見コメントは次のとおり。

| | 意見・コメント | 事務局説明等 |
|------|---|--|
| 勝野委員 | 平成16年の内閣府発注の際も、この同じJVと公募型プロポーザルで契約をしたのか。 その時の選定事由は？経緯・背景は？公募期間は？ | そのとおり。 このような研究施設がよいのではないかという提案形式であり、5～6社の中から選定されたと聞いている。 本案件は、引き続き、当該JVが依頼するのが一番妥当と考え、参加者確認公募型方式 |

| | | |
|------|---|--|
| | | をとったもの。 公募期間は、機構のガイドラインに基づき、20日間をとった。 |
| 渡邊委員 | 事業者特定理由書について、このJVはプロポーザルを提出しているか。 このJVを特定事業者として選んで、それ以外の方で手を挙げる方がいないかどうか募ったということか。 | この契約をするにあたり出ていない。 そのとおり。 |
| 楠委員 | もし手を挙げる業者がいたら、プロポーザル型へ移行し競争となるのか。 | プロポーザルへ移行し競争となる。 |
| 勝野委員 | 参加意思を表明するところがなかったが、照会は何回あったのか。 | 照会はなかった。 |
| 楠委員 | このJVがマスタープランを策定し、一番よくわかっているわけだから、ずっと入ってくるのは合理的ではあるが、外部の人間がみると、同じ業者が繰り返し入っているというところに説明が必要。なぜ、この業者になったかはこの説明で理解できる。 次は、契約内容が合理的か、予定価格を組むときの根拠をどこから持ってきたのか。先に工事の金額が決まって、それを設計してもらい、定額の労力がかかる、このぐらいのスキルの人に依頼する、そうすると金額が固まる。そこが説明されているなら、契約内容も合理的だということ | 設計料に関しては、国交省のガイドラインを参考にし、工事金額をもとに積算している。 |

| | | |
|-------|--|------------------|
| | になる。 | |
| 野里委員長 | 楠委員からの質問に対する事務局の回答は、関連書類をきちんと記録として残しておくこと。 本件については、競争的な手続きをとって見たが、1者しかこなかったのが、当該JVと契約した。形態としては随意契約となったという説明か。 | 関連書類を記録としてとして残す。 |

3. 契約監視委員会発足後の契約案件について

事務局から、以下の説明を行った。

- ・ 第3回（3月1日）の委員会では、平成21年度の11月までに契約した案件の審議をいただいた。
- ・ 今回は、契約監視委員会発足後に契約した案件の説明となる。
- ・ 今後、再度事後的な点検をお願いすることになるが、基本的には、これまでの委員会の提言や指摘事項を契約事務に反映しているところ。
- ・ 入札公告よりも早い段階での調達予定のホームページへの公表、科学新聞など理化学機器取扱業者向けの専門紙への掲載、電子入札登録の促進等を行っている。

委員の意見コメントは次のとおり。

| | 意見・コメント | 事務局説明等 |
|------|--|---|
| 楠委員 | 18番の化学発光検出器一式の購入、これは一般競争入札で応札が2者だが、1円単位まで合致している。なぜか。 | 機器の場合は、定価があり、それに対して、他機関（大学）へ購入実績（掛け率）照会、機構の過去実績、参考見積もりの取得等を行い、妥当な額を予定価格として設定している。 |
| 小渡委員 | これは一度で落札したのか。それとも、2回、3回と入札したのか。 | これは1回の入札で落札決定となった。 |
| 楠委員 | 1者で応札した場合に100%ぴったりというのは理解で | 背景、経緯を別途報告する。 |

| | | |
|------|---|--|
| | きるが、2者は競争となるのでこの表だけを見るわかり難いので、背景を説明できること。 | |
| 勝野委員 | このような注目を引く案件については、事実関係をきちんと整理して記録しておくこと。 | 同上 |
| 楠委員 | 項番20のバイオハザードキャビネットは、3者で58%となっているが？ | 通常、理化学機器は、相当品Aと仕様書に書くが、2社はAという製品で応札し、最低価格提示者の1社はBという製品で応札した。 |
| 勝野委員 | 58%の低価格で大丈夫なのか。本当に信頼できるのか。 | 落札後に要請部署で製品のチェックを行い、仕様書との適合が確認された時点で契約という形とした。 |
| 渡邊委員 | これは結果として良い競争事例ということになるのか。一種のVEに相当するのか。当初の仕様を最低価格提示者は満たしていなかったが、機構と協議したのか。それとも、当初から機構の仕様は満たしていたが、違うやり方で満足したということか。 | この業者が応札していることは想定していなかった。要請部署はAというドラフトチャンバーを想定していたが、Bが提示されてきた。そこで、現場に連絡を取って、設置が確認できるか否かを確認した。 |
| 楠委員 | 残り2社は想定したもので応札してきたのか。 | そのとおり。 |
| 勝野委員 | バイオハザード対策キャビネットとは、わかり易く言うと、どのようなものか。 | つくり付けの実験台で、常時、排気し続けているもの。局所の排気施設で、上半分にガラス戸が付いており、その中で試薬を混ぜたりする。研究者が手をキャビネットの中へ入れて作業をする。 |
| 楠委員 | 先ほどの渡邊委員の質問に | 工事契約の総合評価方式は |

| | | |
|-------|---|--|
| | <p>関連するが、こういうふうにすると安くなるという提案を受け入れるケースもあるのか。</p> | <p>VE 付きである。物品は、仕様を公示した後、業者の方から質問が来る場合がある。例えば、うちはこのタイプを提供可能であり、若干寸法が違っても、受け入れてもらえるかという照会がある。または、カタログ等の添付された応札書を開札前に提出してもらうケースがある。これを要請部署が事前にチェックするという手続きがある。</p> |
| 楠委員 | <p>このケースだと、VE には近いのかもしれないが、手続きとしては VE ではない。</p> | |
| 中地委員 | <p>補足的なパーツは、コストがかかるものか。そういうのはどのように評価するのか。安くするときには何か部品が足りないのか。</p> | <p>このケースは、2 社は代理店でメーカーから仕入れて提供する。最低価格提示者の 1 社は自社製のものを提供するものだった。</p> <p>機構で要求していた機能は全て満たしていた。代理店だとメーカーが価格を決める権限を持っているが、最低価格提示者は自社製の製品を提供できるので、入札価格が安くなった。</p> |
| 野里委員長 | <p>委員から出された意見については、記録をしておくことでこれらの案件は了承とする。</p> | |

4. 指摘事項に関するフォローアップ

事務局から、これまでの委員会で指摘された事項に対する作業状況を口頭で報告した。

- ・ 専門的な機器等の購入の場合、1 者応札が多い。東京や関西の業者を積極的に開拓

するようにとの指摘に基づき、機構から声をかけ電子入札システムへの登録を促している。今後は、業界紙等を活用する。

- ・ 保守については、単年度ではなく、複数年としてトータルのコストを下げるとの指摘があり、これは来年度の新キャンパスの保守案件に適用し、初年度から競争環境を構築している。
- ・ 高額な機器については、その仕様の適切性や妥当性をチェックするよう指摘があり、これについては、代表研究者とアドミニで委員会を作り、研究室の共同購入のルールと併せ、どのような手続きとすべきか検討に入っているところ。

委員の意見コメントは次のとおり。

| | 意見・コメント | 事務局説明等 |
|-------|---|-----------------------------|
| 渡邊委員 | 委員として出席して、少しでも機構の調達効率化とか、有効性の向上に役に立てればと考える。その意味で、この委員会で提言されている内容が、どのように反映されて、どの程度効果が生まれているのかをこの委員会で共有することが大切。 | 次回、具体的なフォローアップ報告をする。 |
| 勝野委員 | それは当然であるので、細則にそれが入っていないければ、明確にすればよいこと。 | 検討する。 |
| 野里委員長 | 今後、引き続き、委員から出された意見を参考にして、適正な入札手続き・契約を遂行すること。 | 引き続き適正な入札手続き・契約の遂行に努めていきたい。 |

5. 次回日程

事務局から、10年度6月ごろを予定。場所は沖縄を想定。最終決定は委員との調整としたい旨を説明した。

以上

1 April 2010

Summary proceedings of the fourth meeting of the contract review committee

1. Time: 9:30 - 11:30 AM, 30 (Tues.) March 2010
2. Place: Conference Room, 10F, Conference Square, Mitsubishi Building (Marunouchi district of Tokyo)
3. Attendees
 - Committee Chairman Nozato
 - Committee members Watanabe, Odo, Kusunoki, Katsuno, and Nakachi
 - Observer: Yamazato (Cabinet Office)
4. Outline of proceedings

Opening

■ Designation of chairman proxy

In accordance with the provisions of Paragraph 3, Article 3 of the detailed stipulations of the contract review committee, Chairman Nozato designated Committee Member Watanabe as the proxy chairman.

Proceedings

1. Appropriateness of the categories and case categorization

Chairman Nozato presented a proposal for review of categories of type and categorization of specific cases. The secretariat made an explanation of the items of revision.

Consolidation of types

In the proposal, "purchase of foreign magazines", "fees for electricity at the research interchange center", and "fees for placement of notices in official gazettes" were integrated into a single category of type (5') as cases in which the number of suppliers was limited to one.

Separation of types

In light of the differences of content, "purchase of specialized research equipment" was broken up into the three categories of "research equipment" (9), "reagents and expendables" (9-2), and "purchase of goods other than research equipment" (9-3).

Similarly, "contracts for maintenance of research equipment and systems" was separated into "contracts for maintenance of research equipment and systems" (10) and "contracts for maintenance of items other than research equipment" (10-2).

Establishment of new types

Because there were four cases of the same type of work in the category of "other types",

these were placed together in a new category, "outsourcing of DNA analysis etc." (14).

The opinions and comments of the committee members were as follows.

| | Opinions and comments | Explanation etc. by the secretariat |
|-----------------|---|--|
| Katsuno | I understand about the consolidation, separation, and new establishment of categories. Categories established through division from that of specialized research equipment are marked by a difference of qualitative type. Considering this difference, how about making a new distribution from the top as opposed to one based on the branch code? | We shall make the revision in line with the comment. |
| Odo | I consent to the proposal for revision and the allocation of new type (category) numbers. | |
| Watanabe | Regarding "purchase of foreign magazines", I can understand the situation of supply being monopolized, but the words "in effect" should be added, because the status is not the same as a complete monopoly. | This case is one of an effective monopoly. Therefore, we will add the words "in effect". |
| Chairman Nozato | In sum, the revision shall be as follows. The former categories 7 and 8 will be consolidated. The former category 9 ("purchase of specialized research | All subject cases will be rearranged on the basis of the revised categories, and the committee members will be requested to confirm the results. |

| | | |
|--|--|--|
| | <p>equipment") will be divided into three categories. The former category 10 (maintenance contracts) will be divided into two categories. The new category "outsourcing of DNA analysis etc." will be established from that of "other types". The revision proposal will consist of 16 types. The reconfirmation of subject cases based on this categorization will be made by handing the related materials around the committee members.</p> | |
|--|--|--|

2. Design work to be implemented for the Research Building 1 and Center Building laboratory

The secretariat made an explanation on the cases subject to checking in connection with the problem of facility expenditures exceeding the budget. The opinions and comments of the committee members were as follows.

| | Opinions and comments | Explanation etc. by the secretariat |
|---------|---|---|
| Katsuno | <p>Was a contract concluded with the same JV based on a call for proposals when the order was placed by the Cabinet Office in 2004? What was the reason for selection at that time? Please describe the particulars, background factors, and the proposal</p> | <p>Yes, a contract was concluded with the same JV. The scheme was based on submission of proposals for the research facility. We understand that a selection was made from five or six candidate companies. It was considered best to continue having the JV in</p> |

| | | |
|----------|--|--|
| | submission period. | question perform the work. It was therefore decided to adopt the form of a call for proposals with confirmation of participants. Proposals were accepted for a period of 20 days, in accordance with the Institute guidelines. |
| Watanabe | In relation to the sheet for reasons for enterprise specification, I would like to know if this JV submitted a proposal. Was this JV selected as a specified enterprise? Was an attempt made to see if any other enterprises were interested? | No proposal was submitted in connection with the current contracting. Yes, the JV was selected as a specified enterprise. |
| Kusunoki | If there is another business interested in participating, will a shift be made to a proposal format and competitive tender? | Yes, such a shift will be made. |
| Katsuno | While there was no other enterprise that expressed a desire to participate, how many inquiries were received by other enterprises? | There were no such inquiries. |
| Kusunoki | This JV formulated the master plan and has the best understanding of the project, so it makes sense to have it participating throughout. But an outsider would want | In regard to the design fee, we referred to the guidelines of the Ministry of Land, Infrastructure and Transport, and added up the component costs based on |

| | | |
|------------------------|---|---|
| | <p>to know why the same enterprise is continuously chosen to take part. This explanation would have to give them an understanding of why this particular enterprise is the one.</p> <p>Next, there are the questions of whether or not the contract conditions make good sense and of the nature of the grounds for the projected price. The construction cost is fixed first, and then it is decided to have a business do the design. The design cost projection is solidified upon estimates of the requisite fixed-cost labor and the requisite level of skills. If a rational explanation can be provided for these areas, then the contract conditions will also be rational.</p> | <p>the construction cost figures.</p> |
| <p>Chairman Nozato</p> | <p>In connection with the secretariat's reply to the question by Committee Member Kusunoki, all of the related documents shall be securely kept as a record.</p> <p>In this case, the Institute applied a competitive procedure, but there was only one entrant, and so we contracted with</p> | <p>The related documents shall be kept as a record.</p> |

| | | |
|--|---|--|
| | the JV in question. From the explanation, I take it that the format is one of negotiated contracts. | |
|--|---|--|

3. Contract cases after inauguration of the contract review committee

The secretariat explained certain matters, as follows.

- At the third meeting of the committee (on March 1), the members deliberated on cases of contracting up to November 2009.
- At the current meeting, explanations will be made for cases of contracting after inauguration of the contract supervision committee.
- From now on rechecks will be requested after the contract. The recommendations and indications by the committee member have been reflected in the contracting work.
- We have been carrying out public activities, including website display of the schedule for procurement at a stage preceding notice of the tender, placement of notices in scientific journals and other specialized journals directed to businesses handling physicochemical apparatus, and promotion of electronic registration for tenders.

The opinions and comments of the committee members were as follows.

| | Opinions and comments | Explanation etc. by the secretariat |
|----------|---|---|
| Kusunoki | The open competitive tender for purchase of a chemiluminescence detection system (No. 18) attracted two entrants, but the price offered by both was the same right down to the yen. Why was this? | In the case of equipment, there is a fixed price. In addition, we made inquiries to determine the record (discount rates) for sale to other institutions (universities) as well as to obtain data on matters such as the past record at the Institute and reference estimates. The findings were used to arrive at a reasonable figure taken as |

| | | |
|----------|--|---|
| | | the projected price. |
| Odo | Was this contract awarded after only one tender, or were there second or third tenders held? | It was awarded after one tender. |
| Kusunoki | I can understand how the figure would match to a tee in the case of a single bidder, but with two bidders, the situation is hard to understand based solely on this table. The secretariat must be able to explain the background factors. | We shall make a separate report on the background factors and particulars. |
| Katsuno | For notable cases such as this one, the related documents must be put strictly in order and kept as records. | Same as above. |
| Kusunoki | For the biohazard cabinet (No. 20), the rate is 58 percent for three bidders. | For physics and chemistry apparatus, the ordinary practice is to write a product A equivalent on the specification sheet. In this case, however, two companies made bids with product A, and the contract was awarded to a third that made a bid with product B and offered the lowest price. |
| Katsuno | Is a low price level only 58 percent as high okay? Can you really trust this product? | After the bidding, the product was checked by the department that requested it and confirmed to be in conformance with the specification sheet. The |

| | | |
|----------|--|--|
| | | contracting was done only after this confirmation. |
| Watanabe | Does this case exemplify a good result from competition? Is it equivalent to a type of value engineering (VE)? Was it a case of consultation with the Institute even though the lowest bidder did not satisfy the initial specifications? Or was it one of satisfaction of the Institute's specifications right from the start, but by a different approach? | We did not expect this enterprise to make a bid. The requesting department anticipated draft chamber A, but B was proposed. In response, the department contacted the on-site people and confirmed whether or not they could confirm installation. |
| Kusunoki | So the other two enterprises made bids that were anticipated? | Yes. |
| Katsuno | In simple terms, just what is a biohazard cabinet? | It is a laboratory table that constantly continues to vent. It is a local ventilation facility with a glass door on its upper half. Reagents are mixed inside it. Researchers perform procedures by putting their hands into the cabinet. |
| Kusunoki | In regard to the question by Watanabe a little earlier, do you sometimes accept proposals for lowering costs? | The OGVM in construction is made through a VE procedure. In goods/services, upon notification of the specifications, the enterprises may come around with questions about |

| | | |
|----------|--|--|
| | | <p>the goods/services. For example, they may tell us they are capable of supplying a certain type of model with a little difference in size, and ask us if it would be acceptable to us. In some cases, we have them submit bidding sheets with catalogues or other documents attached in advance of the start of the tender. In such cases, we apply a procedure in which the requesting department makes an advance check of the sheets.</p> |
| Kusunoki | <p>That case may be close to VE, but not in respect of the procedure.</p> | |
| Nakachi | <p>Is there a significant cost for supplemental parts? How are such areas assessed? Can a shortage of parts arise if the price is lowered?</p> | <p>In this case, the other two enterprises were agencies that provide the parts after requisitioning them from the manufacturer. The one offering the lowest price provided parts of its own manufacture. The product met all of the Institute's functional requirements. With an agency involved, the manufacturer has the authority to determine the price. The lowest bidder was able to provide products of its own make, and this</p> |

| | | |
|-----------------|--|------------------------------------|
| | | enabled it to offer a lower price. |
| Chairman Nozato | These cases shall be closed upon making a record of the opinions expressed by the members. | |

4. Follow-up on the items of indication

The secretariat made an oral report on the status of work on the items of indication at the committee meetings to that point.

- In the case of purchase of specialized equipment and other such goods, bids are often made by only one enterprise. In accordance with the instruction for more active efforts to cultivate enterprises in Tokyo and the Kansai region, the Institute is encouraging bids and promoting registration with the electronic bidding system. Future plans include also more active use of industry journals and other media.
- On the subject of maintenance, it was pointed out that the total cost could be reduced by multiple-year contracting as opposed to single-year contracting. The Institute intends to apply this approach for maintenance work on the new campus beginning next fiscal year, and is preparing a climate for competition right from that year.
- For high-cost equipment, it was noted that checks should be made of the appropriateness and propriety of the related specifications. On this front, a committee has been instituted with a membership of representative researchers and administrators. It has just embarked on examinations aimed at determining the kind of procedures that should be taken, together with the rules for joint purchase by laboratories.

The opinions and comments of the committee members were as follows.

| | Opinions and comments | Explanation etc. by the secretariat |
|----------|---|---|
| Watanabe | My aspiration in attending this meeting in my capacity as a member is to help to increase the efficiency and effectiveness of procurement by the Institute, if only a little. | We will make a more specific follow-up report beginning with the next time. |

| | | |
|-----------------|--|--|
| | As such, it is vital for information on how the proposals made in this committee are being reflected and what results are being obtained to be shared in this committee. | |
| Katsuno | This is a matter of course. If it is not stipulated in the detailed stipulations, it should be explicitly inserted. | We shall consider this step. |
| Chairman Nozato | The Institute should continue to properly execute tender procedures and contracting while heeding the opinions expressed by the committee members. | We intend to continue to strive for proper execution of tender procedures and contracting. |

5. Schedule for the next meeting

The secretariat is planning to have the next meeting held around June 2010. The prospective site is Okinawa. The secretariat noted its desire to make the final decision upon coordination with the committee members.

2010年4月9日

第5回契約監視委員会議事要旨

1. 日時 2010年4月9日(金)～4月13日(火)
2. 場所 持ち回り開催
3. 出席 野里委員長、渡邊委員、郷原委員、小渡委員、楠委員、大久保委員、勝野委員、中地委員

4. 議事概要

以下の事項について、契約監視委員会へ持ち回りにより、点検・確認を要請したところ、委員の了解を得た。

点検・確認事項

- (1) 第4回(3月30日東京開催)の議事要旨
- (2) 第4回委員及び点検作業の残課題について
 - ① 変更した分類方法について
 - ② 平成20年度対象案件の再点検について
 - ③ 平成21年度対象案件の分類について
 - ④ 第4回委員会の指摘事項について
 - ⑤ 新たに設定した類型の典型例について
 - ⑥ 随意契約見直し計画について

持ち回り資料

- ・ 第4回契約監視委員会議事要旨(案)
- ・ 第5回契約監視委員会(持ち回り)資料
- ・ 委員長による分類の点検結果(最終案)
- ・ 点検の様式集
- ・ 随意契約見直し計画

9 April 2010

Summary proceedings of the fifth meeting of the contract review committee

1. Time: 9 (Fri.) - 13 (Tues.) April 2010

2. Place: Rotation

3. Attendees

- Committee Chairman Nozato
- Committee members Watanabe, Gohara, Odo, Kusunoki, Okubo, Katsuno, and Nakachi

4. Outline of proceedings

Information on the following items was handed around to the members of the contract review committee, who were requested to check and confirm said items. The members gave their approval to the same.

Items for checking and confirmation

- (1) Summary proceedings of the fourth committee meeting (held in Tokyo on March 30)
- (2) Issues remaining from the fourth committee meeting and inspecting work
 - 1) Revised method of categorization
 - 2) Re-inspection of subject cases in FY2008
 - 3) Categorization of subject cases in FY2009
 - 4) Items of indication in the fourth committee meeting
 - 5) Typical examples of newly established types
 - 6) Plan for revision of negotiated contacts

Materials handed around

- Summary proceedings of the fourth meeting of the contract review committee (draft)
- Materials for the fifth meeting of the contract review committee (held by handing around documents)
- Results of the inspection of categorization by the committee chairman (final draft)
- Collection of specifications for inspection
- Plan for revision of negotiated contracts

随意契約等見直し計画

平成 22 年 4 月

独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構

1. 随意契約等の見直し計画

1. 1. 随意契約の見直し

平成 20 年度において、締結した随意契約等について点検・見直しを行い、以下のとおり、新たな随意契約等の見直し計画を策定する。

今後、本計画に基づき、真にやむを得ないものを除き、速やかに一般競争入札等に移行することとした。

| | 平成20年度実績 | | 見直し後 | |
|------------|----------------|----------------------|----------------|----------------------|
| | 件数 | 金額(千円) | 件数 | 金額(千円) |
| 競争性のある契約 | (82.6%) 161 | (96.1%) 7,736,783 | (85.6%) 167 | (96.2%) 7,746,650 |
| 競争入札 | (76.4%) 149 | (91.4%) 7,361,475 | (80.0%) 156 | (91.5%) 7,372,917 |
| 企画競争、公募等 | (6.2%) 12 | (4.7%) 375,308 | (5.6%) 11 | (4.6%) 373,732 |
| 競争性のない随意契約 | (17.4%) 34 | (3.9%) 317,714 | (14.4%) 28 | (3.8%) 307,847 |
| 合 計 | (100%) 195 | (100%) 8,054,497 | (100%) 195 | (100%) 8,054,497 |

(注1) 見直し後の随意契約は、真にやむを得ないもの。

(注2) 金額は、それぞれ四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

1. 2. 一者応札・一者応募の見直し

平成 20 年度において、競争性のある契約のうち一者応札・一者応募となった契約について点検・見直しを行い、以下のとおり、契約の条件、契約手続き等を見直す必要があるものが見受けられた。

今後の調達については、競争性のない随意契約の削減に加え、これら結果に留意、改善しつつ、契約手続きを進めることにより、一層の競争性の確保に努める。

(平成20年度実績)

| 実績 | 件数 | 金額(千円) |
|-------------|---------------|----------------------|
| 競争性のある契約 | 161 | 7,736,783 |
| うち一者応札・一者応募 | (55.3%) 89 | (15.9%) 1,233,350 |

(注) 上段 () は競争性のある契約に対する割合を示す。

(一者応札・一者応募案件の見直し状況)

| 見直し方法等 | 件数 | 金額(千円) |
|--------------------------|---------------|----------------------|
| 契約方式を変更せず、条件等の見直しを実施(注1) | (97.8%) 87 | (99.6%) 1,228,709 |
| 仕様書の変更 | 56 | 710,169 |
| 参加条件の変更 | 8 | 312,296 |
| 公告期間の見直し | 23 | 206,244 |
| その他 | 15 | 421,103 |
| 契約方式の見直し | (1.1%) 1 | (0.1%) 1,575 |
| その他の見直し | (1.1%) 1 | (0.2%) 3,066 |
| 点検の結果、指摘事項がなかったもの | (0.0%) 0 | (0.0%) 0 |

(注1) 内訳については、重複して見直しの可能性があるため一致しない場合がある。

(注2) 金額は、それぞれ四捨五入しているため合計が一致しない場合がある。

(注3) 上段 () は平成20年度の一者応札・一者応募となった案件に対する割合を示す。

2. 随意契約等見直し計画の達成へ向けた具体的取り組み

2. 1. 契約監視委員会等による定期的な契約の点検の実施

契約監視委員会等により、競争性のない随意契約、一者応札・一者応募になった案件を中心に点検を実施。

2. 2. 随意契約等の見直し

2. 2. 1. 複数年契約の導入拡大

物品の賃貸借契約等について、複数年契約の導入を拡大する。

2. 2. 2. 仕様書の内容の見直し
保守費用と「保守契約を締結しない場合のコスト」を十分に比較検討し、結論を得る。
2. 3. 一者応札・一者応募の見直し
2. 3. 1. 複数年契約の導入拡大
毎年度継続的に発生する業務の場合、複数年契約が導入できないか検討する。
2. 3. 2. 仕様書の内容の見直し
 - a. 仕様書が、特定の製品、特定の事業者に限定されるような内容とならないよう、必要とする機能や候補機種の性能比較等を審議する仕組みを設け、原則として予定価格が1,000万円以上の案件は当該委員会によるチェックを必須とする。
 - b. 保守契約が必要な研究機器については、本体の購入時に保守契約部分も同時に入札させることを検討する。
2. 3. 3. 公告期間等の見直し
 - a. 十分な公告期間が確保されるよう留意する。
 - b. 年間契約等の場合は、円滑な業務の引き継ぎ、準備が行えるよう、落札決定から業務開始日までの期間が十分に確保されるよう留意する。
 - c. 現在行っている機構ホームページへの掲載に加え、業界団体・専門誌への情報提供を行い、周知に努める。
2. 3. 4. 入札参加要件の緩和
工事請負契約等においては、企業における同種業務の実績、配置技術者の経験年数・実績等の資格要件を緩和する。
2. 4. その他
民間研究機関が、競争性を確保するために講じている方策等を調査・ヒアリングし、有効な方法を機構の運営に反映させる

(注) 個別の契約の状況については、各様式に記載

<添付資料#23-1>

平成21年度締結 複数年度契約

| 物品役務等の名称及び数量 | 契約を締結した日 | 契約の終期 | 契約期間 | 契約の相手方の商号又は名称及び住所 | 一般競争入札・指名競争入札の別（総合評価の実施） | 予定価格 | 契約金額 | 落札率 (非表示) | 備考 | 契約金額（予定調達金額） | 応札者数 |
|--------------------------|-------------|------------|------|------------------------------------|--------------------------|-------------|--|--------------|---------------------------------|--------------|------|
| 設備管理及び警備業務一式 | 平成21年12月18日 | 平成23年3月31日 | 15ヶ月 | 沖縄ビルメンテナンス協同組合 沖縄県那覇市曙2丁目27番14号 | 一般競争入札 | 138,561,167 | 132,693,750 | 95.8% | | 132,693,750 | 2 |
| 火災保険契約 一式 | 平成22年1月15日 | 平成23年3月31日 | 14ヶ月 | 日本興亜損害保険株式会社 東京都千代田区霞が関3丁目7番3号 | 一般競争入札 | 14,910,210 | 6,280,270 | 42.1% | | 6,280,270 | 1 |
| マウス用個別換気式飼育ラック及び専用ケージの購入 | 平成22年2月4日 | 平成24年3月31日 | 26ヶ月 | エデストロムジャパン株式会社 東京都港区赤坂1-11-28 | 一般競争入札 | 108,310,412 | 個別換気式飼育ラック 2,291,289円 専用ケージ 13,041円 | 99.8% | 単価契約 予定調達金額： 108,083,220円 | 108,083,220 | 1 |
| A重油の調達 その1 | 平成22年3月5日 | 平成22年6月30日 | 4ヶ月 | 株式会社 りゅうせき 沖縄県浦添市西州2丁目 | 一般競争入札 | 25,042,500 | 58.3円/L | 87.3% | 単価契約 予定調達金額： 21,862,500円 | 21,862,500 | 3 |
| 沖縄科学技術研究基盤整備機構 清掃業務一式 | 平成22年3月9日 | 平成23年3月31日 | 13ヶ月 | 沖縄ビルメンテナンス協同組合 沖縄県那覇市曙2丁目27番14号 | 一般競争入札 | 49,966,040 | 49,770,000 | 99.6% | | 49,770,000 | 2 |

268,919,740

電子入札システムの画面(例)
Interface of electronic bidding system (examples)

添付資料#23-2

1. 進捗状況管理画面
Status management

2. 入札画面(業者側)
Bidder's interface

3. 入札結果の画面
Bidding result

開札結果

バイオハザード対策キャビネット一式の購入(電子入札対象案件)

| 順位 | 落札者名 | 落札金額 (税別) | 予定価格 (税別) | 開札 結果 | 備考 | 入札 金額 | 開札 結果 |
|----|------------|--------------|--------------|----------|----|----------|----------|
| 1 | オリエンタル技研工業 | 7,890,000 | ○ | ○ | | | 落札 |
| 2 | | 13,600,000 | × | | | | 表示 |
| 3 | | 13,600,000 | × | | | | 表示 |

開札日時: 平成21年12月21日 14時12分

開札場所: 野中 様

4. 落札決定通知書
Notification for the winner

落札通知書

平成21年12月21日

独立行政法人評議院科学技術研究費管理機構 理事長
ツドニー・ブレナー

下記の競争案件について、落札者が決定しましたので通知いたします。

記

競争案件番号: 479010001000012009121001
 競争案件名称: バイオハザード対策キャビネット一式の購入(電子入札対象案件)
 入札方式: 一般競争入札・最優価格
 開札日時: 平成21年12月21日(月)10時12分
 入札執行回数: 1回目
 落札者名: オリエンタル技研工業(株)
 落札金額: 6,284,500円(税込み)
 執行担当: 野中 様

備考:

電子入札導入後の工数縮減

| | 摘要 | 現行 工数 (人時) | 導入後 工数 (人時) | 差 導入後- 現行 | 軽減された場合その理由 | |
|----------|-------------------|---------------|----------------|-----------------|---|---------|
| 入札公告 | 入札公告作成 | 0.2 | 0.2 | 0.0 | 人時 担当者が1人で作業する ために必要な時間、概算 0.1人時=6分 | |
| | 入札説明書作成 | 0.1 | 0.1 | 0.0 | | |
| | 委任状作成 | 0.1 | 0.0 | ▲ 0.1 | | ペーパーレス化 |
| | 入札書作成 | 0.1 | 0.0 | ▲ 0.1 | | ペーパーレス化 |
| | 入札金額内訳書作成(案件により) | 0.1 | 0.1 | 0.0 | | |
| | 応札書作成(案件により) | 0.5 | 0.5 | 0.0 | | |
| | 入札伺い | 0.2 | 0.2 | 0.0 | | |
| | 入札公告のアップロード | 0.3 | 0.1 | ▲ 0.2 | 入札情報公開システムを使用 | |
| | 調達案件システム登録 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | | |
| | 参加申請書受付 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | | |
| | 資格確認審査 | 0.1 | 0.0 | ▲ 0.1 | ペーパーレス化 | |
| | 確認通知書発行 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | | |
| 入札書類の配布 | 印刷 | 2.0 | 0.1 | ▲ 1.9 | ペーパーレス化 | |
| | 入札書類電子ファイルのアップロード | 0.0 | 0.5 | 0.5 | | |
| 質疑応答 | 質問受付 | 0.5 | 0.5 | 0.0 | | |
| | 回答作成 | 2.0 | 2.0 | 0.0 | | |
| | 回答のアップロード | 0.5 | 0.5 | 0.0 | | |
| 入札締切 | 入札書締切通知書発行 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | | |
| 予定価格調書作成 | 予定価格調書作成 | 3.0 | 3.0 | 0.0 | | |
| 入札当日 | 開札 | 0.2 | 0.1 | ▲ 0.1 | ペーパーレス化 | |
| | 結果通知書発行 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | | |
| 落札通知 | 落札通知書発行 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | | |
| 入札結果の登録 | 入札結果登録 | 0.0 | 0.1 | 0.1 | | |
| 契約決議 | 契約決議書の作成 | 0.5 | 0.5 | 0.0 | | |
| 契約情報の管理 | 契約一覧表への入力 | 0.2 | 0.2 | 0.0 | | |
| | | 10.6 | 9.2 | ▲ 1.4 | | |

緑色の網掛は電子入札導入により新規に発生した作業

・入札案件1件毎に発生する作業を人時で概算。
 導入から3月末までの開札実績(21年度契約分)67件
 67×1.4人時=93.8人時 程度 工数を縮減した。

以上

給与水準の比較指標について参考となる事項

○事務・技術職員

| 項目 | 内容 | |
|-------------------------|---|---|
| 指数の状況 | 対国家公務員 | 122.8 |
| | 参考 | 地域勘案 134.0 学歴勘案 118.8 地域・学歴勘案 133.3 |
| 国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由 | <p>1. 本機構は、大学院大学の設置準備を主たる目的とし、大学院大学が設置された時には解散することとされている過渡的な組織であることから、組織のスリム化等を図るため、平成17年の設置以来、任期付職員(年俸制)及び派遣職員の活用に努めてきた。</p> <p>一方、国家公務員等との給与水準の比較指標の算定対象となる定年制職員(月給制)については、事務・技術職員の25.4%(71人中18人)(平成21年度)に抑制し、基幹となる職員を中心に充ててきた。</p> <p>このため、それに占める管理職の割合が、国家公務員の管理職割合を大きく上回っており、指数が高くなる傾向がある(本機構の定年制職員に占める管理職の割合:50%(国家公務員:概ね14.3%程度)。</p> <p>2. また、本機構は、主任研究者の半数以上を外国人が占めるなど、高度に国際的な環境の下で、平成24年度の大学院大学の開学に向けて着実に業務を遂行する体制を早期に整えることが求められてきた。このため、事務職員の採用に当たっては、民間企業等に勤務する実務経験があり、英語能力や国際的水準の専門能力を有する即戦力となる職員を中心に採用を行い、能力主義の下、年齢にとらわれず配置してきた。こうした職員を採用するためには、一定水準の雇用条件を提示することが必要である。</p> <p>(参考)事務職員(月給制)に占める民間等出身者(国/独法出身者以外)17人 修士以上8人、一級建築士1人、英語能力 ネイティブレベル2人、ビジネスレベル8人</p> <p>3. なお、定年制職員数の採用を拡大する中で、給与水準の抑制に努めた結果、指標は大幅に低下してきたところである(対国家公務員の指数は、平成18年度の145.3に比べ、22.5ポイント低下)。</p> | |
| 給与水準の適切性の検証 | <p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 99.5% (国からの財政支出額 11,229百万円、支出予算の総額 11,284百万円:平成21年度予算)</p> <p>【検証結果】</p> <p>給与水準は国家公務員の水準を上回っているが、業務拡大による人員増の中、給与水準の低下に努めている。</p> | |
| | <p>【累積欠損額について】</p> <p>累積欠損額 0円(平成21年度決算)</p> <p>【検証結果】</p> | |
| 支出総額に占める給与、報酬等支給総額の割合 | 13.9% | |
| 講ずる措置 | <p>管理者の割合: 9人 50%、大卒者以上の高学歴者の割合:94.4%</p> <p>平成22年度に見込まれる対国家公務員指数は、これまで、年齢勘案125.1、年齢・地域・学歴勘案133.5を目標値としており、1年前倒しで目標を達成したことになる。</p> <p>本機構においては、大学院大学の設置に向けた業務の拡大に伴い新規採用を行う中で、給与水準の低下が進んでいるところである。</p> <p>今後も、派遣職員や任期制(年俸制)及びパート職員の活用による組織のスリム化やERP(統合業務システム)その他の経営管理ツールの導入による業務運営の効率化に引き続き取り組む。さらに必要に応じて俸給表や諸手当の見直しを進めること等により、引き続き、給与水準の適正化に努めることとしている。</p> | |

注1:研究職員・病院医師は、該当者がいないため省略した。

| 手当名 | 国における支給内容 | 法人における支給内容 (国と異なる点) | 当機構の考え方 |
|-------------------|--|---|--|
| 俸給の特別調整 | <p>管理又は監督の地位にある職員に支給するものであり、民間でいう管理職手当に相当するが、民間企業では役職の職責手当は基本給とは別に定額で定めているのが一般的である。以前、国においては俸給月額に区分ごとの支給割合を乗じて支給する定率制となっていたため、昇級に連動して手当額が累進し、同じ役職であっても経験年数の差に応じて手当額に大きな差が生じるなど、年功的な要素の強い仕組みとなっていた。このような年功的な要素を排除し、管理、監督の地位にある職員の職務・職責を端的に反映、評価すべく、国は、平成19年4月から、職責に応じた定額制を導入している。</p> | <p>俸給月額に支給割合を乗じて支給額を算定する定率制を採用している</p> | <p>当機構では、職員の殆どを内外の民間企業等の出身者が占める中で、能力主義を採用し、年齢や勤続年数にかかわらず適材適所の配置を行う等、国や他の独立行政法人と比較して、特徴的な人材活用を行っている。このため、処遇についても、全ての職員について、当初から年功的賃金ではなく、担当する職務・職責や年度ごとの人事評価の考課ランクに応じた賃金を支給している。さらに、いわゆる年俸制を適用している任期制職員が全体の9割程度を占めており、それらの職員の給与制度との均衡を図る観点から、月給制を適用している定年制職員の俸給に関しても、個々の支給項目ではなく、支給総額が前述の職務・職責・考課結果に照らして適切であるかどうか判断される必要がある。これらの点からすると、能力主義を人事の基本方針とする当機構においては、役職の職責手当を定率とすることに合理性があるものと考えている。</p> |
| 住居手当 | <p>借家・借間又は自宅に居住する職員及び単身赴任手当受給者であって配偶者等が借家・借間に居住する職員に支給するものであり、国においては、借家・借間居住職員（月額12,000円を超える家賃を支払っている職員）に対しては最高27,000円まで、自宅居住職員に対しては2,500円（自宅の新築・購入から5年間に限る）と支給額を定めている。</p> <p>なお、平成21年8月11日の人事院勧告において、国は、自宅に係る住居手当（新築・購入後5年に限り支給、月額2,500円）は廃止するよう求められているところである。</p> | <p>国より高い支給額：任期制職員が負担する家賃（2台までの駐車場料金及び居住維持費を含む）の月額5分の4に相当する額（各々の研究を統括する立場にある代表研究者の月額の上限は160,000円）を支給</p> | <p>優秀な研究者の獲得をめぐる国際競争は大変厳しい状況にあり、世界最高水準の大学院大学の設立に向けて国際的に卓越した資質と能力を有する人材を獲得するためには、当機構の中期目標において示されているとおり、国際的に競争力ある人事・処遇制度を構築する必要がある。したがって、住居手当の支給についても、海外における研究者の住宅事情を勘案し、教授クラスの優秀な研究者が住むのにふさわしい待遇を提供する必要がある。沖縄の当機構周辺の借家事情は、東京やその他の大都市圏のように多様な物件が豊富にあるわけではなく、特に外国人向けの住居は数も限られており、家賃は大都市案件と比較して一般向けのように大幅に低廉というわけではない。月額16万円が上限の住居手当については、研究の統括をする「代表研究者」（大学の教授以上に相当）に対する手当であり、この金額は、当機構周辺にある外国人向け住宅の家賃相場を子細に調査した上で決定したものである。さらに、代表研究者は、例外なく5年間の期限付き雇用（任期制）であり、大半は海外に住居を残して赴任してきており、したがって、雇用期間の期限がない（定年制の）国家公務員に対して支払われる住居手当と単純に比較することは出来ない。なお、定年制職員に対しては、国家公務員と同額の上限月額2万7千円の住居手当を支給している。前記の内容は、本年2月、内閣府独立行政法人評価委員会分科会にも報告している。</p> <p>また、自宅居住職員に対する月額2500円の住居手当は廃止した。</p> |
| 期末手当（期末特別手当）、勤勉手当 | <p>期末手当は、民間における賞与等のうち定率支給分に相当する手当として6月1日及び12月1日に在職する職員に支給するものであり（指定職俸給表の適用を受ける職員は期末手当の替わりに期末特別手当を支給）、また、勤勉手当は、民間の職員の賞与等のうち考課査定分に相当する手当として6月1日及び12月1日に在職する職員に勤務成績に応じて支給するものである。</p> | <p>職務別加算や成績率の支給割合や、支給額算定方法が国と異なっている</p> | <p>当機構の期末手当は、業績評価及び能力評価から成る人事評価制度による5段階の考課査定の結果に基づいた本給に連動して決定されており、このため国の期末手当及び勤勉手当双方を包括したものとなっている。</p> |

シーサイドハウス施設について

| 開催日 | 期間(日数) | 参加者数 | シーサイドハウス 宿泊者数 | シーサイドハウス のべ宿泊者数 | イベント名 |
|-------------------|--------|------|------------------|--------------------|---|
| OIST主催 | | | | | |
| 2009年5月13日-15日 | 3 | 41名 | 17 | 65 | 国際ワークショップ「量子力学の基礎と応用」 |
| 2009年6月15日-7月2日 | 18 | 55名 | 37 | 702 | 国際サマースクール 「沖縄計算神経科学コース2009」 |
| 2009年9月8日-10日 | 3 | 33名 | 10 | 37 | 国際ワークショップ「強化学習の脳神経メカニズム と注意欠陥多動性障害(ADHD)」 |
| 2009年11月2日-7日 | 6 | 37名 | 19 | 132 | 国際ワークショップ「DNAトポロジー」 |
| 2009年11月9日-12日 | 4 | 57名 | 33 | 130 | 国際ワークショップ 「網膜:神経幹細胞と光受容体の変性」 |
| 2009年11月29日-12月2日 | 4 | 72名 | 30 | 121 | 国際ワークショップ 「第4回分裂と停止の細胞制御」 |
| 2009年12月7日-12日 | 6 | 46名 | 28 | 194 | 国際ウインタースクール 「生物複雑系の進化コース2009」 |
| 2010年2月23日-25日 | 3 | 21名 | 0 | 0 | 国際ワークショップ 「ガルーダ・ワン」 |
| OIST協賛 | | | | | |
| 2009年5月25-27日 | 3 | 46名 | 12 | 36 | 協賛ワークショップ 「ニューロコンピューティング研究会」 |
| 2009年6月5日 | 1 | 40名 | 0 | 0 | (協賛)ワークショップ「並列生物情報処理イニシ アティブオープンワークショップ in 沖縄2009」 |
| 2009年12月15日-17日 | 3 | 45名 | 30 | 120 | (協賛)ウインタースクール 「生体計算モデル」 |
| 2010年1月29日-2月2日 | 6 | 57名 | 22 | 132 | (協賛)学会 「第5回日中友好幾何学交流会」 |
| 合計 | 60 | 0 | 238 | 1,669 | |

●機構の施設内に宿泊施設を有する理由:

機構で主催するワークショップやセミナーは、国際的な科学者の参加を得て行われ、その研究テーマや講演資料・データに対応する必要があり、また学生と教員との間の集中的なやり取りが行われるものであることから、一般的な民間の宿泊施設においてサポートを提供することは困難である。上記のような条件に対応するには、アカデミックな環境に特化した施設が最適である。シーサイドハウスは単なる宿泊施設ではなく、世界最高水準のパフォーマンスを実現する環境を提供する本機構の基盤となるアカデミックな施設である。

内部統制に関する主な取組について

当機構においては、主に次の取組を行うこと等により、内部統制の確保・向上を図ってきたところである。

(法人のミッションの周知)

- 平成 17 年 9 月の法人設立以来、適宜、全役職員が集う会議（All-hands Meeting）の開催等を通じて、職員に法人のミッションを周知するなどにより、意識の向上を図っている。

(法人の長によるマネジメント)

- 理事長のマネジメントを補佐する組織として、エグゼクティブ・オフィスが設けられている。日々の業務に関する情報は、役員及び部長等の幹部職員が出席して毎週開催するエグゼクティブ・コミッティで共有されるほか、必要の都度、役職員から理事長に報告されている。また、理事の指示については、エグゼクティブ・コミッティや、理事、課長級以上の事務職員及び代表研究者が出席し毎月開催されるマネージャーズ・コミッティ等を通じ、職員に周知を図るとともに、進捗状況を確認している。

(厳格な監事監査の実施)

- 平成 21 年 9 月に常勤の監事が任命され、各部署からのヒアリング等を通じ、理事長等のマネジメントに留意しつつ、厳格な監査の実施に努めている。常勤監事は、必要に応じてエグゼクティブ・コミッティに参加する他、日常的に理事及び職員と必要な連絡をとっており、監査に基づく監事の所見については、随時、他の役員及び関係職員に伝達されている。

独立行政法人の内部統制について、総務省の委員会が取りまとめた「独立行政法人における内部統制と評価に関する研究会報告書」（平成 22 年 3 月）では、その目的を①法令の遵守、②業務の有効性・効率性、③資産の保全、④財務報告等の信頼性の 4 つとしており、これらの目的に応じた取組が求められている。機構では、以下のとおり、各目的に応じた取組を展開している。

(法令の遵守等の取組)

- 平成 19 年 11 月から、専担のコンプライアンス担当者（平成 21 年 3 月まではコンプライアンス担当理事長補佐、平成 21 年 4 月からコンプライアンスオフィサー）を置き、規程類の制定・変更時や一定金額以上の契約に際し、法令順守等の観点から厳格なチェックを行っている。
- 機構の内部と外部の両方に内部通報窓口を設置し、内部通報体制を強化している（内部窓口は平成 20 年 6 月、外部窓口は平成 21 年 9 月に設置）。

(業務の有効性・効率性の確保)

- 上述のエグゼクティブ・コミッティの場を通じ、職員に中期計画や年度計画等の周知を図るとともに、進捗状況を確認している。また、マネージャーズ・コミッティを月例で開催し、コミュニケーションの促進を図っている。
- 平成 21 年度から、新たな人事評価制度を導入し、OIST 全体及び部署ごとの目標に照らした業務の達成状況进行评估している。

(資産の保全のための取組)

- 知的財産について、適切な管理がなされるよう、担当職員を配置している。また、監事の常勤化（平成 21 年 9 月）や監事監査による資産利用状況の妥当性のチェックなど内部統制の強化に努めている。

(財務報告等の信頼性)

- 財務及び非財務情報に係る信頼性に留意しつつ、作成作業を行っている。また、財務状況や入札・契約手順などについて、監事によるチェック体制の強化を図っている。
- 平成 22 年度より、年度計画予算に対する毎月の執行状況を始めとする財務状況・契約状況等が、エグゼクティブ・コミッティにおいて報告・検討され、情報の共有が行われている。

平成 22 年 8 月

監事の所見の機構役職員への伝達について

常勤監事においては、平成 21 年 9 月の任命以降、常時機構の業務全般について役職員から説明、報告を受け、必要な監事としての所見、意見を随時役職員に伝達、表明してきている。

所見の伝達に当たっては、機構に常駐する常勤の監事として、形式的文書ではなく、会議や口頭での個別説明により、具体的、機動的に随時伝達し、実効性の確保を図っている。

(参考) 平成 21 年度中の指摘事項の例とその後の対応状況

- (1) 職員の業績評価が透明性及び公正性を持って行われるよう理事及び担当職員に助言し、その結果、必要な規程及びマニュアル等が整備され、国家公務員の制度に倣った新しい人事評価制度が昨年度末から導入された。
- (2) 研究者の処遇に関して、「役員及び特定の職員に関する特別の処遇に関する規程」等各種の規程、細則、ガイドライン類の整備について指導、助言した。この結果、機構としての基本的方針及び具体的内容の明確化が図られた。
- (3) 本年 4 月の組織体制の整備に向けた準備に当たっては、組織のあり方、組織規程等各種規程類の整備の必要性等について、監事としての所見を頻繁に理事及び担当職員に説明し、機構が新たな体制へ円滑かつ適正に移行するよう努めた。

なお、平成 22 年度からは、監査の実効性を高めるため、4 月から、各課、PI に対するインタビュー(合計 36 回、1 回 1～2 時間)を実施したところであり、インタビューの結果必要と思われる改善事項についてはその都度理事及び関係職員に監事所見として説明し、所要の措置が講じられるよう求めた。(新キャンパスの安全の確保対策、出張手続きの合理化等)



OKINAWA INSTITUTE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY

独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構

ホーム

OISTについて

ニュースとイベント

研究と教育

リンク

Home > OISTについて > 寄付金のお願い

Web www.oist.jp

ホーム

寄付金のお願い

OISTについて

理事長の挨拶

沿革

運営体制

事業の内容

公開情報

キャンパス

シーサイドハウス

アクセスマップ

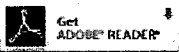
寄付金のお願い

カレンダー

ニュースとイベント

研究と教育

リンク



OISTの活動を支援する理由

OISTは、国内外の一流の研究機関との間で緊密に連携を取り合い、人々が健康で、豊かな社会を実現するために貢献し、そして遠くない将来、生命科学の分野で研究及び革新的な発明をリードする世界的な研究機関の仲間入りを果たすでしょう。

私共は、縦割り型の科学的専門分野の壁を壊し、統合された科学的なアプローチに重点を置きます。多分野にわたる研究、研究ユニット、共有資源、そしてラボ及び事務スペースのレイアウトにいたるまでこのOISTの基本的なデザインとなっております。

OISTとその研究者は最高のテクノロジーと設備を開発し使用することを熱望しております。革新的な科学的装置とサービスまたはプロバイダーは、OIST及びその動機付けされた優秀でそして既定概念にとらわれない他分野から集まったチームを思想的な実験の場として見いだすことでしよう。また同時に、OISTへの寄贈者や支援者は、未開拓の分野の発見と融合を促し、明のあるプロジェクトへのサポートを行うことになります。

またOISTはその大学院生に対し先進的な研究及び、従来型の縦割り組織ではなく柔軟で融合された組織を提供することで、問の世界で成功モデルを生み出すことに努めてまいります。

ここは既に、大学院大学を通し、英語を共通言語とした、日本、アジアそしてその他の世界に開かれた完全に国際的な環境としてより経験のある研究者は、OISTを真にユニークで、かつ名声のある大学または産業界が求める科学的、知的スキルを出来る場所として位置づけております。

強固なR&Dに関心を持つ国際的な組織には、OISTで得た経験によりカウンターパートとの間の関係に貢献することが期待可能な将来の協力者を訓練する比類なき場所として、OISTをご支援、後押ししていただくことを期待致します。OISTとその国際人はラボ、ソフト及びコミュニケーションにおける新しいテクノロジーの理想的な実験の試みであります。

研究者及びその家族への援助は重要で、移転時の補助、子供への支援、学校、文化体験、言語研修及び通訳、そして寄贈ご厚意及び有志によって提供されたその他の支援など様々な形で表されます。OISTは既に50カ国以上から研究者が集まるの方々、研究活動や将来傑出した経験と国際的な人的つながりをもって帰国する学生や研究者に直接支援を望まれません。

OISTは沖縄経済の転換を促す使命を持っております。そして私共の研究活動を沖縄における事業及び産業クラスターの創出を目標としております。OISTは確固たる意志を持った勇敢な投資家、そして革新的で起業精神あふれる研究者と構築していくことを確約いたします。

沖縄経済財界及び国内投資家の皆様には才能を持った新しい、そして国際的な人材を魅了するニューエコノミー及び豊かな者としてOISTの立ち上げに是非ご参加いただきたいと考えております。

お問い合わせ窓口

OISTの創業と成功のため、寄付金又は現物贈与によるご支援にご関心をお持ちの個人の方、または企業等のご担当者はお問い合わせ窓口

吉川 武晴

Mail : ext.funding#oist.jp

メール送信の際は、#を@に置き換えて下さい。または098-966-8711までご連絡ください。

人事評価制度の概要

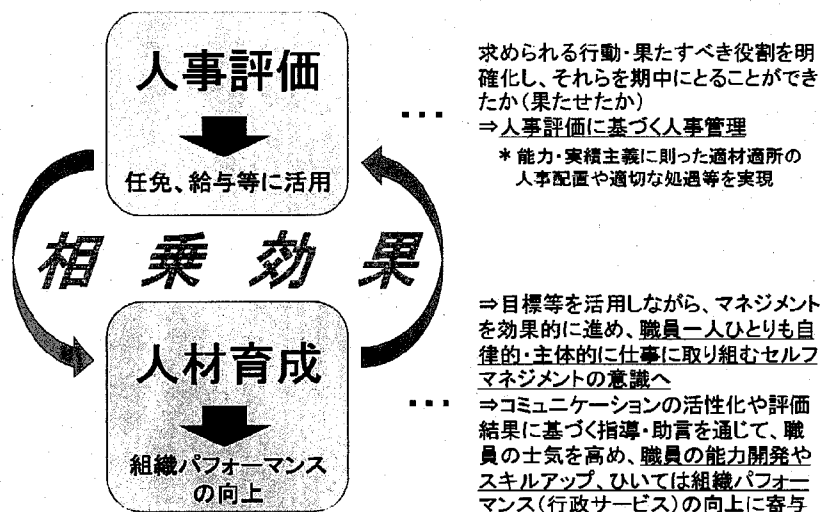
1. 人事評価の意義と必要性

◇ 人事評価は、前述のとおり、能力・実績主義の人事管理の基礎となるツールであるとともに、個々の職員の側からみれば、自らの強み・弱みを把握して自発的な能力開発等を促すことにもつながるなど人材育成の意義も有しています。

◇ 人事評価を適切に実施するためには、評価者が、それぞれの担当分野の目的、目標を明らかにすることが必要となり、職員がそれをよく理解することが求められます。さらに、評価の過程における評価者と被評価者との間のコミュニケーションを通じて、組織内の意識の共有化や業務改善等にも寄与するものと考えています。

◇ 人事評価は、これらの効果を通じ、活力ある組織の実現や効率的な事業の運営に資するものと考えています。

○ 人事評価と人材育成



2. 人事評価の仕組み

<基本的な仕組み>

◇ 人事評価は、職員がその職務を遂行するに当たり発揮した能力及び挙げた業績を把握して行われるものであり、能力の発揮状況を見る「能力評価」と、役割を明確化した上で挙げた業績を見る「業績評価」で構成しています。そして、いずれの評価も評価期間中の職務行動や業務の達成状況を評価基準に照らして、絶対評価で評価します。

<信頼性の向上を図る仕組み>

◇ 人事評価は、人事管理の基礎となるものであり、公正で透明性の高いものとし、制度に対する信頼感をもっていただくことが必要なことから、以下のような仕組みを取り入れています。

◇ 人事評価は、印象や性格といった不明確なものではなく、職務遂行に当たり実際にとられた行

動や業務の達成状況を通して判定するものであり、評価項目及び行動等もあらかじめ明示することとしています。

◇ そして、評価を受ける職員(被評価者)自身が、評価を受け身でとらえるのではなく、評価を契機として自ら主体的に能力開発に取り組んだり、業務改善等を行っていくことが重要です。このため、自らの行動や業務の達成状況等を振り返る機会として自己申告を行います。被評価者は、自己申告(評価を行う者(評価者)の評価の参考となる事項を含む。)について人事評価記録書に記載し、評価者に提出します。

◇ 評価者は被評価者の自己申告(評価の参考となる事項を含む。)に基づき評価を行い、調整者による調整、実施権者による確認を経た上で、実施権者が確定した評価結果を被評価者に開示します。

◇ 評価者は、評価結果の開示が行われた後に、被評価者に対して、評価結果及びその根拠となる事実に基づく指導・助言を行うための面談を行います。

◇ また、評価に関する苦情がある場合には、各府省の人事評価実施規程において定められる苦情相談及び苦情処理により適切に対応することとしています。

◇ その他、人事評価制度が円滑に運用されるためには、運用手続を始め、人事管理の基礎となる人事評価が適切に行われることが必要です。このため、各府省のほか、制度官庁としても、運用等が統一的に行われるよう制度の周知や評価者訓練を実施していくこととしています。

3. 能力評価と業績評価

<能力評価 Value Competency >

① 評価期間

4月1日～翌年3月31日を評価期間として、毎年1回実施します。

※ 能力評価については、当該職位に求められる職務行動が安定的にとられているかどうかを評価するために一定程度の期間について観察することが望ましいこと、また、任用や昇給への活用も念頭に置いて年1回としたものです。

② 何を評価するか

能力評価は、職務遂行に当たり実際に発揮した能力を評価するものであり、職務上とられた行動(能力が現れたもの)を基に評価します。潜在的な能力や業務に関係のない能力、人格等を評価するものではありません。

③ どのように評価するか

職務上とられた行動の評価は、後述の標準職務遂行能力を有するか否かを判定できるかという観点から構成された各評価項目及び行動に照らし行います。具体的には、この評価項目及び行動は、職制上の段階及び職務の種類に応じて定められた職務上発揮することが求められる能力(標準職務遂行能力)を「求められる行動」という形で記したものであり、職員が実際に職務上とった行動が、これに該当するかどうかを見ることとなります。その際、職員のどのような実際の行動を見て判断したらよいか分かりやすくするための「着眼点」を評価項目及び行動ごとに複数個示しています。このように、評価項目及び行動で示した職務行動(求められる行動)が安定的にとられているかという観点から評価を行います。

<業績評価 Performance >

① 評価期間

4月1日～翌年3月31日を評価期間として、毎年1回実施します。

② 何を評価するか

業績評価は、職務遂行に当たり実際に挙げた業績を評価するものであり、職位に応じて当該ポストにある者が果たすべき役割を目標等の形で明確にすることによりこの達成度を基に評価します。また、そのプロセスや質的な到達水準も勘案しつつ評価します。

③ どのように評価するか

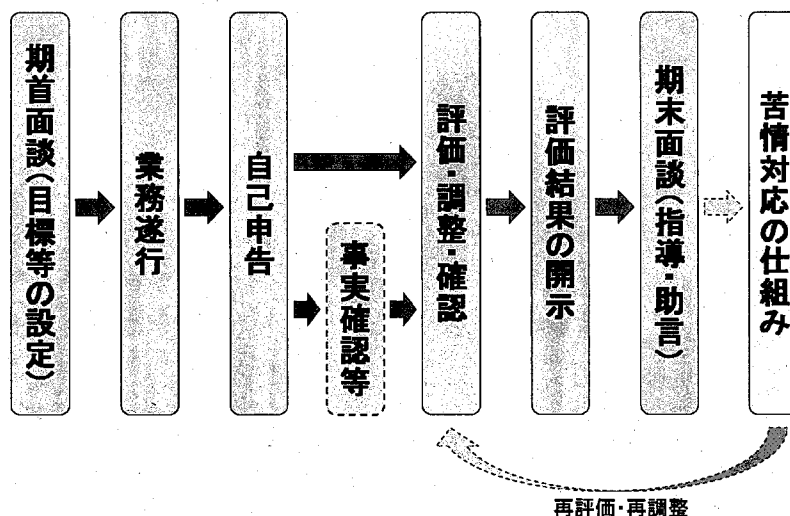
評価期間ごとに設定する目標や与えられた役割について、それがどのくらい達成されたか(貢献できたか)という観点から評価を行います。加えて、目標として掲げた業務以外に、例えば、同僚の業務への協力や突発的に対応することとなった業務への対応又は研修等についても総合的に勘案して評価を行います。

<能力評価と業績評価の関係>

◇ 能力評価は評価期間を通じて当該職位に求められる職務行動がとれていたかを評価し、その評価結果の推移を中期的に見ることにより、能力の伸長度合・獲得状況を評価するものであるのに対し、業績評価は評価期間ごとに変動し得る業務の実施結果を達成度の面から評価するものです。このように、当該職位に求められる職務遂行能力がどのように発揮され、その結果として実際に行うべき業務がどれだけ行われたか、両方の評価を適切に組み合わせることにより、一方の評価のみでは測定しにくいものも含めて、職務遂行能力の発揮状況や職務上挙げた業績がより正確に把握できると考えています。

4. 人事評価の流れ

<評価期間における評価の主な流れ>



◇ 期首面談(目標等の設定):

評価者と被評価者との面談を通じ、目標内容の明確化・認識の共有を行い、目標の設定を行います。

◇ 業務遂行:

被評価者は、設定された目標等や求められる職務行動を踏まえ業務遂行を行います。評価者は、被評価者の行動等を把握します。

◇ 自己申告:

被評価者は、目標等の達成状況や業務遂行上の行動等に関し、評価者に対して、自己申告を行います。

◇ 事実の確認等:

評価者は、必要に応じて、被評価者の自己申告の内容に関し、被評価者に対して事実確認を行うことができます。

◇ 評価・確認:

評価者は被評価者の目標等の達成状況や実際にとられた具体的な職務上の行動を踏まえて評価を行います。評価に不均衡があるかどうかの観点から調整も行います。実施権者は公正性の確保の観点等から評価結果を確認し、評価を確定させます。

◇ 評価結果の開示:

実施権者により確定された評価結果の開示が行われます。

◇ 期末面談:

評価者は、開示された結果に基づき、被評価者に対して指導・助言を行います。

◇ 苦情対応の仕組み:

必要に応じて、評価結果に対する苦情等に対応する仕組みです。

平成21年度講演及びイベント実績

<添付資料#46-1>

(講演)

| No | プログラム | 日付 | 場所 | 主催 | 内容 | 講演者 | 備考 |
|----|----------------------------|------------|-----------------|---------------------|--|--------------------------|----------------------|
| 1 | OIST講演会 | 2009/4/15 | 恩納村総合保健福祉センター | OIST | ①OIST概要(理事)、②佐藤先生講演(わたしたちの美ら海) | ①ロバート・バックマン理事 ②佐藤矩行博士 | 100名 |
| 2 | 在沖米商工会議所総会 | 2009/4/3 | ラグナガーデンホテル | 在沖米商工会議所 | OIST概要 | ロバート・バックマン理事 | 50名 |
| 3 | 那覇商工会議所講演 | 2009/6/24 | 沖縄ハーバービューホテルクラブ | 那覇商工会議所 | 沖縄科学技術大学院大学の将来のビジョンについて | ロバート・バックマン理事 | 100名 |
| 4 | アジア青年の家 OIST訪問プログラムの一環 | 2009/8/19 | 沖縄県工業技術センター | 内閣府 | 研究紹介 | 佐藤矩行代表研究者 | 75名 |
| 5 | アジア青年の家オープンセミナー講演会 | 2009/8/22 | 沖縄県自治会館 | 内閣府 | 講演会「脳をつくることで理解する」 | 銅谷賢治代表研究者 | 20名 |
| 6 | 同上 | 2009/8/22 | 同上 | 内閣府 | 講演会「生命科学の進展とモデル生物」 | 丸山一郎代表研究者 | 20名 |
| 7 | OIST講演会 | 2009/10/22 | 恩納村立仲泊中学校 | 恩納村村興し協議会 | 研究紹介「身のまわりにある身近な数学」 | ロバート・シンクレア代表研究者 | 90名 |
| 8 | OIST講演会 | 2009/10/26 | 恩納村立恩納中学校 | 恩納村村興し協議会 | 研究紹介「ニュージーランド内陸部のオタゴから沖縄県中部へ:研究者としての旅」 | ゲイル・トリップ代表研究者 | 112名 |
| 9 | OIST講演会 | 2009/10/29 | 恩納村立山田中学校 | 恩納村村興し協議会 | 研究紹介「自然界における自己相似性」 | ジョンサン・ミラー代表研究者 | 70名 |
| 10 | OIST講演会 | 2009/11/10 | 恩納村立安富祖中学校 | 恩納村村興し協議会 | 研究紹介「自然界における会社と社員～生物間の協調～」 | ホルガー・イエンケコダマ代表研究者 | 安富祖中学校53名、喜瀬武原中学校12名 |
| 11 | 科学実験教室 | 2010/2/28 | 那覇市久茂地公民館 | 沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議 | 科学実験教室「くだものからDNAをとりだそう!」 | メリー・アン・ブライス代表研究者及び研究スタッフ | 47名 |
| 12 | 第3回英語教育を考えるフォーラムin Okinawa | 2010/3/20 | 浦添市産業振興センター | 沖縄の英語教育を考える実行委員会 | OIST概要 | 総務課課長補佐 照屋友彦 | 10名 |

(イベント)

| No | プログラム | 日付 | 場所 | 主催 | 内容 | 講演者 | 備考 |
|----|----------------------|---------------|----------------|---------------------|--|-----|------|
| 1 | おんなまつり | 2009/7/18,19 | 恩納村コミュニティセンター | 恩納村 | ブース展示(キャンパス模型、ポスターパネル、OIST概要DVD上映) | | |
| 2 | アジア青年の家 | 2009/8/22 | 沖縄県自治会館 | 内閣府 | ブース展示(キャンパス模型、ポスターパネル、OIST概要DVD上映) 研究ポスター展示 | | 76名 |
| 3 | 第33回沖縄の産業まつり屋内展 | 2009/10/23-25 | 沖縄県立武道館 | 沖縄の産業まつり実行委員会 | ブース展示(キャンパス模型、ポスターパネル) | | |
| 4 | OIST OPEN HOUSE 2009 | 2009/11/15 | 沖縄県工業技術センター | OIST、沖縄県 | PIIによる講演、実験デモンストレーション、パネル展示、ラボツアー | | 471名 |
| 5 | OIST パネル展示会 | 2010/3/15-26 | 沖縄総合事務局行政情報プラザ | OIST | キャンパス模型、ポスターパネル展示 | | 287名 |
| 6 | OIST パネル展示会 | 2010/3/19-29 | モノレール県庁前駅 | 沖縄科学技術大学院大学設置促進県民会議 | ポスターパネル展示 | | |

OIST オープンハウス 2009



11/15日 入場無料

場所: 沖縄県工業技術センター
時間: 10:00~16:00

沖縄県恩納村に設立準備が進められている
沖縄科学技術大学院大学。
小中学生をはじめとした
地域の皆様に研究活動の一部を
楽しくわかりやすくご紹介します。

当日は嬉しい
プレゼントも
あるよ!

科学の世界って
おもしろい!



講演会(10:30~11:30 / 13:30~14:30)

- ① 数理生物学ユニット 代表研究者 ロバート・シンクレア博士
「身のまわりにある身近な数学」
- ② 海洋生態物理学ユニット 若手代表研究者 御手洗哲司博士
「OISTにおける海洋環境科学の研究」
- ③ 細胞膜通過輸送研究ユニット 研究員 ユン・ヨンホ博士
「タンパク質立体構造の視覚化」

ラボツアー(11:45~12:30 / 14:45~15:30)

※ラボツアーへの参加は各回60名まで。当日受付でお申し込み下さい。
各ツアー出発時間の1時間30分前に抽選を行い、参加者を決定します。

研究内容の展示および科学実験のデモンストレーション

- ① 「命の設計図: 果物からDNAを取り出してみよう」
- ② 「細胞の“増えない”しくみと栄養」
- ③ 「海の生き物をゲノムで探る」
- ④ 「ネズミ型ロボットの“脳”を作る」
- ⑤ 「脳の中のプログラムを解読する」
- ⑥ 「緑色蛍光タンパク質(GFP): 光る魚、ハエ、虫を見よう!」
- ⑦ 「脳神経活動のイメージング」



(交通規制のご案内)
当日は中部トリムマラソンの開催に伴い、具志川ジャスコ前の交差点方向から進入できないなど、会場周辺で一部交通規制(8:20~11:40)があります。現場の誘導員の指示に従って下さい。

無料送迎バスのご案内
県庁からイベント会場まで無料送迎バスを運行します。下記へお申し込み下さい。なお、定員(バス1台につき60名)に達し次第締め切りとさせていただきます。
【行 き】 集合場所: 県庁前広場(パレット向かい)
出発時間: 8時50分、12時00分
【帰 り】 集合場所: 沖縄県工業技術センター(イベント会場)
出発時間: 13時30分、16時15分
【申込先】 沖縄県科学技術大学院大学設置促進県民会議
(沖縄県科学技術振興課内) 電話 098-866-2560

主催: 独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構
沖縄科学技術大学院大学設置推進県民会議
共催: 沖縄県
お問い合わせ: 独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構
TEL.098-966-8711(代表)